

2024年度

シ ラ バ ス

桐生大学短期大学部

生活科学科

講義コード	30010001	
講義名	生活活動論	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	1	
代表曜日	月曜日	
代表時限	2 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	公認スポーツ栄養士としての栄養サポート経験、中央競技団体の医科学部長、スポーツ栄養や健康に関連する企業等での実務経験を基に、スポーツウエルネス社会で活かすことができる知見を得られる内容を展開する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	清野 隼	指定なし

授業の概要と教育目標

日常生活の中で行われる活動（家事や労働、就学等）、そしてトレーニングや競技スポーツなども含めた運動が、人間のからだに及ぼす影響を包括的に学び、その影響に応じた栄養補給の考え方を理解する。また、実際の社会で起こっている環境変化に伴う活動や行動の変化、栄養補給の変化を理解し、望ましい生活の在り方を自ら描くことを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーに基づき、「人間のからだ」「食品」「栄養」、そして生活や運動を含めた身体活動、社会環境がそれぞれ相互に影響し合っていることを理解する。さらに、運動と栄養に関連する科学的根拠に基づいた理論も修得し、多様な生活活動、運動、競技スポーツ等の栄養管理に応用することができるように、その基礎を学ぶ。

到達目標

一般生活活動、運動、競技スポーツ、そしてそれらに影響を与える社会や環境の変化を踏まえて、栄養補給の在り方を栄養士として提供できること。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	清野 隼	授業概要のオリエンテーション（授業の進め方、成績評価、主旨説明、課題の提示など）	アンケート：一般生活活動、運動、競技スポーツ、そしてそれらに影響を与える社会や環境の変化について、興味を抱いていることや理解を深めたい事について意見交換し、まとめる。	予習90分：一般生活活動、運動、競技スポーツ、そしてそれらに影響を与える社会の変化について、自身の興味を持っていることを整理する。 復習90分：グループディスカッションの内容を整理する。

第2回	清野隼	社会・環境に伴う生活活動の変化 (Key word) 社会・環境・生活変化の連鎖、社会イノベーション	キークエスチョンに対する小レポート作成とグループディスカッション。	予習90分：未来の起こり得る社会・環境変化について考えて整理する。 復習90分：グループディスカッションの内容を整理する。
第3回	清野隼	運動とエネルギー代謝 (Key word) エネルギー代謝、運動様式、エネルギー産生栄養素	キークエスチョンに対する小レポート作成とグループディスカッション。	予習90分：運動とエネルギー代謝について学習し、疑問点を明らかにする。 復習90分：授業中に提示されたミニレポート課題を確認する。
第4回	清野隼	エネルギー出納の理論と実際(1) (Key word) 運動、身体活動、消費エネルギー量、モニタリング、DX	キークエスチョンに対する小レポート作成とグループディスカッション。	予習90分：消費エネルギー量を測定できる方法を学習し、疑問点を明らかにする。 復習90分：授業中に提示されたミニレポート課題を確認する。
第5回	清野隼	エネルギー出納の理論と実際(2) (Key word) 食事、栄養補給、摂取エネルギー量、モニタリング、DX	キークエスチョンに対する小レポート作成とグループディスカッション。	予習90分：摂取エネルギー量を測定できる方法を学習し、疑問点を明らかにする。 復習90分：授業中に提示されたミニレポート課題を確認する。
第6回	清野隼	運動栄養と身体の変化(1)健康	キークエスチョンに対する小レポート作成とグループディスカッション。	予習90分：運動栄養と身体の変化に関することを、健康の観点から学習し、疑問点を明らかにする。 復習90分：授業中に提示されたミニレポート課題を確認する。
第7回	清野隼	運動栄養と身体の変化(2)競技スポーツ	キークエスチョンに対する小レポート作成とグループディスカッション。	予習90分：運動栄養と身体の変化に関することを、競技スポーツの観点から学習し、疑問点を明らかにする。 復習90分：授業中に提示されたミニレポート課題を確認する。
第8回	清野隼	授業のまとめと小論文試験	1回目から7回目までの課題をまとめ、小論文を書き上げる。	予習90分：小論文試験のための準備を行う。 復習90分：小論文に対するフィードバックコメントを確認し、該当単元を確認する。

教科書

授業で適宜プリントを配布する。

参考書
授業で適宜プリントを配布する。 または、適宜参考書を紹介する。
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上 提出物：50%、小論文試験：50%
課題等に対する フィードバックの方法
課題や発表に対してコメントをフィードバックする。
履修のポイント
運動生理学や健康スポーツ栄養学に関する知識に関連する内容を取り上げる。また、生活活動全般に関連する社会変化について、興味を持って事前に調査しておくが良い。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前、または終了後に受け付ける。ただし、この時間帯以外でも研究室にて適宜対応する。
科目区分
専門科目

講義コード	30020001
講義名	公衆衛生学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	川上 智史	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆衛生学は患者のみならず健康人も含めた人口集団を対象とする。現在、平均寿命と健康寿命の延伸が問題となっている中で、予防医学は国としても力を入れている。そこで本科目においては予防医学さらに社会福祉まで含めた広範な公衆衛生・地域保健活動の知識と実践を必要とする。そのために予防医学、保健統計、疫学、環境保健、母子保健、精神保健、地域保健、学校保健、産業保健、公衆衛生の国際協力を含めて総合的に学習する。また、授業を通じて治療のみならず予防医学の重要性について理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシー「2.生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことから、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している。」に関連する科目として、特に栄養士に必要な知識・技術を理解していくため、「社会生活と健康」に関して幅広く学ぶ。

到達目標

1. 健康の概念が理解できる。
2. 人口静態・動態が理解でき、今後の健康教育の問題点について考えることができる。
3. 疫学の概念が理解できる。
4. 地域・母子・小児保健が理解できる。
5. 成人保健・老人保健が理解できる。
6. 精神保健の歴史と現状が理解できる。
7. 学校保健について理解できる。
8. 環境保健・産業保健が理解できる。
9. 感染症の流行について理解できる。
10. 国際保健協力の仕組みと現状が理解できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間

第1回	川上智史	オリエンテーション 公衆衛生学とは、病因論、三つの予防 憲法第25条、WHOの健康の定義	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：公衆衛生学とは何か、予防をするためにはどのようなことが必要なのかについてまとめておくこと。 復習90分：憲法第25条およびWHOの健康の定義について理解をし、日本は健康の維持増進を行うためにどのようなことを行っているのかについて理解すること。
第2回	川上智史	人口静態・人口動態 国勢調査、日本の人口問題	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：人口静態と人口動態の違いについてまとめておくこと。 復習90分：人口静態統計と人口動態統計の違いについて資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第3回	川上智史	生命表と生命関数、疫学	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：生命表とは何か、疫学にはどのようなものがあるのかまとめておくこと。 復習90分：生命表と生命関数、疫学について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第4回	川上智史	地域保健、母子保健、小児保健	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：地域保健、母子保健、小児保健について教科書を読んで単語等まとめておくこと。 復習90分：地域保健、母子保健、小児保健について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第5回	川上智史	学校保健、成人保健	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：学校保健、成人保健について教科書を読んで単語等まとめておくこと。 復習90分：学校保健、成人保健について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第6回	川上智史	高齢者保健	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：高齢者保健について教科書を読んで単語等まとめておくこと。 復習90分：高齢者保健について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
			授業開始時に問題を配布するので、授業	

第7回	川上智史	感染症	を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：感染症について教科書を読んで単語等まとめておくこと。 復習90分：感染症について分類など配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第8回	川上智史	食品衛生・国民栄養	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：食品衛生・国民栄養について教科書を読んで単語等まとめておくこと。 復習90分：食品衛生・国民栄養について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第9回	川上智史	生活習慣病と健康	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：生活習慣病について教科書を読んでどのような疾患があるのかまとめておくこと。 復習90分：生活習慣病を引き起こすメカニズムについて配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第10回	川上智史	地球環境とその情勢	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：地球環境とその情勢について教科書を読んで現在地球温暖化等の問題があるが、なぜそのような状況に陥ったのかなどまとめておくこと。 復習90分：地球環境とその情勢について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第11回	川上智史	生活環境と健康	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：生活環境とは何かについて教科書を読んでまとめておくこと。 復習90分：生活環境について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第12回	川上智史	地域環境と健康	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：地域環境とは何かについて教科書を読んでまとめておくこと。 復習90分：地域環境について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
	川		授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の	予習90分：社会保障と社会福祉にはどのようなものがあるか教科書を読んでまとめておく

第13回	上智史	社会保障と社会福祉	意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	こと。 復習90分：社会保障と社会福祉について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第14回	川上智史	精神保健と障害者福祉	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：精神保健と障がい者福祉にはどのようなものがあるか教科書を読んでまとめておくこと。 復習90分：精神保健と障がい者福祉について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。
第15回	川上智史	産業保健、国際保健	授業開始時に問題を配布するので、授業を聞きながら問題の意味を理解すること。 また、適宜ディスカッションの時間を取り入れ理解を深める。	予習90分：産業保健と国際保健にはどのようなものがあるか教科書を読んでまとめておくこと。 復習90分：産業保健と国際保健について配布資料と教科書を照らし合わせながら理解すること。また教科書本章の最後についている練習問題を解いておくこと。

教科書

よくわかる専門基礎講座 公衆衛生 2024年度版 第15版

参考書

必要に応じてプリントを配布する。

辻・吉池編『社会・環境と健康 改訂第6版』 南江堂

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上、定期試験(100%) で評価

課題等に対する フィードバックの方法

授業中に確認の問題を課す場合、授業中に解説を行う。本問題については確認のため、成績評価には反映しない。

履修のポイント

公衆衛生学は予防医学を学ぶ上で重要な科目である。法律用語等多く出てくるので、教科書を活用しながら理解を行うこと。また教科書のチャプターにおいて復習問題が記載されているので、理解度を確認し、わからないところがあれば知識を定着させるように復習をすること。

オフィス・アワー

水曜日を除く平日10：00～17：00、11号館12研究室にて対応。また授業の前後でも対応可。

科目区分

専門科目

講義コード	30030001
講義名	食品学実験II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	4 時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

食品群の種類及び分類について学習し、それぞれの食品の持つ特色について理解し、これらを基本とした食品成分の性質について実験によって分析した学習を行う。
 栄養士としての食品の化学的特性と機能を理解し、その性質分析方法の基本操作を身に着ける。併せて食品に対しての興味と多方面からのアプローチができる考え方を育てるようにする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品に関する基本的な事柄からはじめた関連学修事項を、科学的根拠に基づいて理解する。

到達目標

- ・食品成分表に基づく食品群の種類分類を理解する。
- ・食品学の授業で学習した事項について、科学的根拠に基づいた理解をできるようにする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	実験室の取り扱いについて レポート（ノート） の書き方説明	食品に関する情報トピックスに関して、興味を持つ内容の意見・情報交換を行う 食品学実験Iで学んだ食品成分の分析法を復習し、食品成分表を基に群別分類を再度学ぶ 食品をとりまく現況や問題のトピックスを挙げて、食品に持つ意識を確認する	予習30分（1年後期履修・食品学実験Iの内容おさらい） 復習60分（オリエンテーション内容について、ノートの準備）
第2回	米の種類・品質・搗 精度合の判定試験		予習30分（米について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）

第3回	小麦粉の種類別試験 (乾麩・湿麩量) 食塩とかん水が小麦粉に与える影響について		予習30分(小麦粉とグルテンについて; 食品学の教科書おさらい、実験書を読む) 復習60分(ノート作成)
第4回	卵白溶液の凝固試験 (アミノ酸の定性試験) 加熱による卵の凝固観察		予習30分(卵の成分について; 食品学の教科書おさらい、実験書を読む) 復習60分(ノート作成)
第5回	豆乳が凝固する要素の実験(凝固剤・温度による違い)		予習30分(大豆製品について; 食品学の教科書おさらい、実験書を読む) 復習60分(ノート作成)
第6回	果物に含まれるたんぱく質分解酵素の働き 寒天とゼラチンの性質の違い		予習30分(寒天とゼラチンの性質について; 食品学の教科書おさらい、実験書を読む) 復習60分(ノート作成)
第7回	溶液濃度と試薬の調製 次回授業の内容予習 (水酸化ナトリウム水溶液の調製) 【課題】溶液濃度調整の計算問題 配布プリントに記入→次週ノートと一緒に提出		予習30分(前週に配布する資料(溶液濃度)を読んでおく) 復習60分(課題プリント ノート提出準備の確認)
第8回	0.1N-水酸化ナトリウム水溶液の調製 中和滴定による力価の測定 【課題】ノート提出; チェック内容第1~7回授業の記録 毎回提出後返却された実験報告書が貼付されている事		予習30分(前週講義内容のおさらい) 復習60分(後日返却するノートの内容確認および記録)
第9回	ヨーグルト中の酸度の定量(中和滴定)		予習30分(乳と乳製品について; 食品学の教科書おさらい、実験書を読む) 復習60分(ノート作成)
第10回	100%果汁中の有機酸の定量(中和滴定)		予習30分(果物と有機酸について; 食品学の教科書おさらい、実験書を読む) 復習60分(ノート作成)
第11回	醤油の塩分濃度の定量(沈殿滴定法)		予習30分(調味料と含有塩分量について; 食品学の教科書おさらい、実験書を読む) 復習60分(ノート作成)
第12回	牛乳中の脂肪量(ゲルベル法)とSNF(バブcock法)の		予習30分(牛乳の成分について; 食品学の教科書おさらい、実験書を読む)

	測定		復習60分（ノート作成）
第13回	酵素的褐変の定性試験（じゃが芋・りんご） 非酵素的褐変の定性試験（アミノ・カルボニル反応）		予習30分（食品の変質（主に褐変）について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第14回	添加材料の違いによるパンの製造試験 次週の実技試験内容予告	食品分析実験を学習してきた視点からの情報トピックスに関して、興味を持つ内容の意見・情報交換を行う 小麦粉製品の製造を通して、他講座（食品学、栄養学、調理学および実習）で学んできた内容の関連を理解する	予習30分（パンの製造について；食品学の教科書おさらい、実験書を読む） 復習60分（ノート作成）
第15回	実験操作の実技試験 授業ポイントのおさらい 【ノート提出の予告】期末試験の会場にてノート提出； チェック内容第8～14回授業の記録 毎回提出後返却された実験報告書が貼付されている事		予習30分（実技試験内容の確認、前回までの授業内容記録を確認しておく） 復習60分（授業内容とノート記録の確認）

教科書

食品学実験書（生活科学科オリジナル）
授業項目に付随して、補足資料の配布も行う。

参考書

食品学（1年次履修授業）で使用した教科書
食品成分表（香川明夫監修・女子栄養大学出版社）
NEW調理と理論（山崎清子 他著・同文書院）

成績評価の方法・基準

認定単位60点以上
筆記試験80%、提出物（ノート）10%、授業への参加度（実技試験含む）10%

課題等に対する フィードバックの方法

毎回実験結果の報告書を配布するので、記入後授業終了時に提出する。
確認後返却されたらノートに添付し記録としてまとめる（ノート提出時に再度確認あり）。

履修のポイント

授業中の積極的な取り組み（講義および実技）を必要とする。
食品学実験I（1年次履修科目）から引き続いての食品関連実験であるので、実験Iで学習してきた内容を復習して実験IIの授業に活用してほしい。

オフィス・アワー

月・火曜日、12:30～13:20、9号館3階第8研究室

科目区分

専門科目

講義コード	30040001	
講義名	応用栄養学	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	木曜日	
代表時限	2 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	病院・福祉施設、研究機関等の管理栄養士としての実務経験に基づき、栄養アセスメント、栄養介入方法などの基礎知識と実際について講義を行う。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	大野 治美	指定なし

授業の概要と教育目標

人が誕生してから一生を終えるまでの間の成長・発達、加齢にともなう人体の構造や機能の変化、栄養状態等の変化について理解し、健康増進・疾病予防に寄与する栄養素の機能、健康に影響するリスクの管理について基本的な考え方や方法を学修する。なお、本科目を学ぶ上で、人のライフステージはその人生の積み重ねで成り立っていることを理解しながら学習を進め、体のさまざまな状況の変化に対応できる栄養ケア・マネジメントを身につけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として「人体の構造・機能」と「栄養・健康」に関する学習を総合的に理解し、栄養士として活躍する現場において、各ライフステージに適応した栄養管理を効率よく的確に実践するための基本的な知識や技術の修得を目指すものとする。

到達目標

1. 各ライフステージにおける身体状況や栄養状態に応じた栄養管理について説明できる。
2. 健康増進や疾病予防に寄与する栄養管理を修得することができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	大野 治美	オリエンテーション 応用栄養学での学びと本授業の概要 栄養ケア・マネジメントの概念		予習90分：教科書を読んで初回授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。

第2回	大野治美	栄養ケア計画の実施、モニタリング、評価、フィードバック 課題：栄養アセスメント演習	栄養アセスメントの事例を通して、栄養ケア計画についてディスカッションを行う。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第3回	大野治美	食事摂取基準の基礎的理解	食事摂取基準の基礎理論と活用法についてディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第4回	大野治美	妊娠期・授乳期(1)生理的特徴	妊娠期・授乳期の母体と胎児の生理的特徴、性周期、母乳分泌の機序についてディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第5回	大野治美	妊娠期・授乳期(2)栄養アセスメントと栄養ケア	妊娠期・授乳期に起こりやすい栄養学的問題とその評価法・解決法についてディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第6回	大野治美	新生児・乳児期(1)生理的特徴	母乳と人工栄養の特徴、調乳方法、乳児期の栄養補給法に関して学ぶ。離乳の目的、離乳の進め方についてディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第7回	大野治美	新生児・乳児期(2)栄養アセスメントと栄養ケア	新生児・乳児期に起こりやすい栄養学的問題とその評価法・解決法についてディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
				予習90分：教科書を

第8回	大野治美	成長期（幼児期、学童期、思春期）(1) 生理的特徴	成長期（幼児期、学童期、思春期）における成長・発達の過程についてディスカッションする。	読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第9回	大野治美	成長期 (2) 幼児期の栄養アセスメントと栄養ケア	幼児期の発育・発達とその評価法を学び、幼児期に起こりやすい栄養学的問題として特に食物アレルギーについてディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第10回	大野治美	成長期 (3) 学童期・思春期の栄養アセスメントと栄養ケア	学童期および思春期の成長・発達の特徴と、アセスメント法についてディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第11回	大野治美	成人期・更年期 (1) 生理的特徴	成人期の身体的特性、食生活の特徴から生活習慣病のリスクに関してディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第12回	大野治美	成人期・更年期 (2) 栄養アセスメントと栄養ケア	成人期の生活習慣病の現状について学び、その予防・対策についてディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第13回	大野治美	高齢期 (1) 生理的特徴	老化のメカニズムや高齢期の生理的特徴（咀嚼・嚥下機能、消化吸収、代謝の変化）についてディスカッションする。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
			高齢期の栄養上の特徴および栄養障害とそのケ	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨

第14回	大野 治美	高齢期(2) 栄養アセスメントと栄養ケア	アについて理解する。低栄養の予防、フレイル、サルコペニア、ロコモティブシンドローム、嚥下調整食・介護食などについてディスカッションする。	むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。
第15回	大野 治美	まとめ（トピックス）	授業のまとめと栄養トピックスについて紹介する。	予習90分：教科書を読んで、疑問点を明らかにして授業に臨むこと。 復習90分：配布資料を見直し、教科書を基に重要事項を整理し、復習をしておくこと。

教科書

Nブックス 五訂 応用栄養学〔第2版〕:津田博子・麻美直美 編著 建帛社
ISBN:978-4-7679-0721-5

参考書

日本人の食事摂取基準 2020年版:伊藤 貞嘉・佐々木 敏 監修 第一出版
ISBN:978-4-8041-1408-8

必要に応じてプリントを配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上
筆記試験 90%、課題・提出物など5%、授業への取り組み姿勢5%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内容の理解度を把握するため、各單元ごとに復習を目的とした確認テストや課題提出を行うことがある。授業内容の理解度に応じて、フィードバックを行う。

履修のポイント

「応用栄養学」で学ぶ内容は多岐にわたる。ライフステージごとの特性を理解し、日常の食生活に対する考えや、疑問に思うことを質問できるよう、積極的に授業に取り組むことを期待する。

オフィス・アワー

火・水・木の昼休み 11号館 研究室14にて対応するほか、授業の前後においても質問に対応する。

科目区分

専門科目

講義コード	30050001	
講義名	応用栄養学実習	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
代表曜日	水曜日	
代表時限	3 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教 員	五十嵐 桂子	指定なし
教員	井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

人間が健康で生きていくためには、よりよい生活習慣を確立することが大切である。ライフステージ別に応じた栄養の特性を理解、ライフステージに応じた献立作成と調理法や実践的な指導法を学び、栄養ケア・マネジメントを習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

栄養学・食品学・栄養指導論を基礎として、
・体のしくみ・食品・栄養に関する基礎の理解と相互作用について理解できている。
・体のしくみ・食品・栄養に関する総合的な理解することで、健康・栄養にかかわる現場で実践的な活用できる能力の修得することを目指す。

到達目標

- ①栄養素と健康について説明ができる。
- ②献立作成、作成と実施（出来上がり）の基礎の習得。食事計画・調理・評価
- ③栄養素の消化吸収について説明ができる。
- ④ライフステージ別の栄養管理の理解と実践的な活用・展開ができる。評価・計画・実施

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために 必要な時間
第1回	五十嵐桂子 井桁	ガイダンス 栄養ケア・マネジメント 食事摂取基準	自分自身の食事状況の評価及び改善点をレポートにまとめる	予習：教科書の該当箇所を読む（45分） 復習：配布プリントを

	千恵子			見直す (45分)
第2回	五十嵐桂子 井桁千恵子	妊娠期・授乳期の 栄養管理 1	妊婦の病態と疾患 妊娠期・授乳期の生理的変化から栄養状態の評価や 栄養管理法をまとめる	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
第3回	五十嵐桂子 井桁千恵子	妊娠期・授乳期の 栄養管理 1・ 2	妊娠期の献立作成 妊娠期にみられるトラブルに対応した献立を作成 「妊婦のための食生活指針」「食事摂取基準」を基 に作成	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
第4回	五十嵐桂子 井桁千恵子	乳児期の栄養管 理 1 (調乳) 実習	離乳食初期・中期・後期の展開食	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
第5回	五十嵐桂子 井桁千恵子	乳児期の栄養管 理 2	離乳食 中期・後期・完了期 離乳食の献立作成	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
第6回	五十嵐桂子 井桁千恵子	乳児期の栄養管 理 3 調理実習	作成した献立に基づいた調理実習	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
	五十嵐			予習：教科 書の該当箇

第7回	桂子 井桁千恵子	幼児期・学童期の 栄養管理 1	年齢による身体状況の変化や必要な栄養素について まとめる	所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
第8回	五十嵐 桂子 井桁千恵子	幼児期・学童期の 栄養管理 2	乳幼児の献立作成	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
第9回	五十嵐 桂子 井桁千恵子	幼児期・学童期の 栄養管理 3	食物アレルギー代替食への展開について事例を基に 注意点をまとめる	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
第10回	五十嵐 桂子 井桁千恵子	思春期・青年期 の栄養管理	学童期思春期の子どもの成長・発達に伴う生理的変 化から栄養状態の評価や栄養管理法（栄養アセスメ ント）をまとめる	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
第11回	五十嵐 桂子 井桁千恵子	成人期・高齢期 の栄養管理 1	老化、日常生活動作、老年症候群等についての栄養 （エネルギー・たんぱく質・糖質・脂質）の代謝、 簡易栄養状態評価表についてグループごとにまとめ る	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)
第12回	五十嵐 桂子 井桁千恵子	成人期・高齢期 の栄養管理 2	高齢期の献立作成	予習：教科 書の該当箇 所を読む (45分) 復習：配布 プリントを 見直す (45分)

	子			
第13回	五十嵐桂子 井桁千恵子	高齢期の栄養管理（調理実習）	作成した献立に基づいた調理実習	予習：教科書の該当箇所を読む（45分） 復習：配布プリントを見直す（45分）
第14回	五十嵐桂子 井桁千恵子	特殊環境下での栄養ケア・マネジメント スポーツ選手の栄養管理 1	特殊環境下での栄養アセスメント スポーツ選手のエネルギー代謝 運動 種類	予習：教科書の該当箇所を読む（45分） 復習：配布プリントを見直す（45分）
第15回	五十嵐桂子 井桁千恵子	スポーツ選手の栄養管理 2	運動効果栄養 生体リズムグループで討議し発表 スポーツ選手の食事管理・献立	予習：教科書の該当箇所を読む（45分） 復習：配布プリントを見直す（45分）

教科書

山本由喜子他 編著 応用栄養学実習ワークブック（株）みらい2020年

参考書

適宜紹介

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上

レポート課題の提出80%以上、授業への参加（態度含む）20%

* レポートについては期限厳守

課題等に対する フィードバックの方法

レポート課題は採点后返却します。配布プリントと共に学習の参考にしてください。

履修のポイント

授業へ参加して学んでください。

オフィス・アワー

質問や相談については、授業し終了後などにて応じます。

* 講義の順番については変更の場合もあります。

科目区分

専門科目

講義コード	30060001	
講義名	応用調理実習I	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
代表曜日	火曜日	
代表時限	2 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

【授業の概要】調理実習Iをふまえて、調理技術の向上及び造詣を深めるべく西洋料理、中国料理及び応用調理について学ぶ。また、調理の専門性や調理に関する分野の浸透を計るため、スペシャリストを講師として招いて行う。さらに実践力を養うための実習として高齢者を対象として、献立作成→試作→実習を行いお弁当の製作を行う。授業は、「デモンストレーション → 実習(グループ) → 試食 → 総評 → 片付け」という流れで行う。

授業形態：180分×12回

【教育目標】実習では、調理実習Iで学習した知識及び技術に実践力を習得することを目標とする。また、衛生管理に留意して調理を行う意義や重要性についてもさらに理解を含める。また、グループ学習を通じて、コミュニケーションのさらなる向上も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用、また問題を解決できる能力を修得することを目指して、調理に関する知識と技術を深く学び、実践力を養う。社会に出て活躍できるようグループ実習を通して自己や他者の役割を理解し、視野を広く積極的に実習に臨むことを目標とする。

到達目標

- ・基礎調理をふまえて、さらに調理技術を習得する。
- ・高齢者の調理(シルバーランチ)を通じて、高齢化時代に対応した献立作成を含めて実践力を養う。
- ・各分野のスペシャリストを通じて専門性を高める。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
		日本料理の献立様式・加熱調理操作(蒸す)・米粉の調理特性・旬の食材(新生姜)の扱い方 献	高齢者の身体変化に	予習30分：高

第1回	中島君恵	立：新生姜ご飯、すまし汁、さわらの桜蒸し（道明寺蒸し）、白和え、うぐいすもち 食事計画I：高齢者を対象とした献立作成Iおよび調理【課題】高齢者を対象とした四季の献立作成I	について意見交換を行い、食事の留意点についてディスカッションする。	高齢者の献立に役立つ教科書や資料を読む。
第2回	中島君恵	西洋料理の献立様式・ソースについて・加熱調理操作(焼く) 基礎実習：キャベツの千切り 献立実習：バターロール、オニオングラタンスープ、チキンソテーマスタードソース、ミモザサラダ、いちごゼリー		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第3回	中島君恵	中国料理の献立様式・加熱調理操作(揚げる)・炸菜I・ゲル化剤の扱い方(寒天) 献立：涼拌番茄、清湯睡蓮、腰果鶏丁、炸春捲、杏仁豆腐		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第4回	中島君恵	日本料理の献立様式・加熱調理(焼く-オープン)・旬(空豆)の食材の扱い方・季節の和菓子 献立：空豆ご飯、えびしんじょう碗、ぎせい豆腐、治部煮、錦玉 【課題】高齢者を対象とした四季の献立作成II		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第5回	中島君恵	食事計画II： 高齢者を対象とした献立作成と調理(シルバーランチ)：班ごとに作成した高齢者対象とした献立の調理を行う	実習後、班ごとにお弁当のねらい、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する。	予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第6回	中島君恵	日本料理の献立様式・加熱調理(蒸す)・旬の食材(筍)の扱い方 献立：筍ご飯、若竹汁、からすがれいの西京焼き 筍の木の芽和え わらび餅		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。

第7回	中島君恵	西洋料理の献立様式・加熱調理(オーブン加熱)・旬の食材(グリーンアスパラガス)の扱い方・小麦粉の調理特性(ベシャメルソースII) 献立：ラザニア・卵黄スープ・インサラータ ディリーゾ・ビスコティ・カフェオレ		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第8回	中島君恵	日本料理の献立様式・加熱調理(焼く-オーブン-)・小麦粉の調理(どら焼き)・旬(冬瓜)の食材の扱い方 献立：あさりと根三つ葉の炊き込み飯、船場汁、和風ローストポーク、冬瓜の海老あんかけ、どら焼き 【課題】高齢者を対象とした四季の献立作成III		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第9回	中島君恵	西洋料理の献立様式、加熱調理(揚げる) 献立：パン、ビシソワーズスープ、ミラノ風カツレツ、コールスローサラダ、ロールケーキ(バタークリーム)		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第10回	中島君恵	西洋料理(スペイン料理)の献立様式・加熱調理(炊く)・米の調理 献立：パエリア、ガスパチョ、エスカベッチョ、パナジェッツ		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第11回	中島君恵	西洋料理の献立様式・特徴(ソース)・魚のおろし方(三枚おろし) 献立：パン、コーンクリームスープ、真鯛のポワレ ノイリー酒のソース、ポークソテー、ニース風サラダ、チョコレートムース(外部講師を予定)		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む
第12回	中島君	【まとめ】前期で学習した調理に関する知識及び技術について、到達度の確認を行う		予習30分：次の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。

	恵		復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
教科書			
「楽しい調理」(医歯薬出版株式会社)			
参考書			
「調理と理論」山崎清子(同文書院)			
成績評価の方法・基準			
単位認定：60点以上(通年で評価) 実習実技30% 小テスト30% 実習ノート・課題 40%			
課題等に対する フィードバックの方法			
調理を十分に理解して技術を習得するために授業時間外においても調理する機会を積極的に設けること。毎回課題レポートに取り組み、教科書や配布プリント等の講義資料を熟読しまとめる。ノート提出(計2回)を行うので、毎回授業終了に実習内容についてまとめることを復習として勧める。課題やプリントはファイルに綴じ学習の参考にすること。			
履修のポイント			
調理科学と健康の視点を持ち、実習には積極的な姿勢で実習に臨むこと。 食材の都合により、回数が前後する場合がある。			
オフィス・アワー			
木曜日、12:30～13:20(昼休み)、9号館3F第7研究室 ※実習前後にも、適宜受け付けます(9号館1F調理準備室)			
科目区分			
専門科目			

講義コード	30060002	
講義名	応用調理実習Ⅱ	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
代表曜日	火曜日	
代表時限	2 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

【授業の概要】調理実習Iをふまえて、調理技術の向上及び造詣を深めるべく西洋料理、中国料理及び応用調理について学ぶ。また、調理の専門性や調理に関する分野の浸透を計るため、スペシャリストを講師として招いて行う。さらに実践力を養うための実習として高齢者を対象として、献立作成→試作→実習を行いお弁当の製作を行う。授業は、「デモンストレーション → 実習(グループ) → 試食 → 総評 → 片付け」という流れで行う。

授業形態：180分×12回

【教育目標】実習では、調理実習Iで学習した知識及び技術に実践力を習得することを目標とする。また、衛生管理に留意して調理を行う意義や重要性についてもさらに理解を含める。また、グループ学習を通じて、コミュニケーションのさらなる向上も目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用、また問題を解決できる能力を修得することを目指して、調理に関する知識と技術を深く学び、実践力を養う。社会に出て活躍できるようグループ実習を通して自己や他者の役割を理解し、視野を広く積極的に実習に臨むことを目標とする。

到達目標

- ・基礎調理をふまえて、さらに調理技術を習得する。
- ・高齢者の調理(シルバーランチ)を通じて、高齢化時代に対応した献立作成を含めて実践力を養う。
- ・各分野のスペシャリストを通じて専門性を高める。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために 必要な時間
				予習30分：

第1回	中島君恵	西洋料理の献立様式・加熱調理操作(揚げる)・炊飯(洋風炊き込み飯)・小麦粉の調理特性(ベシャメルソース) 献立：チキンピラフ、チーズスープ、蟹クリームコロッケ、ズッパイングレーゼ	グループで実習を行い、学習したことや反省点について、ディスカッションする。	高齢者の献立に役立つ教科書や資料を読む。 復習30分：献立作成、ノート整理に取り組む。
第2回	中島君恵	中国料理の献立様式・加熱調理操作(炒める・揚げる)・炸菜Ⅱ 献立：涼拌茄子、粟米会豆腐、炒青椒牛肉絲、油淋鶏、杏仁酥	グループで実習を行い、学習したことや反省点について、ディスカッションする。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第3回	中島君恵	中国料理の献立様式・加熱調理操作(炒める)・炒菜 献立：麻辣黄瓜、白菜丸子湯、炒米粉、栗子鶏、ごま団子	グループで実習を行い、学習したことや反省点について、ディスカッションする。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第4回	中島君恵	西洋料理の献立様式・加熱調理(煮る)・小麦粉の調理特性(ブラウンソース・物理的膨化：シュー) 献立：バターライス、コンソメ アラ ロワイヤル、ハッシュドビーフ、花野菜のサラダ、シュークリーム	グループで実習を行い、学習したことや反省点について、ディスカッションする。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
第5回	中島君恵	食事計画Ⅲ 高齢者を対象とした献立作成および食事計画Ⅳで使用する栄養教育媒体の作成	グループで実習を行い、学習したことや反省点について、ディスカッションする。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。
				予習30分：次回の授業範囲を伝え

第6回	中島君恵	日本料理の献立様式・行事食(重陽節句)・加熱調理(揚げる:フリッター)・米粉の調理 献立:菊花ごはん、飛竜頭のすまし汁、サンマの博多焼風 栗の甘露煮添え、舞茸のフリッター、ささみと春菊のごま和え、上用まんじゅう	グループで実習を行い、学習したことや反省点について、ディスカッションする。	るので、事前に教科書等を読む。 復習30分:課題レポート、ノート整理に取り組む。
第7回	中島君恵	西洋料理の献立様式・加熱調理(煮る)・卵の調理性 献立:パン、秋ナスのポタージュスープ、豚肉のプラム煮、きのこのサラダ、クラフティ-	グループで実習を行い、学習したことや反省点について、ディスカッションする。	予習30分:次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分:課題レポート、ノート整理に取り組む。
第8回	中島君恵	食事計画IV 高齢者を対象とした献立作成と調理(シルバーランチ):試作を基にお品書き作成し、高齢者を対象とした秋のお弁当を完成させる	お弁当のコンセプト、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する	予習30分:次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分:課題レポート、ノート整理に取り組む。
第9回	中島君恵	西洋料理の献立様式・行事食(クリスマス)・ひき肉の調理特性 献立:パン、ミートローフ、きのこのクリームスープ、アスピックゼリー、デコレーションケーキ(デモンストレーションのみで実施)	グループで実習を行い、学習したことや反省点について、ディスカッションする。【課題】デコレーションケーキの企画(コンセプト・デザイン画作成)	予習30分:次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分:課題レポート、ノート整理に取り組む。
第10回	中島君恵	食事計画V 高齢者を対象とした献立作成と調理(シルバーランチ):各班で高齢者対象の冬の献立を調理する	お弁当のコンセプト、調理法、使用した旬の食材、工夫点等を意見交換し、発表する	予習30分:次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分:課題レポート、ノート整理に取り組む。
				予習30分:次回の授業範囲を伝え

第11回	中島君恵	【実技テストI】 スポンジケーキの作成 【小テスト】 これまでの実習内容について振り返りを行う。	グループで実習を行い、学習したことや反省点について、ディスカッションする。	るので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む
第12回	中島君恵	【実技テストII】 調理に関する技術について、到達度の確認を行う 実習：デコレーションケーキの作成	完成したデコレーションケーキについて、製作過程について振り返りを行い、意見交換を行う。	予習30分：次回の授業範囲を伝えるので、事前に教科書等を読む。 復習30分：課題レポート、ノート整理に取り組む。

教科書

「楽しい調理」(医歯薬出版株式会社)

参考書

「調理と理論」山崎清子(同文書院)

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上(通年で評価)

実習実技30% 小テスト30% 実習ノート・課題 40%

課題等に対する フィードバックの方法

調理を十分に理解して技術を習得するために授業時間外においても調理する機会を積極的に設けること。毎回課題レポートに取り組み、教科書や配布プリント等の講義資料を熟読しまとめる。ノート提出(計2回)を行うので、毎回授業終了に実習内容についてまとめることを復習として勧める。課題やプリントはファイルに綴じ学習の参考にすること。

履修のポイント

調理科学と健康の視点を持ち、実習には積極的な姿勢で実習に臨むこと。
食材の都合により、回数が前後する場合がある。

オフィス・アワー

木曜日、12:30～13:20(昼休み)、9号館3F 第7研究室

※調理実習前後にも、適宜受け付けます(9号館1F 調理準備室)

科目区分

専門科目

講義コード	30070001	
講義名	マーケティング	
(副題)		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	木曜日	
代表時限	3 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教 員	飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

フードシステムの視点から農水産物や加工食品の生産・流通とその担い手である卸売業・小売業、中食を含めた外食産業、さらに食品消費と環境問題や食の安心・安全といった今日の私たちを取り巻く問題について説明していきます。授業は、講義形式で行いますが、授業内容が理解できているかどうかを確認するために確認プリント等を実施する予定です。本講義を通して私たちの生活の身近な問題からグローバルな問題までを理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、1. 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している、2. 生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している、という2項目と関連しています。なお、この科目は、フードスペシャリストの資格を取得する場合に必ず履修しなければならない科目の一つです。

到達目標

1. 農水産物や加工食品の流通について説明できるようになる。
2. 食品卸売業・小売業の役割や現状について説明できるようになる。
3. 食品消費と環境問題、食の安心・安全など今日の課題についても説明できるようになる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	フードビジネスとは何か オリエンテーション（授業内容、進め方、成績評価等） フードビジネス、フードマーケティングとは何かについて学びます。	予習90分：シラバスと教科書の「5 フードマーケティング」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第2回	食生活の変化（1） 食生活がどのように変化して	予習90分：教科書の「1 食市場の変化」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめ

	きたのか、その要因について学びます。	ておくこと。
第3回	食生活の変化（２） 食生活の変化が商品消費をどのように変化させてきたのかを学びます。	予習90分：教科書の「１食市場の変化」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第4回	食品の流通（１） 流通の役割と食品流通の特徴について学びます。	予習90分：教科書の「２食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第5回	食品の流通（２） 生鮮食品の卸売市場流通について学びます。	予習90分：教科書の「２食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第6回	食品の流通（３） 加工食品の流通について学びます。	予習90分：教科書の「２食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第7回	食品の流通（４） 食品小売業（スーパー・コンビニなど）について学びます。	予習90分：教科書の「２食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分；：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第8回	食品の流通（５） 温度帯別食品流通について学びます。	予習90分：教科書の「４主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第9回	主要な食品流通（１） 米、麦、野菜・果物などの流通について個別にみていきます。	予習90分：教科書の「４主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第10回	主要な食品流通（２） 漬物、菓子、飲料などの流通について個別にみていきます。	予習90分：教科書の「４主要食品の流通」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第11回	外食産業 外食産業の発展とその仕組みについて学びます。	予習90分：教科書の「３外食・中食産業」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第12回	中食産業 中食産業の発展とその背景について学びます。	予習90分：教科書の「３外食・中食産業」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第13回	食料消費と環境問題 食料消費と環境問題の関係について学びます。	予習90分：教科書の「６食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第14回	食料消費を取り巻く課題 買物難民、地産地消、食育など今日の課題について学びます。	予習90分：教科書の「６食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。
第15回	食品流通と安全 食品流通に対して、どのような安全策が施されているのかについて学びます。	予習90分：教科書の「６食料消費の課題」のところを読んでおくこと。復習90分：授業の重要事項を整理・まとめておくこと。

教科書

日本フードスペシャリスト協会編『四訂 食品の消費と流通』建帛社

参考書

必要に応じて紹介します。

成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 筆記試験60%、平常点（確認プリントの提出、授業への取り組みなど）40%
課題等に対する フィードバックの方法
授業内で実施した確認プリント等については、原則として次週返却します。
履修のポイント
授業資料（プリント）は教科書に沿ってまとめてありますので、教科書と照らし合わせ、特に図表も含めてその内容を確認し理解を深めてください。また、それを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
専門科目

講義コード	30080001	
講義名	人間関係	
(副題)		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	月曜日	
代表時限	3 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

本講義では、人とのかかわり、人間関係を円滑に運ぶためのカウンセリングの考え方やその基本的な技法を中心に学習し、必要となる技術や理論について理解を深める。とくに対人援助場面でみられる基本的なコミュニケーションの技法とその背景にある考え方を取り上げる。授業は講義形式で行い、授業内で実習を組み込んだり、小レポートを課すことも予定している。また、「ピアヘルパー」の資格取得も視野に入れて講義を進める。人と人との関係を結ぶための基本的な考え方や技法について、心理学の立場から理解し、それらを確実にすることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望としては、人間関係の多様なあり方を理解することを通して、生活科学の問題を理解する基盤となる学修成果を残すことを目指すものとする。

到達目標

1. 援助者としての心がまえについて理解する。
2. カウンセリングの基礎的な理論について理解する。
3. 援助（ヘルピング）技法の基本について理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ガイダンス 人間関係で取り扱う問題 ピアヘルパーとは何か、構成的グル	構成的グループエンカウンターを構成するエクササイズとシェアリングの実際について、いくつかのエクササイズを取り上げて、教員がファシリテーターとなって実施し、ピアヘルピング（仲間同士で助けたり助けられたりする）の関係性を体験を通して実	予習90分：教科書第1章1節を読む。 復習90分：小テストに解答す

	ープエンカウンターの考え方	感する。	る。配布資料を見直す。
第2回	カウンセリング概論	カウンセリングの定義・略史・必要性についてグループで意見交換し、自分の考えを深める。	予習90分：教科書第1章2・7節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第3回	援助関係の形成①	カウンセリングの種類、援助者としての資質についてグループで意見交換し、自分の考えを深める。	予習90分：教科書第1章3・4・6節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第4回	援助関係の形成②	援助のプロセス（リレーションづくり、問題の把握、問題の解決）についてグループで意見交換し、自分の考えを深める。	予習90分：教科書第1章5節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第5回	カウンセリング理論① 自己理論と精神分析理論にもとづくカウンセリングの考え方を学ぶ。	ヘルピーが話しやすくなるためにはどのようなことに注意すればよいのかについて、グループで話し合う。	予習90分：1年次「人間と心理」「臨床の心理学」を見直す。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第6回	カウンセリング理論② 学習理論と論理療法理論にもとづくカウンセリングの考え方を学ぶ。	1年次に学習した「学習」について、グループで確認する。	予習90分：1年次「人間と心理」「臨床の心理学」を見直す。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第7回	ヘルピングの技法① 非言語的技法～非言語的コミュニケーションに注目した援助技法	言語的技法と非言語的技法の双方を用いた二人一組になってエクササイズを行う。その後、普段はあまり自覚しないが、コミュニケーションとは言語・非言語のいずれかの技法を用いて行われるわけではなく、双方が伴ってはじめてコミュニケーションが成立することを体験を通して実感する。	予習90分：教科書第2章3節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第8回	ヘルピングの技法② 言語的技法～言語的コミュニケーションによる基本的な援助技法（受	傾聴の技法のうち、受容・繰り返し・明確化について、履修者が二人一組になってのエクササイズを行い、傾聴を体験する。その後、エクササイズの感想等をシェアリングし、相手の良かった点やこうした方がもっと良くなる点などを共有する。	予習90分：教科書第2章1節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を

	容・繰り返し・明確化)		見直す。
第9回	ヘルピングの技法 ③ 言語的技法～言語的コミュニケーションによる基本的な援助技法（支持・質問）	傾聴の技法のうち、支持・質問について、履修者が二人一組になったのエクササイズを行い、傾聴を体験する。その後、エクササイズの感想等をシェアリングし、相手の良かった点やこうした方がもっと良くなる点などを共有する。	予習90分：教科書第2章2節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第10回	問題解決の対処法 ① 6つの対処法	自分の手に負えないことにはどんな対処方法があるのかについてグループで意見交換する。	予習90分：教科書第2章5節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第11回	問題解決の対処法 ② 援助技法向上のための方法	いくつかの場面を設定し、グループでロールプレイを行う。	予習90分：教科書第2章7節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第12回	対話上の諸問題への対応①	援助時に起こりやすい状況について、グループで対応策を考えてみる。	予習90分：教科書第2章4・6節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第13回	ピアヘルパーの心構え	面接場面でヘルピーの感情をつかむための4択問題を行う。	予習90分：教科書第2章4・6節を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第14回	活動許容範囲 ピアヘルパーがどのような領域で活動するのか、そして留意しなければならないのはどのようなことなのか	それぞれの領域で活動する際に知っておきたい介入のポイントについて考える。	予習90分：教科書第3章を読む。 復習90分：小テストに解答する。配布資料を見直す。
第15回	確認テスト 補足	これまでのまとめとして4択問題や記述式問題を解いてみる。	予習90分：14回分の小テストを見直す。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

日本教育カウンセラー協会編『ピアヘルパーハンドブック』図書文化社

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 ・確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから40問を出題）40%、 ・レポート課題30%、 ・授業への積極的参加度30% を総合して評価します。
課題等に対する フィードバックの方法
レポートは、返却するので学習の参考にすること。 小テストの答えは授業の始めに提示するので、必ず解答しておくこと。
履修のポイント
講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。普段から人の行動に興味を持ち、各回の主題に該当する教科書の章に目を通すことが予習となります。配布資料・ノートのとまとめを復習として勧めます。
オフィス・アワー
水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11号館第8研究室。 ※講義終了前後にも、適宜受け付けます。
科目区分
専門科目

講義コード	30090001
講義名	臨床心理学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	月曜日
代表時限	2 時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育機関での心理臨床活動および教員へのスーパーヴィジョン等の経験からケースの見立て・介入方法などに反映させた授業を行う
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	黒岩 初美	指定なし

授業の概要と教育目標

臨床心理学は、心理学で蓄積された理論や技法を用いた応用的・実践的な学問領域である。人の心の安定をはかるための臨床援助活動の実際について理解を深めることが求められるが、その基本は自己を理解し、自己と他者は異なる存在であるということ認識してコミュニケーションをはかるところにある。本講義では、臨床心理学に関連するテーマとともに、自己理解や他者理解といったテーマを取り上げる。授業は講義形式で行うが、テーマによってVTR視聴や実習を取り入れる予定である。なお、対人場面におけるさまざまなコミュニケーションの特徴を学修し、併せて、自己と他者の違いを実感しながら、自らのコミュニケーション能力を理解することを教育目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的、科学的に理解することを目指し、心理的側面の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして、将来的な展望として、人の多様性を加味した生活科学を心理的側面を通して考えることができる能力の養成の基盤となる学修を目指す。

到達目標

1. 自己理解・他者理解について学修し、自己と他者の違いを実感する。
2. 対人場面におけるコミュニケーションの特徴について理解する。
3. 臨床心理学で使われる専門用語（カウンセリングの専門用語など）について理解する。
4. 「相手の話を聞く」姿勢と「自らのことを話す」姿勢について理解する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション 臨床心理学とは何か① 心の問題を科学的に研究し、その知見をした人々	一般的な問題解決のプロセスと臨床心理学における問題解決のプロセスの異同について考える。	予習90分：教科書pp.12-23を読む。 復習90分：配布資料を整理

	へのサポートについて		し、教科書と照合する
第2回	臨床心理学とは何か② 臨床心理学の活動や基本理念について	心理学・カウンセリングの専門用語を事例・資料を照合しながら考える。	予習90分：教科書pp.24-44を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第3回	アセスメント① アセスメントのための情報収集や分析方法からケース・フォーミュレーションを行うことについて	援助は自分の勘や経験によって進められるのではなく、仮説－検証のプロセスが大切であることを理解し、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.45-55を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第4回	アセスメント② 心理検査の概要（検査の特色や目的等）について。	自分の性格検査の結果についての妥当性について検討する。	予習90分：教科書pp.56-76を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第5回	人の発達と心の問題① ライフサイクルの視点で各発達段階における特徴と諸問題について	発達段階で起こりやすい問題の背景にはどのようなことが考えられるのか、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.78-85を読む。 復習90分：配布資料の整理し、教科書と照合する
第6回	人の発達と心の問題② 乳児期から思春期 発達段階の特徴と発達過程における具体的な問題について	発達のプロセスで起こる問題について、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.86-93を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第7回	人の発達と心の問題③ 青年期から老年期 発達段階の特徴と発達過程における具体的な問題について	自らのライフラインを描きアイデンティティの確立等について、自他の考えを理解し、人の一生について考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.94-99を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第8回	人の発達と心の問題④ 発達障害、虐待、いじめ、不登校等子どもの現代的課題とその問題について	正常と異常の違いについてメンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.100-120を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する おお
	心の疾患と理解① 異常心理学と臨床心理学	正常と異常の違いについてメンバーの意見を	予習90分：教科書pp.100-120p.pp160-

第9回	の関わりについて、気分障害、統合失調症について	聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	166を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第10回	心の疾患と理解② 不安障害、パーソナリティ障害を中心に精神障害について	事例研究を行い、精神障害について理解を深める。	予習90分：教科書pp.132-159を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第11回	問題への介入①来談者中心療法、精神分析、分析心理学 自分に向き合っていくための心理療法について	安心して自分の内面に目を向けるためには何が重要かについて、メンバーの意見を聞きながら自分の考えを広げたり深めたりする。	予習90分：教科書pp.167-179を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第12回	問題への介入②行動療法、認知行動療法、分析心理学 自分の行動や考え方に焦点を当てた心理療法について	物事の捉え方には一人一人のクセがあることを理解し、メンバーの意見を聞きながら対応策を検討する。	予習90分：教科書pp.180-187, 212-217を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第13回	問題への介入③ 11・12回で扱った以外の心理療法や個人への介入技法について	家族療法、ナラティブセラピー、遊戯療法、自立訓練法等各種理論と技法について理解する。	予習90分：教科書pp.188-211を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第14回	コミュニティへの介入 教育、地域、医療領域での介入で注意すべき事柄について	教育相談、特別支援教育、異文化間カウンセリング、デイケア、ターミナルケアについて理解する。	予習90分：教科書pp.108, 194-197, 226-227, 246-7を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する
第15回	社会と臨床心理学 社会の中で臨床心理学がどのように活用しているのかについて 確認テスト	災害や犯罪の被害者支援、高齢者への心理ケア、非行少年や虐待時児への支援について理解する。	予習90分：教科書pp.272-285を読む。 復習90分：配布資料を整理し、教科書と照合する

教科書

下山晴彦監修 『面白いほどよくわかる臨床心理学』 西東社

参考書
適宜紹介する
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上。 確認テスト（最終授業で毎回の授業で行う小テストから出題）とレポート70%、 授業への積極性・態度30%を総合して評価します。
課題等に対する フィードバックの方法
授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にすること。
履修のポイント
講義への積極的な取り組みを期待します。本科目は、「ピアヘルパー」資格取得にかかわる科目（「人間と心理」「臨床心理学」「人間関係」）のひとつです。
オフィス・アワー
授業開催日の12：30～13：20（昼休み）、9号館非常勤講師室。 ※講義終了前後にも、適宜受け付けます。
科目区分
専門科目

講義コード	30100001	
講義名	家庭経営学	
(副題)	【教職必修（家庭）】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	木曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教 員	飯島 正義	指定なし

授業の概要と教育目標

生活経営の内容としては、家族、結婚、育児、少子高齢化、消費者問題、衣食住、地域とのつながりなど、私たちの身近な生活に関する事柄（問題）が含まれます。授業形態は、履修者が少人数とされますので、授業は事前配布したプリント資料を使用してゼミ形式で行っていきます。履修者には、毎回報告をしてもらい、質疑応答を行いたいと思います。本講義は、私たちの身近な生活に関する問題を多角的に、また科学的に理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連では、1. 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している、2. 生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的な事柄について、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している、と関連しています。本講義を通じて、私たちの生活に身近ないろいろな事柄を考えていきます。

到達目標

私たちの身近な生活問題を多面的・科学的に理解することによって、問題をより深く考え、それに対処できる知識を修得することができます。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	生活経営とは オリエンテーション (授業内容、進め方、 成績評価等) 生活経営とは何かにつ いて学びます。		予習90分：シラバスをよく読んでおくこ と。復習90分：授業の重要事項を整理・ま とめておくこと。
第2回	人口の変化 日本の人口の長期的な 変化について学びま す。		予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。

第3回	家族形態の変化 大家族制から小家族制 への家族形態の変化に ついて学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第4回	少子・高齢化（1） 少子化の現状について 学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第5回	少子・高齢化（2） 少子化の問題点（出生 率、結婚、育児等）に ついて学びます。	少子化の問題点に ついて話し合いま す。	予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第6回	少子・高齢化（3） 高齢化の現状について 学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第7回	少子・高齢化（4） 少子高齢化の経済的な 問題点について学びま す。	高齢化の経済的な 問題点について話 し合います。	予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第8回	少子・高齢化（5） 前回に続き、高齢化の 問題、特に社会保障制 度の問題について学び ます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第9回	豊かさの変遷 日本における所得格差 について学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第10回	家計消費 家計消費の動向・現状 について学びます。		予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第11回	家計貯蓄 家計貯蓄の動向・現状 について学びます。		予習90分：プリント資料から第12章をよく 読んでおくこと。復習90分：授業の重要事 項を整理・まとめておくこと。
第12回	現代の貧困 貧困の現状とその課題 について学びます。	日本における所得 格差と貧困につい て話し合います。	予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第13回	政府による政策効果 租税、社会保障の再分 配効果について学びま す。		予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第14回	女性の教育と労働 女性教育と労働につい て学びます。	女性の社会進出に ついて話し合いま す。	予習90分：プリント資料をよく読んでおく こと。復習90分：授業の重要事項を整理・ まとめておくこと。
第15回	私たちの生活全般につ いて考える これまでの授業に関す る総合的な確認を行 います。	これまでの授業に 関する総合的なデ スカッションを行 います。	予習90分：これまでのプリント資料全体を 読み返し、重要点を確認しておくこと。復 習90分：授業内容を整理し文章としてまと めておくこと。

教科書

使用しません。プリント資料を事前に配布し、授業を進めていきます。

参考書

必要に応じて紹介します。

成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 レポート50%、平常点（授業での報告と質疑応答、取り組みなど） 50%
課題等に対する フィードバックの方法
質問等についてはできるだけ授業時間内に答えることにします。
履修のポイント
毎回の授業ポイントの整理・まとめを着実に積み重ねて下さい。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に質問に応じます。
科目区分
専門科目

講義コード	30110001	
講義名	住居学	
(副題)	【教職必修（家庭）】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	水曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	住宅部材のデザインや内装設計業務の経験に基づき、人々の「生活文化」と自然や社会の「環境調和」の関わりについて「住居／すまいづくり」の視点から解説する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教 員	峰岸 康之	指定なし

授業の概要と教育目標

生活の基盤となる「住まい」を学ぶことは、「建築物としての室内」と「室内で行われる生活行為」の両面から考察していくことが必要です。
そして「住まい」を取り囲む「環境」との関係も見逃すことはできません。
日本国内やヨーロッパの気候風土と住居の事例を観ていきながら、そこでの生活文化を考察していきます。多様な住まいかたの形を知ると共に、人間の持つ五感に対しての、住まいのつくりかたの工夫も探求していきます。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活文化としての「住まいかた」、「住まいをとりまく環境」についての科学的な考察と理解を深め、快適で個々の生活スタイルに適した心地良い「住まいかた」や「住まいの演出」を実現していくための、知識と感性、考察の技術を修得すること。

到達目標

日本及び世界の地理的条件や気候風土から、古来よりの住居のつくり方についての理解を深め、現代の住まいと比較し、その特徴や環境への対応、そして変化について理解を深め考察すること。
室内で快適に生活するための、ハード面及びソフト面におけるすまいづくりの工夫を、人間の持つ五感を軸に考察し、心地良い住まいのづくりを実践していくための基本的な知識・技術の習得を目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
				予習として

第1回	峰岸康之	「生活文化を学ぶ」 住まいのはじまり／ 日本の気候風土と住 宅のつくりかた		シラバ ス確認 及通 読90分 復習と して 関連事 項の調 査研 究90分
第2回	峰岸康之	「住まいの形」 古民家の間取り／現 代住宅の間取り／日 本各地の住居形態	提示課題のテーマに沿い、生活様式や気候風土による 住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深 めるため、「アクティブラーニング」型式の意見交 換、討論を行う。	予習と して シラバ ス確認 及通 読90分 復習と して 関連事 項の調 査研 究90分
第3回	峰岸康之	「くらしかたと住ま い」 生活行為／生活動線 ／室空間の構成	提示課題のテーマに沿い、生活様式や気候風土による 住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深 めるため、「アクティブラーニング」型式の意見交 換、討論を行う。	予習と して シラバ ス確認 及通 読90分 復習と して 関連事 項の調 査研 究90分
第4回	峰岸康之	「社会生活と住ま い」 どこに住み、どう生 活するか	課題レポート1	予習と して シラバ ス確認 及通 読90分 復習と して 関連事 項の調 査研 究90分
第5回	峰岸康之	「五感とインテリ ア・視覚①」 光と色彩／ 色彩の基礎、心理効 果・色彩調和	提出レポートの着眼や考察及び展開において「アクテ ィブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行 う。	予習と して シラバ ス確認 及通 読90分 復習と して 関連事 項の調

				査研究90分
第6回	峰岸康之	「五感とインテリア・視覚②」 あかりの演出／ 照明計画の基本とアンビエントライティング		予習として シラバス確認 及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第7回	峰岸康之	「五感とインテリア・触覚」 素材と材質感／ 内装仕上げ材の種類 や性能・多様なテクスチュア		予習として シラバス確認 及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第8回	峰岸康之	「五感とインテリア・聴覚」 音環境と室内環境／ 防音・遮音、快適な音環境への配慮		予習として シラバス確認 及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第9回	峰岸康之	「五感とインテリア・味覚」 食と住まい／ 食文化と住文化、食事空間と生活スタイル	課題レポート2	予習として シラバス確認 及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
	峰岸	「五感とインテリア・嗅覚」 香りと空気環境／	提出レポートの着眼や考察及び展開において「アクテ	予習として シラバス確認 及通読90分

第10回	康之	香りの文化、空気環境の整備	「イブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	復習として 関連事項の調査研究90分
第11回	峰岸康之	「マルチメディアと生活」 ／情報化時代の住まい		予習として シラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第12回	峰岸康之	「ヨーロッパの住居Ⅰ」 ／イギリス、アイルランド、北欧、フランス、スペイン	提示資料を基に、生活様式や気候風土による住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、 「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習として シラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第13回	峰岸康之	「ヨーロッパの住居Ⅱ」 ／オランダ、ドイツ、スイス、オーストリア、イタリア、ギリシャ	提示資料を基に、生活様式や気候風土による住まいの違いや共通点等、その特徴について考察を深めるため、 「アクティブラーニング」型式の意見交換、討論を行う。	予習として シラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
第14回	峰岸康之	「世界の様々な住居形態」 ／カッパドキア、トウルリ、ヤオトン、ゲル、仮設住宅	課題レポート3	予習として シラバス確認及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
				予習と

第15回	峰岸康之	「未来の私達の住まい」 総論／まとめ	提出レポートの着眼や考察及び展開において「アクティブラーニング」型式の発表、講評、意見交換を行う。	して シラバス確認 及通読90分 復習として 関連事項の調査研究90分
------	------	-----------------------	---	---

教科書

独自の講義資料を作成配布し、参考文献等を随時紹介していきます。

参考書

新しい住まい学 小宮洋一・片山勢津子 他（井上書院）
ヨーロッパの家 1. 2. 3. 4（講談社）

成績評価の方法・基準

課題レポートの提出／課題 1（25%）、課題 2（35%）、課題 3（40%）より評価、単位認定 60 点以上 とします。

課題等に対する フィードバックの方法

提示された課題テーマ及び自ら選定した課題テーマに対する調査や考察、着眼や展開に対する取り組みを、小論文型式のレポート作成という形で研鑽していきます。
課題の着眼において、手掛かりとなる情報の提示や、考察のプロセスや展開方法などを提示し、研究課題を解決していく能力の向上を図れるようフィードバックを行っていきます。

履修のポイント

日常生活の基本的な要素である『衣・食・住』生活科学全般に関わる内容で、生活文化にかかわる職業を志す人としての基本的な教養です。
講義内容を通して、身近な「住まい」の環境に、問題意識を持ち、その解決策や、改善案を探っていくことを心掛けましょう。

オフィス・アワー

（非常勤）
前期：水曜午前
＊個別に質問や相談がある場合は、授業前又は後に申し出てください。

科目区分

専門科目

講義コード	30120001
講義名	育児学
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	木曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	宮本 雄基	指定なし
教員	中島 君恵	指定なし
教員	山崎 純一	指定なし

授業の概要と教育目標

育児の目的は、心身ともに健康な子供を育てることにあるが、1980年ごろからとくに指摘されているのは、体の健康は順調であっても、心の健康に問題のある子供が増加している点である。現代社会においてどのような育児が望ましいかという視点を持ちながら、出生前育児、乳幼児の心身の発達・病気・栄養等について学ぶ。現代社会における育児支援の必要性を理解し、育児に関する知識・技術について学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」をキーワードに生活を科学的に理解を深めることを目指し、「育児」「乳幼児の発達・発達」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する育児に対応する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・育児の知識を習得する。
(出生前育児、乳幼児の心身の発達・発達、乳幼児の栄養、子供の主な病気、けが、事故について)
- ・学んだ知識を実践の場面に活かす。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために 必要な時間
1	宮本雄基	・授業概要・シラバスの説明	履修者がこれまで身近に見聞きし、経験してきた	予習90分：自身のこれまでの成長について振

第 回	中島君恵	・「育児・保育」とは何か	ことをふまえ、これから学ぶ育児学とは何かを考える。	り返る。 復習90分： 配布資料を見直す。
第2回	山崎純一	妊産婦の疾患と出生	妊娠により既存の病気（高血圧・糖尿病など）が悪化したり、妊娠中に発症し易くなる病気（血栓症・貧血・尿路感染症など）があり、発症頻度の高い病気について意見交換する。	予習90分： 配布した文献及び資料を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
第3回	山崎純一	乳幼児期における疾患（先天性疾患）	先天異常はあらゆる臓器に生じる可能性があり、乳児の死亡原因の上位を占めている。各臓器における代表的な先天性疾患について共に考える。	予習90分： 配布した文献及び資料を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
第4回	山崎純一	家庭における看護（注意すべき疾患、救急処置等）	乳幼児の重篤な病気として先天奇形・悪性新生物などがあるが、事故による火傷・骨折・感染症などは注意すべき疾患であり、これらについて共に考える。	予習90分： 配布した文献及び資料を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	子どもの心身の発育・発達I(乳児期)	履修者に母子手帳を用いて乳児期の発育・発達について月齢毎に意見交換をさせ、乳児期の特徴について理解するきっかけを作る。また、資料を用いて解説し理解を深め、再度学生同士で意見交換する。	予習90分： 配布した文献及び資料を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
第6回	中島君恵	子どもの心身の発育・発達II(幼児期)	履修者に母子手帳を用いて幼児期の発育・発達について意見交換をさせ、幼児期の特徴について理解するきっかけを作る。また、資料を用いて解説し理解を深め、再度学生同士で意見交換する。	予習90分： 配布した文献及び資料を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
第7回	中島君恵	子どもの心身の発育・発達III（子どもの育つ環境の整備） 【課題】母子手帳、家族からの聞き取りを基に、乳幼児期の発育発達の記録を作成する。	履修者に子どもの心身の発育・発達と育つ環境の整備について意見交換をさせ、乳幼児期の心身の発育・発達について理解するを深める。また、母子手帳を用いて、子どもの心身の発育・発達のまとめについて意見交換する。	予習90分： 配布した文献及び資料を読む。 復習90分： 配布資料を見直す。
第8回	宮本雄基	・子どもの健康と食生活の意義 ・妊娠期と授乳期の食生活	履修者自身の食生活を振り返り、社会的な食生活の課題と照らし合わせることで、親子の食習慣の関連や子どもの健康とのつながりについて考える。	予習90分： 配布した文献及び資料を読む。 復習90分： 配布資料を

				見直す。
第9回	宮本雄基	乳幼児期の食生活	乳幼児期は、乳汁栄養から離乳食を経て食形態・食習慣が大きく変化する時期である。自身の記憶している中で、当時どのような食べ物を口にしていたかなどについて意見交換する。	予習90分：配布した文献及び資料を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第10回	宮本雄基	学童期・思春期の食生活	学童期・思春期は、身体的、精神的変化が大きく、自信で食事を選択する機会が増加する。当時を振り返り、食生活がどのようなものであったか意見交換する。	予習90分：配布した文献及び資料を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第11回	宮本雄基	献立作成と資料作成	幼児期の特徴を理解した上で、お弁当およびおやつ献立作成を行う。	予習90分：配布した文献及び資料を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第12回	宮本雄基	調理実習【幼児期のお弁当】	幼児期のお弁当を想定した調理実習を行う。完成したお弁当は、履修者が相互に評価を行うことで自身にない発想を共有する。	予習90分：配布した文献及び資料を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第13回	宮本雄基	調理実習【幼児期のお弁当】	幼児期のお弁当を想定した調理実習を行う。完成したお弁当は、履修者が相互に評価を行うことで自身にない発想を共有する。	予習90分：配布した文献及び資料を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第14回	宮本雄基	調理実習【幼児期のおやつ】	幼児期のおやつを想定した調理実習を行う。完成したおやつは、履修者が相互に評価を行うことで自身にない発想を共有する。	予習90分：配布した文献及び資料を読む。 復習90分：配布資料を見直す。
第15回	宮本雄基	まとめ		予習90分：配布した文献及び資料を読む。 復習90分：配布資料を見直す。

教科書

改定5版「新保育学」（岡野雅子ほか 南山堂）

参考書

育つ・育てる（建帛社）
子ども学概論(丸善プラネット)
最新版らくらくあんしん育児(Gakken)
子どもの食と栄養（羊土社）
子どもの理解と援助（光生館）

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 課題I30% 課題II30% 課題III40%

**課題等に対する
フィードバックの方法**

授業の中で課題を設定し採点後に返却するので、次回の課題の参考にすること。

履修のポイント

乳幼児に興味を持ち授業に積極的に参加することが望ましい。

オフィス・アワー

- ・講義終了後
- ・個別に相談があれば対応する（研究室：9号館 3階 第8研究室）

科目区分

専門科目

講義コード	30130001	
講義名	環境生理学	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	1	
代表曜日	水曜日	
代表時限	2 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

生体は、常に外部環境から加わる刺激に対して、自己の内部環境を一定に保とうとする機構を備え、適応している。環境生理学では、外部からの刺激をストレスーとし、ストレスーが加わることにより、内部環境（生体の恒常性）が歪んだ状態になったことをストレスとしている。本講義では、ストレスーの内容とストレスの状態とこれに対応する生体の防衛反応を学び、さらに個々の外部環境下（高温、低温、高圧、低圧など）における、適応について学習する。また、各環境下における栄養についても触れる。本講義はヒトのホメオスタシスの概念と特殊環境下における防衛反応を理解することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

環境生理学は、卒業認定方針の「「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解していること」に関連し、基本的生活活動や環境変化に対する人体の適応について学び、また、生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解してする。

。

到達目標

「環境と栄養」分野の特に生理学的内容を理解すること。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	ストレスI :ストレスに関係する生体の組織、ホルモン、神経の基礎を学び、ストレスーについて理解する。 プリント・レジメを配布	ホルモンおよび神経系統について講義中に教員が質問し、その学生回答に対して教員・学生でディスカッションをする。	予習：解剖生理学の脳および生化学のホルモンの分野を確認しておく。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を3時間以上行う。

	する。		
第2回	ストレスⅡ :セリエのストレス学説と汎適応症候群、適応などについて学ぶ。	ストレスの概念・ストレッサーについて講義中に教員が質問し、その学生回答に対して教員・学生でディスカッションをする。	予習：レジメ p 2～6を読み理解しておく。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を3時間以上行う。
第3回	気温（温度） :高温および低温環境下における生体の防衛反応を学ぶ。	体温の調節について講義中に教員が質問し、その学生回答に対して教員・学生でディスカッションをする。	予習：レジメ p 7～10を読み理解しておく。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を3時間以上行う。
第4回	気圧（高圧、低圧） :高圧および低圧に生体が曝された場合の反応を学ぶ。	気圧の変化に対する生体機能の調節について講義中に教員が質問し、その学生回答に対して教員・学生でディスカッションをする。	予習：レジメ p 11～12を読み理解しておく。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を3時間以上行う。
第5回	騒音（音）・振動 :騒音と振動に対する生体の反応を学ぶ。	騒音に対する生体機能の調節について講義中に教員が質問し、その学生回答に対して教員・学生でディスカッションをする。	予習：レジメ p 13～15を読み理解しておく。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を3時間以上行う。
第6回	電磁場・電磁波 :太陽光や高圧電線下から発生する電磁波について学び、これが生体に及ぼす影響について学ぶ。	生体に対する電磁波が及ぼす影響について講義中に教員が質問し、その学生回答に対して教員・学生でディスカッションをする。	予習：レジメ p 15～17を読み理解しておく。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を3時間以上行う。
第7回	加速度・無重力・その他 :乗り物（車、船、飛行機）などGが変化する状態や宇宙空間、その他特殊な環境下における生体反応について学ぶ。	生体に対する加速度や重力が及ぼす影響について講義中に教員が質問し、その学生回答に対して教員・学生でディスカッションをする。	予習：レジメ p 19～20を読み理解しておく。復習：左記の内容を講義ノートにまとめる。予習復習の自己学習を3時間以上行う。
第8回	まとめ 第1回～7回までの内容について再確認する。	今まで学修してきた内容について講義中に教員が質問し、その学生回答に対して教員・学生でディスカッションをする。	予習復習：レジメ p 1～20を読み理解しておく。予習復習の自己学習を3時間以上行う。

教科書

使用しない（レジメを配布します）

参考書

応用栄養学 化学同人（応用栄養学の教科書） および 『栄養応用栄養学』 同文書院

成績評価の方法・基準

期末試験100%、60点以上を合格とする。

課題等に対する フィードバックの方法

実施しない

履修のポイント

生理生化学的視点の講義内容を含むので解剖生理学の教科書が参考となる。

オフィス・アワー

授業開講日の講義終了後に行う。

科目区分

専門科目

講義コード	30140001
講義名	生理生化学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	木曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	榮 昭博	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養素（糖質、たんぱく質等）の基本的な性質を実験により確認し、さらに血液、尿、臓器の主要成分や消化に関する酵素活性を測定する。本実験では栄養素の機能と生理学的意義を理解することを目的とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生理生化学実験は、卒業認定の方針の「「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解している」に関連している。特に、生化学、生理学、基礎栄養学で学んだ内容を実験にて確認し理解を深める。

到達目標

実験を通じて、栄養アセスメントにおける「臨床検査知識技術」の能力を習得する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	糖の定性試験 :糖の呈色反応を利用して、未知試料が何であるかを同定する。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第2回	たんぱく質およびアミノ酸の定性試験 :アミノ酸および蛋白質の呈色反応を利用して、未知試料が何であるかを同定する。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。

第3回	脂溶性ビタミンの定性試験 :脂溶性ビタミンA、D、Eの定性試験を行い、脂溶性ビタミンの性質を理解する。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第4回	ビタミンB2の定性試験 :水溶性ビタミンB2の定性試験を行い、肝臓料のビタミンB2の存在を確認する。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第5回	尿中成分I 正常成分 :尿中の尿素、クレアチニン、インジカン等正常成分の検出をおこない、それらの生理学的意義を学ぶ。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第6回	尿中成分II 異常成分 :尿中の蛋白質、糖、アセトン体等異常成分の検出をおこない、それらの生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べておく。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第7回	血漿たんぱく質の定量 :血漿たんぱく質を測定し、その生理学的意義と栄養状態の判定を行う。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第8回	血漿コレステロールの定量 :血漿コレステロールを測定して、その生理学的意義と疾病との関係を学ぶ。実験レポート（課題）を作成する。また、1回～7回のレポート（課題）をまとめて提出する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第9回	血糖の定量 :血糖を測定し、疾病、特に糖尿病との関係を学ぶ。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第10回	血漿カルシウムの定量 :血漿カルシウム濃度を測定し、カルシウムの生理学的意義を学ぶ。実験レポー	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予

	ト（課題）を作成する。	報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	習復習の自己学習を1時間以上行う。
第11回	膵臓プロテアーゼ活性 ：膵臓トリプシン活性を測定し、たんぱく質の消化を学ぶ。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第12回	膵臓リパーゼ活性 ：膵臓リパーゼ活性を測定し、脂肪の消化を学ぶ。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第13回	唾液アミラーゼ活性 ：各自の唾液アミラーゼ活性を測定し、デンプンの消化を学ぶ。新型コロナウイルス感染症の状況によって、膵臓アミラーゼ活性測定へ変更あり。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第14回	エネルギー代謝 演習 メッツを用いて各個人のエネルギー消費量を求める。また、基礎代謝基準値および生活活動強度を用いて同様にエネルギー消費量を求める。実験レポート（課題）を作成する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。
第15回	栄養アセスメント ：モデルの身体計測や各血液検査データを読み栄養評価の実践を行う。実験レポート（課題）を作成する。また、8回～15回のレポート（課題）をまとめて提出する。	左記の内容をレポート（実験ノート）にまとめる。また、実験中に上記内容についてグループでディスカッションし、実験終了後、担当教員に報告する。この時、教員を含めて質疑応答を行う。	予習：生化学・基礎栄養学の左記分野をよく読み理解しておく。復習：左記分野のレポートをまとめ、関連項目についても調べる。予習復習の自己学習を1時間以上行う。

教科書

使用しない（プリントを配布する）。

参考書

栄養学領域からみた生理生化学実験 五島孜郎 編 建帛社
基礎栄養学 Nブックス三訂 林 淳三 監修 建帛社

成績評価の方法・基準

総合点の内60点以上を合格とする。学期末試験（ペーパー試験）75%、実験ノートの評価点15%、実験への参加度（サンプル提供他）10%。

課題等に対する フィードバックの方法

実験終了後レポートを各单元ごとに作成し、これを綴り実験ノートを作成すること。実験ノートは第8回と第15回の実験終了時に提出し、後日評価点を記入して返却する。

履修のポイント
実験操作のみでなく各測定成分の栄養・生理学的意義をよく理解すること。白衣着用のこと。電卓等持参のこと。カメラを持参すると便利である（記録用）。
オフィス・アワー
授業開講日の実験終了後に行う。
科目区分
専門科目

講義コード	30150001
講義名	食品加工学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	食品会社における生産現場および研究所で勤務した経験を活かし、食品の機能や栄養について最新の情報を交えて解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	荒井 勝己	指定なし

授業の概要と教育目標

加工食品なしでは食生活が成り立たないほど多種多様な加工食品があり、加工技術も高度で複雑になっている。食品の品質や表示に対する社会制度も刻々と変化し、それに対する消費者の関心も高まっている。このような状況で、食品加工、食品の保存と包装技術、ならびに品質表示に対して正しい知識を身につけることは非常に大切である。本授業では、種々の加工食品の製造原理、製造工程、食品保存・包装技術を学び、また、加工による食品の成分や物性の変化を学び、食品加工の理論と実際についての知識を学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「③「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解している」に基づき、栄養士として知っておかなければならない「食品加工および貯蔵」についての基礎知識を理解することを目指す。

到達目標

- ①種々の食品の加工方法および加工品について説明できる。
- ②食品の特性について説明できる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	オリエンテーション（授業の概要説明、成績評価） 食品加工・貯蔵のはじまり 食品の特性と食品加工、食生活と加工食品	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
			予習90分：教科書を読

第2回	食品の変化・変質 水分活性、酵素反応、食品成分の反応、低温障害 食品添加物、遺伝子組み換え、加工技術、規格・基準と食品表示基準、H A C C P	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第3回	食品の加工および操作と原理、技術	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第4回	加工の種類における方法、加工原理	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第5回	食品の調理・加工に伴う食品成分の変化 生産条件と食品成分の違いについて、地域、季節、栽培条件による違い	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第6回	包装、加工食品の表示、容器包装とリサイクル	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第7回	穀類の加工方法および加工品 雑穀・豆類の加工法と加工品	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第8回	穀類、いも類および豆類（大豆、小豆）の加工法および加工品	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

第9回	野菜・果物・きのこの加工法および加工品	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第10回	食肉の加工法および加工品の種類と成分	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第11回	乳製品の加工法および加工品、卵類の種類と成分	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第12回	魚介類の加工法および加工品の種類と成分	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第13回	味噌、醤油、塩、香辛料、甘味料 植物油脂、動物油脂、加工油脂の加工法	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第14回	嗜好飲料（非アルコール飲料およびアルコール飲料）の加工法とそれにより種類と成分	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。
第15回	新技術による加工法、流通・貯蔵等による加工法、形状による加工法、用途別加工法まとめ	授業内容についての質問や疑問、意見などを教員が答えるだけではなく、学生間でディスカッションする時間を設ける。	予習90分：教科書を読み、わからない単語や内容について調べる。 復習90分：配布した資料をまとめ、復習問題を解き、理解できなかった内容について調べる。

第16回			
教科書			
『栄養科学シリーズNEXT 食べ物と健康、食品と衛生 食品加工・保蔵学』海老原清・渡邊浩幸・竹内弘幸/編（講談社）			
参考書			
单元ごとにプリント教材を配布する。			
成績評価の方法・基準			
単位認定60点以上 筆記試験100%			
課題等に対する フィードバックの方法			
授業内に問題を提示したり、課題を課すことがある。学期末の筆記試験にも関与する事柄なので、必ず復習しておくこと。また、单元ごとに復習問題を配付するので、必ず問題を解いて授業内容の理解に役立てること。			
履修のポイント			
予習・復習の積み重ねが知識を身につける力となり、試験対策にもつながっていく。教科書の内容以外の事柄についても取り入れていくので、授業には積極的に参加すること。 欠席については、翌週に課題を提示する。			
オフィス・アワー			
授業内容等の質問については、授業終了後、または月～金曜日のお昼休みに11号館3F研究室13で受け付ける。			
科目区分			
専門科目			

講義コード	30160001
講義名	食品衛生学
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	水曜日
代表時限	2時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生命維持のため、食物の摂取を欠かすことができない。また、食事に対して、健康維持・増進等の期待が高まっている昨今であるが、食品とは常に安心・安全なものでなければならない。食品衛生学では、食品の生産から消費に至るまでの過程において、安全な食品を選択し、提供することができるよう関連法規や危害要因、衛生管理の方法について学修する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーである、「人間のからだ、食品、栄養に関する学修を総合的に理解し、健康・栄養に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している」に基づき、広く「食」を扱う職種において、食品の安全性を確保するために必要な知識を習得することを目指す。

到達目標

食品衛生学では、関連法規・食品の変質・食中毒・食品中の汚染物質及び食品添加物・衛生管理手法・食品表示等の学修をとおり、食品による健康被害を未然に防ぐための基礎知識を習得することを到達目標とする。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	食品衛生の概念と関連法規		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第2回	食品衛生関連組織		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
			予習90分：教科

第3回	食品の変質I		書 復習90分：教科書、ノート
第4回	食品の変質II		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第5回	食中毒I		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第6回	食中毒II		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第7回	食中毒III		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第8回	食中毒IV	興味のある、または身近で発生した食中毒事件について調べ、まとめる。	予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第9回	食品中の汚染物質I		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第10回	食品中の汚染物質II		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第11回	食品添加物I		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第12回	食品添加物II	興味のある、または身近な食品に含まれる食品添加物について調べ、まとめる。	予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第13回	食品衛生管理		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第14回	食品表示制度		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート
第15回	講義のまとめ		予習90分：教科書 復習90分：教科書、ノート

第3版 食品衛生学(田崎達明ほか 羊土社)
参考書
食品の安全(有菌幸司ほか 南江堂)、食品衛生学(一戸正勝ほか 講談社)
成績評価の方法・基準
小テスト(全3回)：20%、学期末試験：80%で評価する。単位認定は60点以上とする。
課題等に対する フィードバックの方法
課題実施後その都度。また、講義のまとめで講評する。
履修のポイント
教科書の予習・復習及び配布プリントの復習をとおり、理解を深めること。不明な点は、早期に解決するよう心がけること。
オフィス・アワー
講義終了後。または、個別に相談のこと。（研究室：9号館 3階 第8研究室）
科目区分
専門科目

講義コード	30170001
講義名	食品衛生学実験
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実験
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

人は生命維持のため、食物の摂取を欠かすことができない。また、食品とは常に安心・安全なものでなければならず、食品衛生学ではその基礎知識について学修した。そこで食品衛生学実験では、科学的な手法を用いて、講義で学んだ知識(食品の規格・基準、危害因子等)と各検査法の原理をより一層深く理解し、習得することを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーである、「人間のからだ、食品、栄養に関する学修を総合的に理解し、健康・栄養に係る現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している」に基づき、広く「食」を扱う職種において、食品の安全性を確保するために必要な知識を習得することが基礎となる。実験においては、その科学的検査法等の習得を目指すものとする。

到達目標

実験をとおして、食品の安全性を確保するために必要となる食品衛生検査の基礎を学修するとともに、食品の規格基準等を科学的視点をもって評価できることを目標とする。また、実験で得られた結果を基にレポート及びプレゼンテーションを行えることを目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	宮本雄基	【オリエンテーション】 【水質検査】 滴定法による硬度測定・DPD法による残留塩素濃度測定	飲料水中の硬度を滴定法により測定する。 DPD法により水道水中の遊離型・結合型残留塩素を測定する。	予習40分： 教科書 復習40分： ノート作成

第2回	宮本雄基	【食品化学分析法】 ・分光光度計の原理(Lambert-Beerの法則) ・メチレンブルー未知濃度試料の定量	分光光度計の原理（Lambert-Beerの法則）を理解する。メチレンブルーの未知濃度試料を測定をする。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第3回	宮本雄基	【油脂の変敗】 ・滴定法による油脂中の遊離脂肪酸の測定(酸価測定)	各種の油脂を試料として、滴定法により酸価を求める。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第4回	宮本雄基	【食品の腐敗・変質試験】 ・TLC法によるヒスタミンの検査	TLC法によりヒスタミンの定性実験を行うことで、食品の腐敗・変質について考える。	予習40分：教科書 復習40分：レポート作成
第5回	宮本雄基	【第一回】 ・プレゼンテーション発表	前回までに行った実験から、各班で分担しプレゼンテーション発表を行う。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第6回	宮本雄基	【微生物検査】 1. 施設や器具のふき取り検査 2. 環境細菌、空中落下細菌	施設、器具等のふき取り検査による細菌数測定のため、試料採取を行う。採取箇所については、個人または班員で協議して決定する。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第7回	宮本雄基	【微生物検査】 3. 手指洗浄度と表面付着細菌の検査	・前回実験の細菌数の測定 ・手指洗浄、表面付着細菌実験の試料を採取する。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第8回	宮本雄基	【微生物検査】 4. 食品中の一般生菌数の測定	・前回実験の細菌数の測定 ・市販の食品から一般生菌数及び大腸菌群を測定するための採取を行う。	予習40分：教科書 復習40分：ノート作成
第9回	宮本雄基	【微生物検査】 5. グラム染色による細菌の観察	・前回実験の細菌数の測定 ・グラム染色による細菌の染色、及び真菌の顕微鏡による形態観察	予習40分：教科書 復習40分：レポート

				作成
第10回	宮本雄基	【第二回】 ・プレゼンテーション発表	前回までに行った実験から、各班で分担しプレゼンテーション発表を行う。	予習40分： 教科書 復習40分： ノート作成
第11回	宮本雄基	【食品添加物】 1. TLC法による食品中の着色料の分離と同定	薄層クロマトグラフィ法を用いた着色料の定性試験を行う。	予習40分： 教科書 復習40分： ノート作成
第12回	宮本雄基	【食品添加物】 2. ヨウ素酸カリウムでんぷん紙を用いた食品中の漂白剤(亜硫酸)の定性試験	食品中に添加された漂白剤（亜硫酸）をヨウ素酸カリウム・でんぷん紙を用いて定性試験を行う。	予習40分： 教科書 復習40分： ノート作成
第13回	宮本雄基	【食品添加物】 3. ジアゾ化法による食品中の発色剤(亜硝酸根)の分離と同定	食肉製品中に添加された発色剤（亜硝酸根）を、ジアゾ化法により定量試験を行う。	予習40分： 教科書 復習40分： ノート作成
第14回	宮本雄基	【食器の洗浄度試験】 ・でんぷん性残留物 ・タンパク質性残留物	食器の残留物を測定することにより各種洗浄効果を確認する。	予習40分： 教科書 復習40分： レポート作成
第15回	宮本雄基	【第三回】 ・プレゼンテーション発表	前回までに行った実験から、各班で分担しプレゼンテーション発表を行う。	予習40分： 教科書 復習40分： ノート作成

教科書

教科書は指定せず、必要に応じて資料を配布する

参考書

食品安全・衛生学実験 岡崎真ほか 講談社サイエニフィック

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。実験レポート80%、プレゼンテーション等20%を総合して評価する。

課題等に対する

フィードバックの方法

提出されたレポートについて、その都度、講評をおこなう。

履修のポイント
実験は主体的に取り組むことで、より深く理解することに繋がります。積極的に参加すること。
オフィス・アワー
講義終了後。または、個別に相談のこと。（研究室：9号館 3階 第8研究室）
科目区分
専門科目

講義コード	30180001	
講義名	公衆栄養学概論	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士としての県庁・保健所での勤務経験に基づき、自治体における健康・栄養課題の現状と栄養政策について具体例を挙げながら解説する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	橘 陽子	指定なし

授業の概要と教育目標

公衆栄養学は国民、地域住民、職域などさまざまな集団を対象に、食と健康の関係を明らかにし、望ましい食生活の実現に向けた公衆栄養活動推進のための基本的な知識と技術を習得することを目指している。

本授業では、公衆栄養学の概念、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、わが国および諸外国の栄養・食料政策に関する理解を目指し、公衆栄養マネジメント、栄養疫学にもつながる、公衆栄養学における幅広い知識を身に付けることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、生活に関する身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解するとともに、生活を取り巻く社会的環境について科学的に理解することを目指し、公衆栄養学の概念、わが国および諸外国の健康・栄養問題の現状と課題、わが国および諸外国の栄養・食料政策に関する理解と習得を目指す。将来的な展望としては、修得した内容を基盤とし、栄養士としての現場での実践的活用や、問題解決能力の発揮に活かすことで、社会で活躍できる人材となることを目指すものとする。

到達目標

- 1.公衆栄養学の枠組みや歴史を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。
- 2.我が国や諸外国の健康・栄養問題の現状と課題を理解し、栄養士が果たすべき役割について考察できるようになる。
- 3.我が国や諸外国の栄養・食料政策を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。
- 4.公衆栄養プログラムの流れや食事調査の手法および日本人の食事摂取基準における集団を対象とした食事評価と改善計画を理解し、栄養士としての実践的活動への発展について説明できるようになる。

授業計画

担当	授業内容と方法、	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な
----	----------	---------------	--------------------

	者	課題		時間
第1回	橘陽子	ガイダンス 公衆栄養学Iでの学びと本授業の概要 課題：災害時の食生活支援における管理栄養士の役割と使命に関する考察	災害時の食生活支援の実例から、管理栄養士の役割と使命を公衆栄養学的観点から考え、発表する。	予習90分：公衆栄養学Iでの学習範囲（第1章～第3章）を教科書で確認する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第2回	橘陽子	公衆栄養学の概念① 公衆栄養の概念 課題：公衆栄養および公衆栄養活動に関する問題	公衆栄養および公衆栄養活動に関して調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「公衆栄養の概念」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第3回	橘陽子	公衆栄養学の概念② 公衆栄養活動 課題：公衆栄養の役割と管理栄養士による公衆栄養活動に関する考察	公衆栄養の役割と管理栄養士による公衆栄養活動の在り方について考え、発表する。	予習90分：教科書「公衆栄養活動」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第4回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題① 健康状態の変化 課題：年齢調整死亡率、健康寿命等に関する問題	公衆栄養における年齢調整死亡率の活用および健康寿命等に関して調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「健康状態の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第5回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題② 食事の変化(1) 課題：国民健康・栄養調査結果に関する問題	国民健康・栄養調査の結果を確認し、健康・栄養問題の現状と課題について発表する。	予習90分：教科書「食事の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第6回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題③ 食事の変化(2) 課題：食事バランスガイドによる食生活の評価	自らの食生活を食事バランスガイドに当てはめて評価し、アセスメント結果と今後の課題について発表する。	予習90分：教科書「食事の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
	橘	健康・栄養問題の現状と課題④ 食生活の変化	食行動、食態度、食知識、食スキルなどの食生活の変化に対応した食環境整備の事例	予習90分：教科書「食生活の変化」を熟読する。 復習90分：理解が

第7回	陽子	課題：食環境整備の事例に関する考察	を調べ、特徴や今後の課題について発表する。	不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第8回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題⑤ 食環境の変化 課題：食物・情報へのアクセス、特定保健用食品に関する問題	食物・情報へのアクセスや特定保健用食品等の制度について調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「食環境の変化」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第9回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題⑥ フードバランスシート 課題：食料需給表に関する問題	食料需給表および現在の我が国の食料自給率について調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「食料需給表（フードバランスシート）」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第10回	橘陽子	健康・栄養問題の現状と課題⑦ 諸外国の健康・栄養問題の現状 課題：健康・栄養問題の現状と課題に関するまとめ問題	我が国および諸外国の健康・栄養問題の現状と課題に関してまとめ、発表する。	予習90分：教科書「諸外国の健康・栄養問題の現状」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第11回	橘陽子	栄養政策① わが国の公衆栄養活動と関連法規 公衆栄養活動と組織・人材育成 課題：公衆栄養施策と根拠法に関する問題	公衆栄養施策と根拠法についてまとめ、発表する。	予習90分：教科書「わが国の公衆栄養活動と関連法規」「公衆栄養活動と組織・人材育成」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第12回	橘陽子	栄養政策② 国民健康・栄養調査 課題：国民健康・栄養調査の実施に関する問題	国民健康・栄養調査の概要および実施方法について調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「国民健康・栄養調査」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
		栄養政策③ 実施に関する指針、ツール わが国の健康増進		予習90分：教科書

第13回	橘陽子	基本方針と地方計画 課題：身体活動および食生活に関する指針・ツールに関する問題 健康日本21（第二次）・健康日本21（第三次）、特定健康診査・特定保健指導、食育推進に関する問題	食生活指針、健康づくりのための身体活動・運動ガイド、食育ガイド、健康な食事等の指針・ツール、健康日本21（第二次）・健康日本21（第三次）、特定健康診査・特定保健指導、食育推進計画について調べ、自らの考えを発表する。	「実施に関する指針、ツール」「わが国の健康増進基本方針と地方計画」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第14回	橘陽子	栄養政策④ 諸外国の健康・栄養政策 課題：栄養政策に関するまとめ問題	我が国および諸外国の栄養政策に関してまとめ、発表する。	予習90分：教科書「諸外国の健康・栄養政策」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。
第15回	橘陽子	栄養疫学 公衆栄養プログラム 課題：食事調査、公衆栄養プログラムに関する問題	食事調査、日本人の食事摂取基準の集団への活用、公衆栄養プログラムの実例を調べ、自らの考えを発表する。	予習90分：教科書「栄養疫学」「公衆栄養プログラムの展開」を熟読する。 復習90分：理解が不十分な部分を中心に教科書等で復習し、知識の定着を図る。

教科書

健康・栄養科学シリーズ 公衆栄養学 改訂第8版

参考書

日本人の食事摂取基準（2020年版） 第一出版

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上

毎回課す課題をすべて提出すること。

原則定期試験100%評価だが、課題を期限内に提出しない場合は1点/回減点する。

課題等に対する フィードバックの方法

課題の解説は次回授業開始時に行う。

履修のポイント

授業内容に連続性があり、習得度に合わせた内容変更の可能性もあるので欠席はしないこと。

オフィス・アワー

昼休み 11号館研究室9

科目区分

専門科目

講義コード	30190001	
講義名	臨床栄養学実習	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
代表曜日	水曜日	
代表時限	3 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教 員	五十嵐 桂子	指定なし
教員	井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

各疾患の概要や栄養状態をし、予防・治療に有効である栄養状態の特徴に基づいて適切な栄養管理を行うための疾患コントロール状況および栄養状態の評価・判定を行い具体的な臨床栄養管理（介入計画の作成、実施、モニタリング、評価）それに伴う治療食の献立内容や量を把握、評価する。献立の理論と技術を習得する。医療機関、施設で適切な臨床栄養管理を行うためのスキルを身につける。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「人間のからだのしくみ」「食品」「栄養素」に関する知識を総合的に理解し、各種の疾患に対する予防と治療には食事と栄養が密接にかかわっている事を確認し、栄養士の役割としてフードサービス（身体状況に合わせた献立作成・調理方法）の技術の向上を図ることにより「健康・栄養」に関わる現場での実践力を学び、多様な問題への解決能力を習得することを目指す。

到達目標

栄養士の役割である「食と栄養のプロフェッショナル」として、医療機関、施設等における栄養実践活動に対応、業務遂行、即戦力となる技術の修得

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために 必要な時間
第1回	五十嵐桂子井	- ガイダンス 臨床栄養学実験 - 各疾患別栄養療法の重要ポイント - 病院と施設等の給食について	「課題」流動食 軟食について調べる（グループワーク）	予習：教科書の該当箇所を読む（45分） 復習：配布

	桁千恵子			プリントを見直す (45分)
第2回	五十嵐桂子 井桁千恵子	①流動食の種類・適応、流動食について (流動食の栄養基準と食品構成) ②軟食の種類、軟食の適応、食品の適応と調理 分粥食栄養基準と食品構成	「演習」軟食献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第3回	五十嵐桂子 井桁千恵子	流動食の実習	軟食の種類・軟食の実習 各グループごとに発表	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第4回	五十嵐桂子 井桁千恵子	糖尿病の食事療法の実際（食品交換表を使用した献立作成）	「課題」献立表の作成 食品交換表に基づいた献立表の各食に配分された単位を示す 使用本：糖尿病食事療法のための食品交換表	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第5回	五十嵐桂子 井桁千恵子	糖尿病基本献立の立案（食品交換表に基づき 1600kcal）	「演習」炭水化物 60% の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第6回	五十嵐桂子 井桁千恵子	第5回の演習献立を使用	次回の実験に向けて献立選択 各グループごとに実習作業工程表・発注表作成	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
	五十			予習：教科

第7回	嵐 桂子 井 桁 千 恵 子	食品交換表に基づいた基本献立の調理	演習献立の評価 各グループごと 発表	書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第8回	五十嵐 桂子 井 桁 千 恵 子	たんぱく制限のある糖尿病治療食 糖尿病性腎症の食事療法について 糖尿病性腎症の食品交換表の使い方 エネルギー調整食品について	糖尿病性腎症の献立作成	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第9回	五十嵐 桂子 井 桁 千 恵 子	腎疾患における食事療法 腎臓病食品交換表 単位配分と献立について (たんぱく質30g・10単位の食事)	「課題」たんぱく質30g・10単位の献立作成 使用本：腎臓病食品交換表	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第10回	五十嵐 桂子 井 桁 千 恵 子	腎疾患における食事療法 腎臓病食品交換表 単位配分と献立について (たんぱく質30g・10単位の食事)	慢性腎不全の献立を実習 低たんぱく質、食塩、特殊食品の使用例 各グループごとに発表	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第11回	五十嵐 桂子 井 桁 千 恵 子	食塩コントロール食（虚血性心疾患・本態性高血圧症）栄養基準と食品構成、食品の選択、献立及び調理の工夫ナトリウムの食塩換算、塩分の換算	「実習」献立作成（本態性高血圧症）	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第12回	五十嵐 桂子 井 桁 千	各グループごとに 本態性高血圧症の献立選択 実習作業工程表・発注表作成	「課題」 食塩制限が必要な疾患についてのまとめ	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す

	恵子			(45分)
第13回	五十嵐桂子 井桁千恵子	検査食の要点	作成した献立に基づいた調理実習	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第14回	五十嵐桂子 井桁千恵子	高齢者の身体的特徴と介護食の基本とポイント ①嚥下食ピラミッド ②ユニバーサルデザインフード	「課題」咀嚼・嚥下障害食の工夫	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)
第15回	五十嵐桂子 井桁千恵子	脾臓の食事療法 貧血の食事療法	食事のポイント 栄養管理のポイント	予習：教科書の該当箇所を読む (45分) 復習：配布プリントを見直す (45分)

教科書

「栄養食事療法の実習」本田佳子編（医歯薬出版）
「糖尿病食事療法のための食品交換表」（日本糖尿病学会）
「腎臓病食品交換表治療食の基準」（医歯薬出版）

参考書

食品交換表 献立作成時のポイント 他 適宜紹介

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
演習、課題提出（30%）・期末テスト（70%）により評価
提出物は締め切り厳守

課題等に対する フィードバックの方法

レポート課題は採点后返却します。配布プリントと共に学習の参考にして下さい。

履修のポイント

授業へ参加して学んでください。

オフィス・アワー

質問や相談については、授業し終了後などにて応じます。
* 講義の順番については変更の場合もあります。

科目区分

講義コード	30200001
講義名	スポーツ栄養学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	公認スポーツ栄養士としてのスポーツ現場での実務経験をもとに、スポーツ現場で生きる知識やスキルを得られる内容を展開する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	金剛地 舞妃	指定なし

授業の概要と教育目標

アスリートの栄養管理について、様々な競技や競技レベルの対象者を栄養面からサポートする知識や方法への理解を深め、伝える技術を磨く。
そのため、ジュニア期や女性アスリートも含めたアスリート全体の栄養管理やサプリメント等について学び、対象者に伝わる伝え方ができるよう実践も行う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学科のディプロマポリシーとの関連として、③④での「人間のからだ」「食品」「栄養」についてのそれぞれの知識や相互作用の理解を深め活用し、「健康・栄養」に係る現場で実践的な栄養士として活躍できるための知識や技術を学ぶ。卒業後にはスポーツ栄養の現場等で活躍できるように習得する。

到達目標

アスリートの栄養管理の概要を理解し、様々な視点から「食事・栄養」をとらえて他の科目の知識と融合させ、自分の強みを生かし、得た知識を対象者に伝わる形でアウトプットできるようになることを目指す。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	金剛地 舞妃	授業概要説明 スポーツ現場での栄養士の仕事紹介		予習90分（スポーツ栄養を調べる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第2回	金剛地 舞妃	アスリートの栄養管理1 スポーツ栄養マネジメントの概要		予習90分（スポーツ栄養マネジメントについて調べる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
3	金剛	アスリートの栄養管理2		予習90分（アスリートの栄養補給量について調べる）

第 回	地 舞 妃	アスリートの栄養補給 量		復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第4回	金剛 地 舞 妃	アスリートの栄養管理3 期分けと競技特性	競技特性調査	予習90分（アスリートの期分けについて調べる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第5回	金剛 地 舞 妃	アスリートの栄養管理4 スポーツサプリメント の知識と活用法	商品調査・比較	予習90分（エネルギーゼリーについて調べる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第6回	金剛 地 舞 妃	アスリート対象栄養教育（栄養セミナー）の 実践1	栄養セミナー実施に向けたグループディスカッション	予習90分（アスリート対象の栄養セミナーについて調べる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第7回	金剛 地 舞 妃	アスリート対象栄養教育（栄養セミナー）の 実践2	栄養セミナー実施に向けた準備	予習90分（セミナー内容考案のための情報収集を行う） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第8回	金剛 地 舞 妃	アスリート対象栄養教育の実践3 発表・評価		予習90分（発表のための準備を行う） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書

必要があれば資料配布、またはその都度授業内で案内する。

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上
提出物50%、発表50%

課題等に対する フィードバックの方法

課題や発表に対して、コメントする。

履修のポイント

グループワークにおいて積極的に意見を伝え、受け止め、考察し、さらに学びを深めていけると良い。

オフィス・アワー

授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。

科目区分

専門科目

講義コード	30210001
講義名	スポーツ栄養学実習
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	4時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	公認スポーツ栄養士としてのスポーツ現場での実務経験をもとに、スポーツ現場で生きる知識やスキルを得られる内容を展開する。
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	金剛地 舞妃	指定なし

授業の概要と教育目標

様々な競技や競技レベルの対象者を栄養面からサポートする知識や方法への理解を深め、実践力と伝える技術を磨く。
 そのため、アスリートを栄養面からサポートする具体的な方法やサプリメント等の活用を学び、実践する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

本学科のディプロマポリシーとの関連として、③④での「人間のからだ」「食品」「栄養」についてのそれぞれの知識や相互作用の理解を深め活用し、「健康・栄養」に係る現場で実践的な栄養士として活躍できるための知識や技術を学ぶ。卒業後にはスポーツ栄養の現場等で活躍できるように習得する。

到達目標

アスリートを栄養面からサポートする具体的な方法を学び、様々な視点から「食事・栄養」をとらえて他の科目の知識と融合させ、自分の強みを生かし、スポーツ現場で活かせる実践力を身に付けられるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	金剛地 舞妃	授業概要説明		予習90分（スポーツ栄養を調べる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
第2回	金剛地 舞妃	水分補給① スポーツドリンクを作る、比較する	スポーツドリンク試飲 スポーツドリンク作り 経口補水液作り	予習90分（スポーツドリンクについて調べる） 復習90分（授業の記録をノートと資料で再確認する）
3	金剛	水分補給②		予習90分（経口補水液について調べる）

第 回	地 舞 妃	発表準備	資料作成	復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第4回	金剛 地 舞 妃	水分補給③ 発表	発表	予習90分（発表のための準備を 行う） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第5回	金剛 地 舞 妃	サプリメントの活用 ① 調査	市販されているサプリ メントについて調べる	予習90分（エネルギーゼリーに ついて調べる） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第6回	金剛 地 舞 妃	サプリメントの活用 ② 試飲、試食	サプリメントの試飲、 試食	予習90分（プロテインについて 調べる） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第7回	金剛 地 舞 妃	サプリメントの活用 ③ 発表準備	資料作成	予習90分（発表のための情報収 集を行う） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第8回	金剛 地 舞 妃	サプリメントの活用 ④ 発表	発表	予習90分（発表のための準備を 行う） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第9回	金剛 地 舞 妃	アスリートの食事・ 補食作り① テーマ、内容考案	レシピ考案	予習90分（アスリートの補食の 必要性について調べる） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第10回	金剛 地 舞 妃	アスリートの食事・ 補食作り② 内容考案	レシピ考案	予習90分（簡単に作れるレシピ について調べる） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第11回	金剛 地 舞 妃	アスリートの食事・ 補食作り③ 調理実習、発表	調理実習、発表	予習90分（発表のための準備を 行う） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第12回	金剛 地 舞 妃	アスリートの食事・ 補食作り④ 調理実習、発表	調理実習、発表	予習90分（発表のための準備を 行う） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第13回	金剛 地 舞 妃	アスリート向け栄養 ガイドブック作成① 内容考案	ガイドブック作成	予習90分（アスリート向けの栄 養に関する本を読む） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第14回	金剛 地 舞 妃	アスリート向け栄養 ガイドブック作成② 作成、プレゼン準備	ガイドブック作成	予習90分（ガイドブック内容考 案のための情報収集を行う） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）
第15回	金剛 地 舞 妃	アスリート向け栄養 ガイドブック作成③ 完成・発表	ガイドブックについて 発表する	予習90分（発表のための準備を 行う） 復習90分（授業の記録をノート と資料で再確認する）

教科書

使用しない。適宜プリントを配布する。

参考書
必要があれば資料配布、またはその都度授業内で案内する。
成績評価の方法・基準
単位認定：60点以上 提出物50%、発表50%
課題等に対する フィードバックの方法
課題や発表に対してコメントする。
履修のポイント
実習において意図を理解し、積極的に発言し、考察し、さらに学びを深めていけると良い。
オフィス・アワー
授業日の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
専門科目

講義コード	30220001	
講義名	校外実習I	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
代表曜日		
代表時限		
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士法が2002年に改正され、栄養士は単に食事を提供するのみではなく、食を通して人をより良い栄養状態に導く健康のプロであることが明言されました。栄養士を目指す学生は、人の健康の担い手であることが求められている。

本授業では、いろいろな問題を見つけみずからの力で解決していくことにより、体験を通して物事を知る「実践の知」につながる実習をおこなう。経験・体験した知識を就職に結びつけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、学修を総合的に理解し、卒業後に栄養士として活躍できるよう実習現場での経験をし、社会人になれるように基本的な事項を身につける、栄養士としての意識を持って望み、問題を解決できる学生の校外実習をめざす。

到達目標

栄養士に必要な知識・技術の学習を、実習現場で経験することにより、栄養士の役割を理解し、現場において役立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	実習先の発表と説明、 実習に当たっての諸注意 班員の情報確認と共有する		校外実習について理解するために事前学習90分以上
第2回	校外実習についての説明（学校給食、事業所給食） 各実習施設の情報共有	各班ごとに分かれ情報を共有する	各実習場所の特徴について調べるために120分以上

	する		
第3回	事前挨拶等の説明、事前課題 課題発表、提出日時、 場所等共有確認する		事前課題等の作成のために90分以上 実習施設への連絡確認のために90分
第4回	実習施設との事前準備	各班ごとに分かれ情報を共有する（確認事項をまとめるなど）	実習場所の内容について事前学習180分以上
第5回	実習直前指導		事前準備のために120分以上、毎日ノート整理等に60分以上
第6回	施設実習 1		事後学習のために120分以上
第7回	施設実習 2		事後学習のために120分以上
第8回	施設実習 3		事後学習のために120分以上
第9回	施設実習 4		事後学習のために120分以上
第10回	施設実習 5		事後学習のために120分
第11回	課題提出 1	各班ごとに分かれ情報を共有する（確認事項をまとめるなど）	実習場所の内容について事前学習120分以上
第12回	課題提出 2		事前準備のために120分以上 毎日ノート整理等に60分以上
第13回	課題提出 3		課題提出のために120分以上
第14回	報告会及び反省会の準備	各班ごとに班長中心に意見をまとめ、報告会にむけての準備をする。	報告会のための準備に180分以上
第15回	各実習場所の報告会および反省会	各班の代表者による実習報告を実施し、情報交換等を実施する。	報告会のための準備に120分以上 報告会終了後 まとめに60分

教科書

栄養士校外実習ノート（学内作成用）

参考書

管理栄養士・栄養士になるための国語表現 萌文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 校外実習先評価点90%、事前・事後課題10%

課題等に対する フィードバックの方法

実習反省会の資料を作成、発表後、学生へ返却する。

履修のポイント

具体的な栄養士の現場を体験することにより、栄養士の内容を理解する
令和2年度のように緊急事態にも対応できるように、随時対応策の考えながら実施する

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20または授業終了後、随時 9号館 3階 第8研究室

科目区分

専門科目

講義コード	30230001
講義名	校外実習II
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士法が2002年に改正され、栄養士は単に食事を提供するのみではなく、食を通して人をより良い栄養状態に導く健康のプロであることが明言されました。栄養士を目指す学生は、人の健康の担い手であることが求められている。

本授業では、いろいろな問題を見つけみずからの力で解決していくことにより、体験を通して物事を知る「実践の知」につながる実習をおこなう。経験・体験した知識を就職に結びつけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、学修を総合的に理解し、卒業後に栄養士として活躍できるよう実習現場での経験をし、社会人になれるように基本的な事項を身につける、栄養士としての意識を持って望み、問題を解決できる学生の校外実習をめざす。

到達目標

病院及び社会福祉施設の栄養士業務に必要な知識・技術学習を、実習現場で経験することにより、栄養士の役割を理解し、現場において役立つ社会人となることが到達目標である。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	実習先の発表と説明、実習に当たっての諸注意 班員の情報確認と共有する		校外実習について理解するために事前学習90分以上
第2回	校外実習についての説明 (病院給食、社会福祉施設)	各班ごとに分かれ情報を共有する	各実習場所の特徴について調べるために120分以上
3	事前挨拶等の説明、事前課題		事前課題等の作成のために90分以上

第 回	課題発表、提出日時、場所等共有確認する		実習施設への連絡確認のために90分
第4回	実習施設との事前準備	各班ごとに分かれ情報を共有する（確認事項をまとめるなど）	実習場所の内容について事前学習180分以上
第5回	実習直前指導		事前準備のために120分以上、毎日ノート整理等に60分以上
第6回	施設実習 1		事後学習のために120分以上
第7回	施設実習 2	各班の代表者による実習報告を実施し、情報交換等を実施する。	事後学習のために120分以上
第8回	施設実習 3		事後学習のために120分以上
第9回	施設実習 4		事後学習のために120分以上
第10回	施設実習 5		事後学習のために120分以上 実習施設への連絡確認のために120分
第11回	課題提出 1	各班ごとに分かれ情報を共有する（確認事項をまとめるなど）	実習場所の内容について事前学習120分以上
第12回	課題提出 2		事前準備のために120分以上 毎日ノート整理等に60分以上
第13回	課題提出 3		課題提出のために120分以上
第14回	報告会及び反省会の準備	各班ごとに班長中心に意見をまとめ、報告会にむけての準備をする。	報告会のための準備に180分以上
第15回	各実習場所の報告会および反省会	各班の代表者による実習報告を実施し、情報交換等を実施する。	報告会のための準備に120分以上 報告会終了後 まとめに60分

教科書

栄養士校外実習ノート（学内作成用）

参考書

管理栄養士・栄養士になるための国語表現 萌文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 校外実習先評価点90%、事前・事後課題10%

課題等に対する フィードバックの方法

実習反省会の資料を作成、発表後、学生へ返却する。

履修のポイント

具体的な栄養士の現場を体験することにより、栄養士の内容を理解する
令和2年度のように緊急事態にも対応できるように、随時対応策の考えながら実施する

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20または授業終了後随時 9号館 3階 第8研究室

科目区分

専門科目

講義コード	30240001	
講義名	栄養指導論I	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	木曜日	
代表時限	2 時限	
必修/選択	必修	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	管理栄養士として実践現場での栄養教育経験を有し、理論と実践を統合した授業を展開する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	大山 珠美	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育は、対象者の健康や生活の質（QOL）の向上に向けて実践するものである。そのためには、栄養教育の概念を踏まえた行動科学理論が重要であり、対象者を行動変容へ導くために本人の考え方や態度を科学的に分析し、その行動を予測した対応と対象者との関わり方を学習する。また、PDCAサイクルを基に栄養教育マネジメントの一連の流れを学習する。本授業では、栄養教育・栄養指導に必要な基礎知識である理論やモデル、栄養カウンセリングについて修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシー4.「「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している」に関連し、社会が求める栄養士の役割を果たすことができる必要な知識や技術を修得することを目指すものとする。

到達目標

- ・栄養教育・栄養指導の目的を理解する
- ・効果的な栄養教育・栄養指導を実施するために必要な行動科学を理解し、実践の場に活かせる。
- ・栄養カウンセリングを理解し、効果的な栄養カウンセリングが実施できる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	大山 珠美	○栄養指導論Iのオリエンテーション ○栄養教育の目的と意義： 栄養教育の定義、目的・目標 ○栄養教育の対象と機会	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：教科書 第1章 p1-18を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。

第2回	大山珠美	○栄養教育と行動科学 ・ 栄養教育における行動科学の必要性と位置づけ ○行動科学の理論とモデル1 ・ 刺激－反応理論、レスポナント条件づけ、オペラント条件づけ	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：教科書 第2章 p 9-13を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第3回	大山珠美	○行動科学の理論とモデル2 ・ 刺激統制、反応妨害・拮抗、行動置換、オペラント強化	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：教科書 第2章 p 13-14を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第4回	大山珠美	○行動科学の理論とモデル3 ・ KAPモデル、ヘルスビリーフモデル	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：教科書 第2章 p 14-16を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第5回	大山珠美	○行動科学の理論とモデル4 ・ 計画的行動理論 ○小テスト①	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。 問題を解き理解を深める	予習90分：教科書 第2章 p 16-17を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第6回	大山珠美	○行動科学の理論とモデル5 ・ 社会的認知理論	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：教科書 第2章 p 17-19を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第7回	大山珠美	○行動科学の理論とモデル6 ・ ソーシャルサポート、ストレスマネジメント ・ ナッジ	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：教科書 第2章 p 19-23を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第8回	大山珠美	○行動科学の理論とモデル7 ・ トランスセオレティカルモデル	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：教科書 第2章 p 23-25を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第9回	大山珠美	○組織づくり・地域づくりへの展開1 ・ エンパワーメント、ソーシャルキャピタル、グループダイナミックス、コミュニティオーガニゼーション ○小テスト②	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。 問題を解き理解を深める	予習90分：教科書 第2章 p 25-29を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第10回	大山珠美	○組織づくり・地域づくりへの展開2 ・ コミュニケーション理論、イノベーション普及理論、ソーシャルマーケティング、生態学的	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：教科書 第2章 p 29-35を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。

		モデル		とめる。
第11回	大山珠美	○組織づくり・地域づくりへの展開3 プリシード・プロシードモデル	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：教科書 第2章 p36-38を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第12回	大山珠美	○食環境づくり ○栄養カウンセリング① ○小テスト③	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。 問題を解き理解を深める	予習90分：教科書 第2章 p38-45を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第13回	大山珠美	○栄養カウンセリング② ・基礎的技法	ペアワーク	予習90分：教科書 第2章 p45-48を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第14回	大山珠美	○栄養カウンセリング③ ・認知行動療法 ・動機づけ面接	ペアワーク	予習90分：教科書 第2章 p45-48を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。
第15回	大山珠美	○栄養カウンセリング④ ・コーチング ○まとめ		予習90分：教科書 第2章 p50-52を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：学習を振り返り、まとめる。

教科書

カレント栄養教育論（第2版）、建帛社

参考書

適宜、紹介する

成績評価の方法・基準

試験、小テスト、課題、授業への参加態度（リフレクション）により評価する。

単位認定基準：60点以上

評価方法：定期試験(50%) 課題・小テスト(40%) 授業への参加度(10%)

課題等に対する フィードバックの方法

課題はコメントまたは口頭で解説する。

小テストは当日に解説する。

履修のポイント

小テストや課題を課すので、積極的に取り組み、分からないことは質問し復習をすること。また、私語・本講義と関係ない作業をすること、無断退席など厳に慎むこと。

教科書を中心に進めていくので、予習、復習を行うこと。

疑問、意見、質問は速やかに申し出ること。疑問や意見は評価に含めない。

オフィス・アワー

曜日：火

時間：12:45～13:15（昼休み）

場所：11号館3階 研究室18

科目区分

専門科目

講義コード	30250001	
講義名	栄養指導論Ⅱ	
(副題)	【栄養士必修】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	金曜日	
代表時限	3 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	健康増進施設における栄養指導担当の経験に基づき、健診結果に基づく栄養アセスメント、栄養指導・栄養教育を事例として挙げながら講義を行う	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	大山 珠美	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教育・栄養指導は、学習者自身が自らの食行動を選択・決定し、現行の食行動を変容させることを援助していくプロセスである。栄養指導論IIでは学習者をライフステージやライフスタイルに分けて、学習者の食生活や栄養摂取状況を把握するだけでなく、社会的、身体的、心理的背景等を理解し、効果的な栄養教育・栄養指導をマネジメントできるように学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシー、「4.「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している。」に関連し栄養指導の実践ができるようになる。

到達目標

ライフステージ、ライフスタイルにおける課題を理解し、学習者のライフステージ、ライフスタイルに合わせた栄養指導のマネジメントができるようにする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	大山 珠美	栄養教育マネジメント ・オリエンテーション ・栄養教育マネジメントの進め方 ・栄養教育アセスメント	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第3章、p 56～p 67を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第2回	大山 珠	栄養教育マネジメント ・食事調査法 ・目標設定	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第3章、テキスト p 64,70～72を読み、重要な箇所に線を引いておくとともに質問事項をまとめる。

	美		する。	復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第3回	大山珠美	栄養教育マネジメント・栄養教育の評価	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第3章、テキストp 72～74を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる。
第4回	大山珠美	栄養教育マネジメント・経済評価・形成的評価、総括的評価	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第3章、テキストp 74～79を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第5回	大山珠美	栄養教育マネジメント・栄養教育計画の立案	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする	予習90分：テキスト第3章、教科書p 79～86を読み重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第6回	大山珠美	栄養教育マネジメント・学習形態	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第3章、教科書p 86～96を読み重要な箇所に線を引いておくとともに、質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第7回	大山珠美	栄養教育の展開の実際・妊娠・授乳期の栄養教育 課題：妊娠期または授乳期の栄養教育の課題を設定し、教育計画を立てる	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第4章を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第8回	大山珠美	栄養教育の展開の実際・乳幼児期の栄養教育 課題：乳幼児期の栄養教育の課題を設定し、教育計画を立てる	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第5章を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第9回	大山珠美	栄養教育の展開の実際・学童期・思春期の栄養教育 課題：学童期または思春期の栄養教育の課題を設定し、教育計画を立てる	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第6章を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第10回	大山珠美	栄養教育の展開の実際・成人期の栄養教育 課題：成人期の栄養教育の課題を設定し、教育計画を立てる	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第7章を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
	大山	栄養教育の展開の実際・高齢期の栄養教育	ワークシートに記入後、周囲の	予習90分：テキスト第8章を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項を

第11回	珠 美	課題：高齢期の栄養教育の課題を設定し、教育計画を立てる	人と意見交換をする。	まとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第12回	大 山 珠 美	栄養教育の展開の実際・傷病者の栄養教育 課題：傷病者の栄養教育の課題を設定し、教育計画を立てる	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第9章を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第13回	大 山 珠 美	栄養教育の展開の実際・障がい者の栄養教育 課題：障がい者の栄養教育の課題を設定し、教育計画を立てる	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第10章を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第14回	大 山 珠 美	栄養教育の展開の実際・アスリートの栄養教育 課題：アスリートの栄養教育の課題を設定し、教育計画を立てる	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：テキスト第11章を読み、重要な箇所に線を引くとともに質問事項をまとめる。 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる
第15回	大 山 珠 美	栄養教育の展開の実際・課題の発表 まとめ（評価）	ワークシートに記入後、周囲の人と意見交換をする。	予習90分：今までの課題を整理し、発表に備える 復習90分：授業内容を振り返り、まとめる

教科書

カレント栄養教育論（第2版）、建帛社

参考書

日本人の食事摂取基準（2020年版）、第一出版

成績評価の方法・基準

試験、小テスト、レポート（課題）、授業態度（リフレクション）により評価する。

単位認定60点以上

評価基準（100%）：定期試験50%、小テスト10%、レポート30%、授業態度10%

課題等に対する フィードバックの方法

レポート、小テストは、翌週に口頭にて解説する。

履修のポイント

授業は主体的に参加すること。

教科書を中心に授業を進めるので、必ず予習をすること。

疑問、意見、質問は、速やかに申し出ること。疑問や意見を評価することはない。

オフィス・アワー

火曜日、昼休み（12：30～13：00）

11号館3F 研究室18

科目区分

専門科目

講義コード	30260001
講義名	栄養指導論実習
(副題)	【栄養士必修】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	1
代表曜日	金曜日
代表時限	3時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	中島 君恵	指定なし
教員	石井 広二	指定なし
教員	大山 珠美	指定なし

授業の概要と教育目標

【授業概要】栄養指導論I、栄養指導論IIで学んだ知識、理解のもとに、栄養教育、指導を実践するための、各調査による実態把握、栄養スクーリング、栄養アセスメント、栄養診断、栄養教育・指導計画の作成等について学習する。また、実態把握のための集団データの統計解析についても学習する。

【教育目標】集団データの統計解析、栄養教育・指導の進め方や活用する教材等について理解を深め、栄養教育・指導を行うことができる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「栄養指導」「統計学」「情報処理」「プレゼンテーション」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する栄養士の基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・栄養指導に必要な栄養アセスメントを理解し、実践できる。
- ・栄養教育・指導における統計処理の基本的な知識と技術を習得する
- ・パワーポイントを用いて栄養教育資料を作成しプレゼンテーションを行うことができる

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中島君恵	学習目的・講義計画について、文献検索について、PCの習熟度に		予習30分：テキストを読む。復習30分：配布資料

	大山 珠美	についての確認、 演習 担当：中島・大山		及びテキストを見直す。
第2回	大山 珠美	食事調査 食事調査の種類 と方法 タイムスタディ (生活時間調 査) 身体計測 担当：大山	グループごとに身体計測を行う	予習30分：「栄養 教育論実習」 第2章を読み、理 解する 復習30分：実習の 振り返り、課題に 取り組む
第3回	大山 珠美	食事調査票の確 認 食事バランスガ イドによる評価	ペアワーク：食事記録の確認をペアで行う。 食事記録から食事バランスガイドに当てはめて 評価を行う。	予習30分：「栄養 教育論実習」 第2章を読み、理 解する 復習30分：実習の 振り返り、課題に 取り組む
第4回	大山 珠美	食事記録の解析 タイムスタディ による消費エネ ルギー	食事記録をPCを使って栄養価計算を行う。 タイムスタディを解析し、消費エネルギー量を 求める	予習30分：「栄養 教育論実習」 第2章を読み、理 解する 復習30分：実習の 振り返り、課題に 取り組む
第5回	大山 珠美	食事記録の解析 と評価 栄養アセスメン トからの課題抽 出	栄養アセスメントから自己課題を抽出する。	予習30分：「栄養 教育論実習」 第2章を読み、理 解する 復習30分：実習の 振り返り、課題に 取り組む
第6回	大山 珠美	栄養アドバイスの 作成 発表	一連の結果を用いて、栄養アドバイスを作成す る グループで、栄養アドバイス文を確認後、グル ープごとに発表	予習30分：「栄養 教育論実習」 第2章を読み、理 解する 復習30分：実習の 振り返り、気づい た点を記録する
第7回	石井 広二	栄養データの収 集とExcelを使 用したデータの 整理	Excelを用いてデータの整理、度数分布表の作成 をおこなう	予 習30分：Moodle上 の資料を読み、理 解する 復習30分：理解度 の問題を行う
第8回	石井 広二	栄養データのま とめ方と代表値	Excelを用いて代表値や散布度を求め、データの 視覚化をおこなう	予 習30分：Moodle上 の資料を読み、理 解する 復習30分：理解度 の問題を行う
	石			予 習30分：Moodle上

第9回	井 広 二	相関と回帰分析	Excelを用いて相関係数を求め、また回帰分析をおこなう	の資料を読み、理解する 復習30分：理解度の問題を行う
第10回	石 井 広 二	検定による比較の方法	Excelを用いて、平均値の比較をおこなう	予 習30分：Moodle上の資料を読み、理解する 復習30分：理解度の問題を行う
第11回	中 島 君 恵	パワーポイントの操作方法、インターネットを用いた情報検索と著作権 担当：中島	履修者にどのような栄養に関する情報が必要かについて意見交換をさせ、栄養指導について理解するきっかけを作る。また資料を用いて生活習慣病等に関する栄養情報を用いて解説して理解を深め、再度栄養指導に関する意見交換を行う。	予習30分：テキストを読む。復 習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第12回	中 島 君 恵	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島		予習30分：テキストを読む。復 習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第13回	中 島 君 恵	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島		予習30分：テキストを読む。復 習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第14回	中 島 君 恵	テーマを選び、パワーポイントを用いてプレゼンテーション資料作成及び発表 担当：中島	各自で作成した資料をもとに1人ずつプレゼンテーションを行う。	予習30分：テキストを読む。復 習30分：配布資料及びテキストを見直す。
第15回	中 島 君 恵	発表 担当：中島	各自で作成した資料をもとに1人ずつプレゼンテーションを行う。	予習30分：テキストを読む。復 習30分：配布資料及びテキストを見直す。

教科書

栄養指導：「栄養教育論実習」（光生館）
食品成分表2022（女子栄養大学出版部）
その他は適宜プリントを配布する。

参考書

「30時間アカデミック情報リテラシー Office2019」
「データサイエンス入門第2版」（学術図書）竹村・姫野・高田 編
「エクセル活用コメディカル統計テキスト」（医歯薬出版）宮城重二著

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 栄養指導（第1回～第6回）：40%,統計処理（第7回～第10回）：30%,プレゼンテーション（第11回～第15回）：30%を総合して評価

課題等に対する フィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあります。返却しますので、学習の参考にしてください。

履修のポイント

栄養教育・指導に関する情報に対して科学的な視点を持ち、積極的な姿勢で授業に臨むこと。統計処理においては、「くらしと統計」を履修していない学生は特に予習として参考書やMoodle上の資料を確認・熟読しておいてください。その他についても、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読、課題を復習として勧めます。
また、栄養士必修科目のため、欠席（公欠含む）した場合は必ず補講内容について確認してください。

オフィス・アワー

中島：木曜日、12：30～13：20（昼休み）、9号館3階第7研究室
石井：金曜日、12：30～13：20（昼休み）、11号館3階第6研究室
大山：金曜日、12：30～13：20（昼休み）、11号館3階第18研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

講義コード	30270001	
講義名	フードコーディネート論	
(副題)		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	木曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

フードコーディネートとは、食に関する場において、複雑な条件を調整し、それぞれの要求に沿って満足できる状況を演出することである。それは食事の歴史、あるいは食文化といった背景、メニュープランニング、食空間コーディネートや食卓のサービス・マナーといった要因が複雑に関係して総合的に構築されるものである。本講義では、食の本質が「おいしさ」、「楽しさ」、「おもてなし」にあることを学ぶ上で欠かすことのできない、フードコーディネートの基礎知識を習得すると共に、評価する手法についても併せて学習し、理解を深めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

「健康・栄養」に係る現場において多様化する社会のニーズに対し、個人を取り巻く社会的環境やライフステージ、生活習慣等を理解し、総合的に判断した上で、適切なメニュープランニング、食空間の提案等ができるよう「フードスペシャリスト」の基盤となる学修を行うことを目指す。

到達目標

- ・フードコーディネートの基本理念であるおいしさの理論を習得する。
- ・食事の文化、料理様式についての知識を習得し、メニュープランニングの理論を習得する。
- ・食卓及び食空間のコーディネート、サービス、マナーについて基本的な知識を習得する。
- ・フードサービスマネジメントの知識と理論を習得する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	フードコーディネートの基本理念		予習90分：教科書(1章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す

第2回	食事の文化 ^I		予習90分：教科書(2章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第3回	食事の文化 ^{II}	履修者に身の回りの「特別な日(ハレの日)の食事」について発表させることで、身近な食文化等についてより深い理解を促す。	予習90分：教科書(2章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第4回	食卓のコーディネート ^I		予習90分：教科書(3章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第5回	食卓のコーディネート ^{II}		予習90分：教科書(3章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第6回	食卓のサービスとマナー ^I		予習90分：教科書(4章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第7回	食卓のサービスとマナー ^{II}		予習90分：教科書(4章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第8回	メニュープランニング ^I		予習90分：教科書(5章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第9回	メニュープランニング ^{II}		予習90分：教科書(5章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第10回	講義のまとめ ^I		予習90分：教科書(1～5章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す

第11回	食空間のコーディネートⅠ		予習 分：教科書(6章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第12回	食空間のコーディネートⅡ		予習90分：教科書(6章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第13回	フードサービスマネジメント	これまで学習した知識を基に履修者がフードサービス企業を想定し、互いに発表・意見交換することで、現在求められるフードサービスについて考える。	予習90分：教科書(7章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第14回	食企画の実践コーディネート		予習90分：教科書(8章)を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す
第15回	講義のまとめⅡ		予習90分：教科書(1～8章)・配布物を読む 復習90分：教科書、ノートを読み返す

教科書

三訂 フードコーディネート論(建帛社)

参考書

フードスペシャリスト資格認定試験集

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 確認試験100%

課題等に対する

フィードバックの方法

・課題実施後その都度。また、講義のまとめで講評する。

履修のポイント

本教科をより深く理解するには、日々の食事や食に関する情報に興味を持ち、積極的に情報を得る、または蓄積することが重要である。また、講義の内容が次の興味への手がかりとなることもあるので、積極的に授業へ参加すること。

オフィス・アワー

講義終了後。または、個別に相談のこと。(9号館 3階 第8研究室)

科目区分

専門科目

講義コード	30280001	
講義名	基礎ゼミ（橋爪）	
（副題）		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	必修	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

四季折々の食材を実際に手にしたり、調理したり、ときには栽培してみたりして「旬」の味を学ぶ。季節ごとの野菜や果物を使い、昔ながらの保存食や乾物づくりを行う。春から夏にかけて各種の果物や野菜を使い保存食を作る。同時に、簡単な野菜栽培にもチャレンジする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

季節ごとに収穫できたり、収穫されたりする食材を知り、自分で調べた活用方法等をゼミノートにまとめて提出する。生活科学科のディプロマポリシーとの関連について、「食品」「栄養」に関する基礎的な知識を習得し、「健康」「栄養」「食」に関係する現場で実践的に活用し、問題解決できる能力を養う。

到達目標

春から夏にかけて旬を迎えるさまざまな食材を知り、その活用法を実践的に身につける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪 博幸	植物や花を育てる際の基本的な手順を学ぶ。アブラナ科の野菜の違いを知る。終了後、学習内容と作業内容を、レポートにまとめて提出する（以下同じ）。		復習としてゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（180分）。
第2回	橋爪 博幸	春夏野菜のひとつインゲンやミニトマトの栽培方法、調理方法をしらべ、まとめる。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる（90分）。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる（90分）。

第3回	橋爪博幸	キュウリ、ナス、カボチャなど夏野菜の育て方、調理活用方法を調べ、まとめる。春に旬をむかえる柑橘系果実を調べる。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる (90分)。
第4回	橋爪博幸	サツマイモの苗植えや落花生の種まきをおこなう。トマト、ピーマンの育て方、多様な調理方法を調べてまとめる。	サツマイモの栽培方法を調べ、それらの苗を植え付けるときの注意点を各自で調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる (90分)。
第5回	橋爪博幸	トマト、キュウリ等のつる植物について支柱への誘引、摘心などの栽培方法を知る。この時期に旬を迎えるソラメについて収穫方法、調理方法を学ぶ。	キュウリの栽培方法を調べ、じっさいに苗を植えつける。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (45分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる (45分)。
第6回	橋爪博幸	屋外で、季節の花々やキウイや柿など果樹園栽培の様子を確認する。タケノコを活用した炒め物や保存食づくりを学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (45分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる (45分)。
第7回	橋爪博幸	梅を活用した梅ジュース、梅干しなど保存食づくりの方法を学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる (90分)。
第8回	橋爪博幸	甘酢漬けラッキョウ、新ショウガの甘酢漬けなど香味野菜を使った保存食づくりを学ぶ。トマトやピーマンの収穫を行う。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる (90分)。
第9回	橋爪博幸	ニンニクや玉ねぎなど、この時期に収穫期を迎えるユリ科植物の活用事例を学ぶ。インゲン、シシトウなどの収穫を行う。	玉ねぎやニンニクの収穫作業とそれらの活用方法を図書館で調べる。	予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる (90分)。
第10回	橋爪博幸	キュウリのピクルスまど、キュウリを使った保存食にはどのようなものがあるかを調べる。ジャガイモを収穫する。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる

				(90分)。
第11回	橋爪博幸	6月から7月に収穫されるサンショウの実の活用方法を学ぶ。ちりめんサンショウなど、サンショウの実を使ったピリリとしたさわやかなお惣菜の作り方を調べる。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返し、ノートに学習事項をまとめる (90分)。
第12回	橋爪博幸	プランターで野菜栽培するとき注意すべきことを学ぶ。梅ジュースを試飲する。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返し、ノートに学習事項をまとめる (90分)。
第13回	橋爪博幸	バジルの活用事例を学ぶ。春野菜、夏野菜を総復習する。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返し、ノートに学習事項をまとめる (90分)。
第14回	橋爪博幸	トマトの栽培方法を振り返り、トマトソースなど保存食づくりの方法を学ぶ。		予習として事前配布したプリントから大事なところをノートに書きとる (90分)。復習として毎回のゼミをふり返し、ノートに学習事項をまとめる (90分)。
第15回	橋爪博幸	ミョウガの活用方法を各自で調べノートにまとめる。前期に触れた野菜や果物について振り返り、調理方法を一覧表にまとめる。全員で前期の作業内容を振り返る。秋以降に収穫される野菜にはどのようなものがあるか調査する。	ゼミノートを各自で完成させ、提出する。	復習として毎回のゼミをふり返し、ノートに学習事項をまとめる(180分)。

教科書

ゼミの授業のなかで適宜、プリントを配布する。

参考書

『家仕事ごよみ』（地球丸、2012年）

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上。 授業レポート（50%）、授業への取り組み（50%）をもとに評価する。

課題等に対する

フィードバックの方法

ゼミの実施後にノートを回収し、こちらでコメントや補足説明を書いて戻す。

履修のポイント

ノート（ゼミノート）を各自で一冊ずつ用意すること。ノートは前期・後期と継続して使う予定である。さまざまな食材について、新聞等で授業に関係する記事を探し読んでおく。適宜、ゼミノートに追記していくこと。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。 9号館3階の第6研究室に来ること。

科目区分

専門科目

講義コード	30280002
講義名	基礎ゼミ（中島）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。
学年	2学年

担当教員		
職種	氏名	所属
教員	中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

調理をいう視点から食教育について考え、文献等の資料から 発表 → ディスカッション という流れの中でゼミを進めていく。環境、咀嚼、災害をテーマにエコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキングについて学習する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」「調理科学」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・調理を通じて「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深める。
- ・エコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキングについて学習することで調理の多様性を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中島君恵	授業概要について		予習30分：環境、咀嚼、災害に関する新記事の収集。復習30分：配布資料を見直す。
第2回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについて文献等を読む。	履修者に調理と環境について意見交換を行い、テーマについて理解するきっかけを作る。また私たちの食生活と環境について解説して理解を深め、再度エコクッキングについて意見交換	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資

			する。	料を見直す。
第3回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについてまとめる。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	中島君恵	私たちの食生活と環境のかかわりについて、発表を行う。	履修者に食生活と環境の関わりについて意見交換を行う。さらにSDGsについても意見交換を行う。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	中島君恵	咀嚼と調理について、文献等を読む。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	中島君恵	調理と災害について、文献等を読む		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	中島君恵	調理と環境、調理と咀嚼、調理と災害について、まとめる。	履修者に調理と環境、調理と咀嚼、調理と災害について意見交換をさせて、環境問題について理解するきっかけを作る。また私たちの食生活と環境について解説して理解を深め、再度ポリッキングについて意見交換する。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第10回	中島君恵	エコッキング、カムカムッキング、ポリッキングについてレシピの作成を行う。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第11回	中島君恵	エコッキング、カムカムッキング、ポリッキングについてレシピの作成を行う。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第12回	中島君恵	エコッキング、カムカムッキング、ポリッキングについてレシピの作成を行う。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第13回	中島君	エコッキング、カムカムッキング、ポリッキン		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復

	恵	グについて調理を行う。		習30分：配布資料を見直す。
第14回	中島君恵	エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングについて調理を行う。		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第15回	中島君恵	まとめ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する予定

参考書

環境がわかる絵本

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 レポート80% プレゼンテーション（発表）20%

課題等に対する フィードバックの方法

全般に対する講評と重要項目についての解説を記述したプリントを配布するので、活用すること。

履修のポイント

食と環境の視点を持ち、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。

オフィス・アワー

木曜日、12：30～13：20(昼休み)、9号館3階第7研究室
※講義授業前後にも、適宜受けます。

科目区分

専門科目

講義コード	30280003
講義名	基礎ゼミ（井桁）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士の専門知識を深めるためには、食品・栄養に関する事柄に対して多角的に取り組む意識をもってもらいたいと考える。履修授業で習得する内容をふまえた知識や技術の他に、卒後社会に関わる栄養士として必要になる心構え等を理解し、これからの栄養士業務に生かしていける学習内容にしたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品・栄養に関する情報に興味を持ちその内容について幅広く研究学習を行うことで、食品・栄養に関して基本的な事柄とそれら相互作用について理解する。
健康・栄養に係わる卒後の現場での実践的な活用と、問題解決能力を修得する。

到達目標

身近な問題から多角的なテーマまでを幅広く研究し、栄養士として実践を重視したあらゆる現場の分野で活動できる人材像を目指す。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	基礎ゼミの概要説明、計画の立て方		予習30分（研究の希望計画） 復習60分（テーマ決定の準備・検索）
第2回	各自研究テーマを決める 内容・工程の連絡、次回の準備	各研究テーマに対する意見交換を行う 食に関する事柄から内容を広げていき、各自が興味や関心を持ったものをテーマにまとめ、意見交換をして決めていく	予習30分（研究テーマの計画） 復習60分（演習の準備）
第3回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）

第4回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第5回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック、課題レポートの準備）
第6回	テーマ別に内容実施、資料の検索 【課題】中間報告のレポート提出		予習30分（課題レポートの準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第7回	経過報告の発表（検討会）	各研究の進捗状況を発表 意見交換および情報の提示を行う 前回提出し添削された中間報告レポートをもとに、今後の方針（実験や実習形態を伴う場合はその計画案）を再考・立案する	予習30分（中間発表の準備） 復習60分（発表後の内容検討、まとめに向けた準備計画）
第8回	テーマの再検討 期末まとめに向けた準備		予習30分（検討内容の確認） 復習60分（次回演習の準備）
第9回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第10回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第11回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第12回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第13回	テーマ別に内容実施 期末まとめの作成		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（期末まとめの作成内容チェック）
第14回	期末まとめの作成 【課題】期末まとめの提出		予習30分（期末まとめの確認） 復習60分（提出内容の確認、経過発表の準備）
第15回	基礎ゼミのまとめ（各自経過発表） 提出レポートの	各研究まとめ状況を発表 意見交換および情報の提示を行う 前回提出の期末まとめを全員で可視化（パワーポイント若しくは書面）した状態で状況報告を行う。	予習30分（経過発表の準備） 復習60分（発表後の確認、後期に向けての準備）

	チェック（後期に向けて）	ゼミ全体で発表ができる機会を得られる際はその方針を出して計画案を検討する（大学祭研究発表）	備）
教科書			
特になし			
参考書			
研究テーマに応じて図書等の検索を行う。			
成績評価の方法・基準			
単位認定 60 点以上。 発表内容 70 %、提出物 30 %。			
課題等に対する フィードバックの方法			
基礎ゼミでは年間通して研究するテーマの骨組みを作る作業を主とする。 提出課題（中間および期末まとめの提出）は添削コメントを添えて返却するので、今後の授業と研究方針立案の参考にすること。			
履修のポイント			
食についての意識を広く持って、積極的に学習してほしい。年間通しての研究結果をまとめるので、日頃からの情報収集や記録（パソコン技能）の技術を身につけること。			
オフィス・アワー			
月・火曜日、12：30～13：20、9号館3階第8研究室。			
科目区分			
専門科目			

講義コード	30280004	
講義名	基礎ゼミ（宮本）	
(副題)		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	必修	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

「食は常に安心・安全なものでなければならない」これをテーマにゼミを行います。そこで、基礎ゼミでは食品衛生の観点から、過去に起きた食中毒事件に学び、その後どのような対策がなされているのかについて調べ、理解を深めます。食品衛生にかかわる知識を学び、予防と対処について理解することを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に基づき、食品衛生(特に過去の事例)を学ぶことは、「人間のからだ」と「食品」に関する相互作用についても併せて理解を深めることとなる。また、広範に渡り影響を与えた事例となると生活を取り巻く社会的環境についても理解することになる。そして、解決に向けたプロセスなどを学習することで、その学びが現場で実践的に活用され、問題を解決できる能力となることを目指す。

到達目標

過去の食中毒等の食に関する事例に学び、その後行われた法整備等について理解する。また、それらの背景を深く理解することで、自身がそのような場面に遭遇した際の対処方法を検討できるスキルを身につけることを到達目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	宮本 雄基	授業の進め方と概要の説明、 計画作成		予習：30分 復習：30分
第2回	宮本 雄基	導入講義 テーマの設定及び意見交換(個人またはチーム)	設定したテーマについて、理由等を意見交換する。	予習：30分 復習：30分
第3回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分

第4回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第5回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第6回	宮本 雄基	プレゼンテーション準備		予習：60分 復習：60分
第7回	宮本 雄基	プレゼンテーション準備		予習：60分 復習：60分
第8回	宮本 雄基	プレゼンテーション1	互いの発表について意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第9回	宮本 雄基	プレゼンテーション2	互いの発表について意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第10回	宮本 雄基	中間まとめ テーマの検討		予習：60分 復習：60分
第11回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第12回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第13回	宮本 雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第14回	宮本 雄基	プレゼンテーション3	互いの発表について意見交換を行う。	予習：60分 復習：60分
第15回	宮本 雄基	基礎ゼミのまとめ 衛生試験法について講義		予習：60分

教科書

教科書は指定せず、必要に応じて印刷物を配布予定

参考書

食品衛生学 田崎達明ほか 羊土社
その他必要に応じて連絡する

成績評価の方法・基準

プレゼンテーション：50%、レポート：50%で評価する。単位認定は60点以上とする。

課題等に対する フィードバックの方法

課題実施後その都度。また、全体でのディスカッションの場を通して、教員を含め相互に講評ができる環境としたい。

履修のポイント

食を学修する者として、基本となることを学びます。好奇心をもち、主体的に取り組むことを望みます。

オフィス・アワー

講義終了後。または、個別に相談のこと。（9号館 3階 第8研究室）

科目区分

専門科目

講義コード	30280005
講義名	基礎ゼミ（小川）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	小川 智瑞恵	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士を目指す人には食を中心とした幅広い知見が求められる。基礎ゼミでは、食育の観点を起点として、栄養士の役割についての理解を深め、これからの栄養士業務に生かして欲しい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題としてとらえて幅広い観点から食に関する内容について学習・研究することにより、栄養士としてのスキルを身につけることをめざす。

到達目標

栄養士の役割や必要とされる働きを知り、関心のある内容について理解を深める。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な 時間
第1回	テキストの読解とディスカッション／各自の関心の追求	ディスカッション・調査	資料の予習 に90分、復習 に90分
第2回	テキストの読解とディスカッション／各自の関心の追求	ディスカッション・調査	資料の予習 に90分、復習 に90分
第3回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求	ディスカッション・調査等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第4回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求	ディスカッション・調査等	資料の予習 に90分、復習 に90分

第5回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第6回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第7回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第8回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第9回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第10回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第11回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第12回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第13回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第14回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第15回	ディスカッションとまとめ	ディスカッション・プレゼンテーション	180分 全体を振り返る
第16回			

参考書

堤ちはる編著『「食」をとおして育つもの・育てたいもの』ぎょうせい、2021年
 福田アジオほか著『知っておきたい日本の年中行事事典』吉川弘文館、2012年
 関沢まゆみ編『日本の食文化6 菓子と果物』吉川弘文館、2019年
 関沢まゆみ編『日本の食文化2 米と餅』吉川弘文館、2019年
 佐藤一子・千葉悦子・宮城道子編著『〈食といのち〉をひらく女性たち—戦後史、現代、そして世界』農文協、2018年
 藤原辰史『食べるとはどういうことか—世界の見方が変わる三つの質問』農文協、2019年
 湯澤規子『食べものがたりのすすめ—「食」から広がるワークショップ入門』農文協、2022年
 根ヶ山光一・外山紀子・河原紀子編『子どもと食—食育を超える』東京大学出版会、2013年
 岡根谷実里『世界の食卓から社会が見える』大和書房、2023年
 適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

授業への参加度（50％） 授業内に指示した提出物等（50％） 単位認定基準の点数（60点以上）

課題等に対する フィードバックの方法

コメントを述べる。

履修のポイント

各自の関心を大切にして追及する力を伸ばして行ってほしい。積極的に意見交換を行うようにする。

オフィス・アワー

授業終了後に、教室等にて質問をお受けするか、都合の良い日時を相談し後日対応いたします。

科目区分

専門科目

講義コード	30280006	
講義名	基礎ゼミ（清野）	
（副題）		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
代表曜日	月曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	必修	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	公認スポーツ栄養士としてのプロチームやトップアスリートの栄養サポート経験、中央競技団体の医科学部長、健康食品関連企業等での実務経験を基に、スポーツウエルネス社会で活かす知見を得られる内容を展開する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	清野 隼	指定なし

授業の概要と教育目標

スポーツ栄養、コーチング、Well-being、地域社会への貢献などをキーワードに、実際のスポーツ現場におけるケースを体験しながら学びを深める、「課題解決型フィールドワーク」を基にしたゼミを行う。実際のスポーツ現場が求めるニーズや課題を抽出し、その課題解決に向けたスポーツ栄養のアプローチを考え、実践し、振り返りを行うことで、実践力を身に着けることを目標とする。なお、本ゼミは、基礎を学ぶ教育と、専門性を深める現場でのフィールドワークを混合して行うため、基礎ゼミと専門ゼミを通期で捉えて実施する。したがって、基礎ゼミと専門ゼミの双方を履修することを条件とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に基づき、実際のスポーツ現場で活動する子どもたちや選手、支える指導者や保護者と触れ、対象者を取り巻く社会・環境を十分に現場で理解し、その状況を基に食を通してコミュニケーションを深める能力を高めることを目指す。実際に、対象者に対してスポーツ栄養媒体を作成し、その内容を基にアプローチを行い、フィードバックを得るプロセスを辿ることが卒業認定・学位授与の方針との関連である。

到達目標

スポーツ現場で活動する子どもたちや選手、支える指導者や保護者と触れ、対象者を取り巻く社会・環境を十分に現場で理解し、その状況を基に食を通してアプローチすることを目的とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	清野 隼	ゼミのオリエンテーション	フィールドワーク地の自己調査を行う。	予習（60分）：フィールドワークの事前調査 復習（60分）：ゼミで学

				んだ内容の整理
第2回	清野隼	フィールドワーク地の現場視察	実際のフィールドワークの対象となる現場を視察し、スポーツ栄養のアプローチとして必要なことを検討する。	予習（60分）：現場視察に向けた準備、学習 復習（60分）：現場視察で得た情報をまとめ、現場の課題を整理する
第3回	清野隼	現場視察で得た情報のフィードバック、共有、協議	現場視察で得た情報をゼミ内で共有し、どのようなスポーツ栄養アプローチが必要かを協議する。	予習（60分）：現場視察で得た情報の整理 復習（60分）：必要と考えたスポーツ栄養アプローチを実際に行うための情報収集や学習を行う
第4回	清野隼	指導教育媒体の作成、学習	実際に行う指導教育媒体を作成しながら、そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。	予習（60分）：自分が行いたい指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第5回	清野隼	指導教育媒体の作成、学習 フィールドワーク地の視察	実際に行う指導教育媒体を作成しながら、そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。 作成した指導教育媒体案を現場の指導者に実際に見てもらい、内容に関する意見をもらう。	予習（60分）：自分が行いたい指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第6回	清野隼	指導教育媒体の作成、学習	実際に行う指導教育媒体を作成しながら、そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。 フィールドワークの現場視察時に、指導者から抽出した意見や課題を反映して、さらに指導教育媒体の精度を高める。	予習（60分）：自分が行いたい指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第7回	清野隼	指導教育媒体を活用したアプローチ、発信、実施	実際に作成した指導教育媒体を活用して、対象者に対してアプローチを行い、その反応や課題を得る。	予習（60分）：実際に行うアプローチ内容の準備 復習（60分）：実際に行ったアプローチ内容のフィードバック、課題分析
第8回	清野隼	中間ディスカッション	1回から7回までで行ってきた内容を振り返り、ゼミ内で共有し、得られた成果と課題を協議する。 その内容を基に、後半の9回から15回までの間で、どのようなスポーツ栄養アプローチが必要かを検討する。	予習（60分）：1回から7回までの取り組みを振り返り、簡単に整理する 復習（60分）：8回から15回までの間で実施する新たなスポーツ栄養アプローチを検討し、その準備を進める
第9回	清野隼	フィールドワーク地の現場視察	中間ディスカッションで得た成果と課題を基に、新たな課題解決アプローチの計画策定を行うために、現場視察やヒアリングを行う。	予習（60分）：現場で視察する目的や、ヒアリングする内容などを検討して視察に行く準備を整える 復習（60分）：現場視察を終えて、得た情報を整理し、スポーツ栄養アプローチの計画立案に繋げる
			現場視察で得た情報をゼミ内で共有	予習（60分）：現場視察

第10回	清野隼	現場視察で得た情報のフィードバック、共有、協議	し、さらにどのようなスポーツ栄養アプローチが必要かを協議する。 一度作成して実施した指導教育媒体を見直し、精度の高いアプローチを検討する。	で得た情報の整理 復習（60分）：必要と考えたスポーツ栄養アプローチを実際に行うための情報収集や学習を行う
第11回	清野隼	指導教育媒体の作成、学習	実際に行う指導教育媒体を新たに作成しながら、そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。 作成しながら、実際のトップスポーツ現場やプロスポーツ現場、国際的な指導教育事例などを教授し、その内容を踏まえて学びを深める。	予習（60分）：自分が行いたい指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第12回	清野隼	指導教育媒体の作成、学習 フィールドワーク地の視察 アンケート調査の概要検討	実際に行う指導教育媒体を作成しながら、そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。 作成した指導教育媒体案を現場の指導者に、再度見てもらい、内容に関する意見をもらう。 1回目に作成した内容よりも、効果的なアプローチに繋げる。また、アプローチに対する対象者の声を抽出するために、アンケート調査を検討し、内容を協議する。	予習（60分）：自分が行いたい指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第13回	清野隼	指導教育媒体の作成、学習	実際に行う指導教育媒体を作成しながら、そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。 フィールドワークの現場視察時に、指導者から抽出した意見や課題を反映して、さらに指導教育媒体の精度を高める。	予習（60分）：自分が行いたい指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第14回	清野隼	指導教育媒体を活用したアプローチ、発信、実施、アンケート実施	実際に作成した指導教育媒体を活用して、対象者に対してアプローチを行い、その反応や課題を得る。 1回目のアプローチよりも、効果的なアプローチを目指し、指導者や保護者、対象となる選手からアンケート調査を行い、意見を集約する。	予習（60分）：実際に行うアプローチ内容の準備 復習（60分）：実際に行ったアプローチ内容のフィードバック、課題分析
第15回	清野隼	実施後アンケートの分析、データまとめ	実施したアプローチに対する対象者のアンケート結果をどう分析し、まとめていくかを学ぶ。 アンケート結果をまとめ上げるところまでを基礎ゼミとし、その結果を基に専門ゼミの内容に繋げる。	予習（60分）アンケートデータの内容確認 復習（60分）アンケートデータのまとめ

教科書

必要に応じて紹介する。また、資料等も配布する。

参考書

「ケースで学ぶ スポーツ栄養学」

編者：清野隼、虎石真弥、山口太一

ISBN:978-4-86015-581-0 出版社：株式会社みらい

価格：2500円＋税（10%）

「パフォーマンスを高めるためのアスリートの栄養学」

著者：清野隼、塚本咲翔

ISBN:978-4-8163-6484-6 出版社：株式会社ナツメ社
価格：1500円＋税（10%）

成績評価の方法・基準

単位認定は60点以上とする。フィールドワークへの取り組み姿勢：70%、最終プレゼンテーション：30%で評価する。

課題等に対する
フィードバックの方法

ゼミを進めていく中で都度教員から実施する。また、学生同士が相互に成長しあえるよう、互いを尊重しつつ、相互評価できるようにする。

履修のポイント

2024年度は、一般社団法人桐生南スポーツアカデミーと連携して、桐生南高校施設を拠点として活動する桐生南ポニーリーグの選手や保護者、指導者等と活動を行う。実際の現場に行っ
て、練習の見学を行ったり、小中学生のジュニア選手や保護者、指導者の方と直接話したりする機会があるので、スポーツ現場に相応しいTPOを備えて活動することを望む。また、食を通してジュニアアスリートの健全な成長に貢献したい、と考えている学生や、ジュニアアスリートやその保護者の方と向き合っ、多くの学びを吸収したいという熱意のある学生を望む。

オフィス・アワー

個別に対応するため、適宜相談に応じる。

科目区分

専門科目

講義コード	30290001	
講義名	専門ゼミ（橋爪）	
（副題）		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
代表曜日	火曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	必修	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

前期の基礎ゼミに引き続いて、季節ごとの食材をテーマに、実践を交えて活用方法を学ぶ。また専門ゼミでは各自でテーマを決めて、10枚のレポートを仕上げて、提出する。後期のゼミでは、秋から冬にかけて収穫時期を迎える野菜や果物を使い、保存食や乾物、漬物づくりを行う。四季折々の食材を手にし、調理し、ときには栽培して「旬」を学び、一年間の自然食材のサイクルを追う。

卒業認定・学位授与の方針との関連

秋から冬にかけて実りの時期を迎える野菜や果物といった食材の利用方法を知る。どのようなものが実り、いかに加工できるかを知る。それらの食材をじっさいに味わい、一年間にわたる食材の収穫サイクルを知り、卒業後も季節ごとの食材をタイムリーに活用できるようにする。生活科学科のディプロマポリシーとの関連について、「食品」「栄養」に関する基礎的な知識を習得し、「健康」「栄養」「食」に関係する現場で実践的に活用し、問題解決できる能力を養う。

到達目標

専門ゼミでみていく食材について知識を深め、またそれらの活用方法を実践活動を通じて身につける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪 博幸	後期の専門ゼミの予定を確認する。秋野菜にはどのようなものがあるかを調べる。	秋野菜の種まきを行う。栽培の注意点をコンピュータ演習室などでしらべゼミノートにまとめる。レポート課題を各自で設定し、調査を開始する。	復習としてゼミをふり返し、ノートに学習事項をまとめる（180分）。
				自己学習として10枚レポートの一部を作成

第2回	橋爪博幸	白菜、キャベツの栽培方法、調理方法について調べる。		する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第3回	橋爪博幸	ブロッコリー、カリフラワーの生育方法、調理方法を調べる。	秋野菜の栽培方法についてコンピュータ室などで調べる。	自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第4回	橋爪博幸	大根の種類や、そのさまざまな加工用途を調べ、まとめ発表する。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第5回	橋爪博幸	秋の味覚のひとつ栗の活用方法を知る。栗の甘煮の作り方を学ぶ。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第6回	橋爪博幸	秋から冬にかけての晴天の天日を利用してできる乾物の保存食に適した食材を調べる。干しイモ、干し大根の作り方を調べる。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第7回	橋爪博幸	たくあん漬け、ダイコンのゆづ漬けなど、漬物の仕込み方法を学ぶ。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第8回	橋爪博幸	キウイのジャム、リンゴのコンポートやジャムなど、秋冬に収穫された果物の活用方法を知る。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第9回	橋爪博幸	秋に収穫時期を迎える、ラッカセイを使ったレシピを調べる。	落花生の収穫作業を行い、落花生の活用方法を調べる。	自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
				自己学習として10枚

第10回	橋爪博幸	秋冬に収穫されるサツマイモなど、イモ類を使ったレシピを調べ、まとめる。	サツマイモの収穫作業を行い、貯蔵の方法について図書館やコンピュータ演習室で調べる。	レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第11回	橋爪博幸	白菜づけ、白菜キムチなど、白菜を使った保存食にはどのようなものがあるかを調べる。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第12回	橋爪博幸	ショウガを活用した保存食にどのようなものがあるかを調べ、まとめる。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第13回	橋爪博幸	冬野菜の代表格であるハウレンソウの活用事例を学ぶ。	ハウレンソウを収穫し、調理実習で活用する。	自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第14回	橋爪博幸	多くの野菜を活用した福神漬けの作り方を調べる。		自己学習として10枚レポートの一部を作成する(90分)。復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(90分)。
第15回	橋爪博幸	これまでの一年間にわたって学んできた保存食から学んだことを振り返り、一枚の用紙にまとめる。＜アクティブラーニング＞調査したレポートを各自でまとめて発表する。	ゼミノート、およびレポートを完成させ、提出する。	復習として毎回のゼミをふり返り、ノートに学習事項をまとめる(180分)。

教科書

随時、プリントを配布する。

参考書

『家仕事ごよみ』（地球丸、2012年）、『秋・冬の野菜(旬の食材)』（講談社、2004年）など。

成績評価の方法・基準

単位認定 60 点以上。 ノートやレポート (50%)、授業への取り組み (50%) をもとに評価する。

課題等に対する

フィードバックの方法

ゼミの実施後にノートを回収し、こちらでコメントや補足説明を書いて戻す。後期の専門ゼミでは、各自で調査テーマを決めてA4用紙¹⁰枚のレポートを作成する。授業時間だけでは足りな

い場合は、専門ゼミ以外の時間でも、調査レポートの作成にとりくむこと。レポートはこちらでコメントを書き入れ、返却する。
履修のポイント
専門ゼミの最終回に、調査レポート（A4用紙１０枚）を提出すること。休まず出席すること。
オフィス・アワー
水曜日の昼休みをオフィス・アワーとする。９号館３階の第６研究室に来ること。
科目区分
専門科目

講義コード	30290002	
講義名	専門ゼミ（中島）	
(副題)		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
代表曜日	火曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	必修	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医薬品メーカーや食品関連企業に管理栄養士として勤務した経験を活かし、栄養や食品・調理についての基礎知識について解説する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	中島 君恵	指定なし

授業の概要と教育目標

基礎ゼミで学習した咀嚼を「食脳学」としてさらに学習を進める。また、最近増加する食物アレルギー対応食についても学習を行う。文献等の資料収集から、発表 → ディスカッション という流れの中で理解を深め、ゼミを進めていく。さらにSDGsとの関連についても意見交換を行う。栄養士という視点から健康、環境、咀嚼、災害についての理解を深め、SDGsという視点においたメニューの考案、調理する技術を身につけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「健康・栄養」に係る食を中心に生活を科学的に理解を深めることを目指し、「調理」の理解を通してその目的達成に資する知識を養う。そして将来的展望としては多様化する食生活に対応する食事を設計する基盤となる学修を行うことを目指すものとする。

到達目標

- ・「健康・栄養」に係る調理を中心にした生活を科学的に理解を深める。
- ・エコクッキング、カムカム(噛む噛む)クッキング、ポリクッキング、食物アレルギー食の料理を考案する。
- ・SDGsという視点においたメニューの考案、調理する技術を身につける。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	中島君恵	授業概要について エコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングとSDGs	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングを実施しての意見交換をさせてまとめ、理解を深める。さらにSDGsとの関連についても意見交換を行う。また、咀嚼の効果について意見交換をさせ、咀嚼について理解するきっかけを作る。	予習30分：環境、咀嚼、災害に関する新聞記事を収集する。復習30分：配布資料を見直

		について		す。
第2回	中島君恵	S D G s と調理(実習)I	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングとS D G s との関連についても意見交換を行う。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第3回	中島君恵	S D G s と調理(実習)II	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングとS D G s との関連についても意見交換を行う。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第4回	中島君恵	S D G s と調理(実習)III	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングとS D G s との関連についても意見交換を行う。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第5回	中島君恵	S D G s と調理(実習)IV		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第6回	中島君恵	S D G s と調理(実習)V(まとめ)	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングとS D G s との関連についても意見交換を行う。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第7回	中島君恵	食脳学I ・概要の説明		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第8回	中島君恵	食脳学II 文献を読み、レジメを作成する		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第9回	中島君恵	食脳学III 文献を読み、レジメ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復

	恵	を作成する		習30分：配布資料を見直す。
第10回	中島君恵	食脳学Ⅳ文献を読み、レジメを作成する		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第11回	中島君恵	食脳学Ⅴ文献を読み、レジメを作成する		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第12回	中島君恵	食脳学Ⅵ(発表Ⅰ)		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第13回	中島君恵	食脳学Ⅶ(発表Ⅱ)		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第14回	中島君恵	まとめⅠ	履修者にエコクッキング、カムカムクッキング、ポリクッキングを実施しての意見交換をさせてまとめ、理解を深める。さらにSDGsとの関連についても意見交換を行う。また、咀嚼の効果について意見交換をさせ、咀嚼について理解するきっかけを作り、「食脳学」について解説して理解を深め、意見交換する。	予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。
第15回	中島君恵	まとめⅡ		予習30分：配布した文献及び資料を読む。復習30分：配布資料を見直す。

教科書

教科書は使用せず、プリントを配布する予定

参考書

脳を豊かにする「食脳学」

成績評価の方法・基準

単位認定：60点以上 レポート80% プレゼンテーション（発表）20%

課題等に対する

フィードバックの方法
提出されたレポートは返却しない。全般に対する講評と重要項目についての解説を記述したプリントを配布するので、活用すること。
履修のポイント
食と健康の視点を持ち、配布テキストやプリント等の講義資料の熟読を復習として勧めます。
オフィス・アワー
水曜日、12：30～13：20(昼休み)、 9号館3階第7研究室 ※講義授業前後にも、適宜受けます。
科目区分
専門科目

講義コード	30290003
講義名	専門ゼミ（井桁）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	井桁 千恵子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士の専門知識を深めるためには、食品・栄養に関する事柄に対して多角的に取り組む意識をもってもらいたいと考える。履修授業で習得する内容をふまえた知識や技術の他に、卒後社会に関わる栄養士として必要になる心構え等を理解し、これからの栄養士業務に生かしていける学習内容にしたい。

卒業認定・学位授与の方針との関連

食品・栄養に関する情報に興味を持ちその内容について幅広く研究学習を行うことで、食品・栄養に関して基本的な事柄とそれら相互作用について理解する。
健康・栄養に係わる卒後の現場での実践的な活用と、問題解決能力を修得する。

到達目標

身近な問題から多角的なテーマまで幅広く研究し、栄養士として実践を重視したあらゆる現場の分野で活動できる人材像を目指す。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	専門ゼミの概要説明、計画の立て方	研究発表（大学祭）の希望計画・構成の意見情報交換を行う 基礎ゼミ最終回にて検討・計画立案した内容（大学祭研究発表）を検討し、詳細立案の形にしていく	予習30分（基礎ゼミの実施内容確認） 復習60分（次回演習の準備）
第2回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第3回	テーマ別に内容実施、資料		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の

	の検索		確認チェック)
第4回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第5回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第6回	テーマ別に内容実施、資料の検索 【課題】中間報告のレポート提出		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック、課題レポートの準備）
第7回	経過報告の発表（検討会）	各研究の進捗状況を発表 意見交換および情報の提示を行う 前回提出添削を受けた報告レポートを元に完成形（論文の形式に則った文章）を構成できるようにする 併せてパワーポイントを使用した発表会の予告も行う	予習30分（中間発表の準備） 復習60分（発表後の内容検討、まとめに向けた準備計画）
第8回	検討会後の内容確認 期末まとめに向けた準備		予習30分（検討内容の確認） 復習60分（次回演習の準備）
第9回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第10回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第11回	テーマ別に内容実施、資料の検索		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第12回	テーマ別に内容実施、資料の検索 まとめ冊子の作成		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第13回	テーマ別に内容実施、資料の検索 まとめ冊子の作成		予習30分（次回演習の準備） 復習60分（演習内容の確認チェック）
第14回	【課題】まとめ冊子の作成・提出 発表会の準備		予習30分（提出冊子の確認） 復習60分（発表会の準備）
	報告会	各研究の報告発表 質疑応答および意見交換を行う	予習30分（発表内容の確認）

第15回	専門ゼミのまとめ	パワーポイントを使用した報告会（時間設定を課した口頭発表、質疑応答）を行い、1年間のゼミ全体活動を振り返る	復習60分（年間通してのゼミ研究結果記録を整理まとめ）
教科書			
特になし			
参考書			
研究テーマに応じて図書等の検索を行う。			
成績評価の方法・基準			
単位認定60点以上。 発表内容70%、提出物30%。			
課題等に対する フィードバックの方法			
基礎ゼミで決めた研究テーマの骨組みを基に、専門ゼミでは実践（大学祭での発表）を目指す。また最終報告として各自の内容をテーマ別に発表し講評を行う。 提出課題（中間およびまとめの提出）は添削コメントを添えて返却するので、授業学習のまとめの参照にすること。			
履修のポイント			
食についての意識を広く持って、積極的に学習してほしい。年間通しての研究結果をまとめるので、日頃からの情報収集や記録（パソコン技能）の技術を身につけること。			
オフィス・アワー			
月・火曜日、12:30～13:20、9号館3階第8研究室。			
科目区分			
専門科目			

講義コード	30290004
講義名	専門ゼミ（宮本）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	宮本 雄基	指定なし

授業の概要と教育目標

「食は常に安心・安全なものでなければならない」これをテーマにゼミを行います。そこで、専門ゼミでは、基礎ゼミで学んだ過去の事例及びその後の対策などから各個人が興味を持ったテーマについて、衛生試験手法を実験的に学びを深め、食品衛生にかかわる知識について一層理解を深めることを目標とします。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に基づき、「人間のからだ」と「食品」に関する相互作用について、専門ゼミでは実験等を含めて理解を深めていただきます。そして、実験を通して物質または微生物等について学習し、その学びが危害防止という意味で実践的に活用される知識・能力となることを目指します。

到達目標

実験を通して、食品衛生に関与する事象を深く理解してもらいます。そして、食品衛生に関する予防的視点を身につけることを到達目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	宮本雄基	授業の進め方と概要の説明、計画作成		予習：60分 復習：60分
第2回	宮本雄基	導入講義 テーマの設定及び意見交換(個人またはチーム)	設定したテーマについて、理由等を意見交換する。	予習：60分 復習：60分
第3回	宮本雄基	情報収集 個別指導		予習：60分 復習：60分
第4回	宮本雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分

第5回	宮本 雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第6回	宮本 雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第7回	宮本 雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第8回	宮本 雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第9回	宮本 雄基	中間報告会	互いの状況を報告し、意見交換 を行う。	予習：60分 復習：60分
第10回	宮本 雄基	実験研究 個別指導		予習：60分 復習：60分
第11回	宮本 雄基	プレゼンテーション準備 資料作成		予習：60分 復習：60分
第12回	宮本 雄基	研究報告会	互いの発表について、意見交換 を行う。	予習：60分 復習：60分
第13回	宮本 雄基	まとめレポート作成		予習：60分 復習：60分
第14回	宮本 雄基	まとめレポート作成		予習：60分 復習：60分
第15回	宮本 雄基	専門ゼミのまとめ 今後必要となる食品衛生に関す る基礎事項の講義		予習：60分 復習：60分

教科書

教科書は指定せず、必要に応じて印刷物を配布予定

参考書

食品衛生学 田崎達明ほか 羊土社
その他必要に応じて連絡する

成績評価の方法・基準

プレゼンテーション：50%、レポート：50%で評価する。単位認定は60点以上とする。

課題等に対する フィードバックの方法

課題実施後その都度。また、全体でのディスカッションの場を通して、教員を含め相互に講評
ができる環境としたい。

履修のポイント

食を学修する者として、基本となることを学びます。好奇心をもち、主体的に取り組むことを
望みます。

オフィス・アワー

講義終了後。または、個別に相談のこと。（9号館 3階 第8研究室）

科目区分

専門科目

講義コード	30290005
講義名	専門ゼミ（小川）
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	1
代表曜日	火曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	必修
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	小川 智瑞恵	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士を目指す人には食を中心とした幅広い知見が求められる。栄養士の役割や必要とされる働きを知り、関心のある内容について理解をさらに深め広げていく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマ・ポリシーの関連として、生活を身近な問題としてとらえて幅広い観点から食に関する内容について学習・研究することにより、栄養士としてのスキルを身につけることをめざす。

到達目標

栄養士の役割や必要とされる働きを知り、どのような栄養士を目指すか、ビジョンをもつ。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	テキストの読解とディスカッション／各自の関心の追求	ディスカッション・調査	資料の予習に90分、復習に90分
第2回	テキストの読解とディスカッション／各自の関心の追求	ディスカッション・調査	資料の予習に90分、復習に90分
第3回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
第4回	テキストの読解とディスカッション等／各自の関心の追求	ディスカッション・調査等	資料の予習に90分、復習に90分
	テキストの読解とディスカッション等／	ディスカッション・調査	資料の予習

第5回	各自の関心の追求	等	に90分、復習 に90分
第6回	テキストの読解とディスカッション等/ 各自の関心の追求	ディスカッション・調査 等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第7回	テキストの読解とディスカッション等/ 各自の関心の追求	ディスカッション・調査 等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第8回	テキストの読解とディスカッション等/ 各自の関心の追求	ディスカッション・調査 等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第9回	テキストの読解とディスカッション等/ 各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査 等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第10回	テキストの読解とディスカッション等/ 各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査 等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第11回	テキストの読解とディスカッション等/ 各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査 等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第12回	テキストの読解とディスカッション等/ 各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査 等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第13回	テキストの読解とディスカッション等/ 各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査 等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第14回	テキストの読解とディスカッション等/ 各自の関心の追求と発表等	ディスカッション・調査 等	資料の予習 に90分、復習 に90分
第15回	ディスカッションとまとめ	ディスカッション・プレ ゼンテーション	180分 全体を振り 返る
第16回			

教科書

教科書は定めず適宜紹介する。

参考書

堤ちはる編著『「食」をとおして育つもの・育てたいもの』ぎょうせい、2021年
 福田アジオほか著『知っておきたい日本の年中行事事典』吉川弘文館、2012年
 関沢まゆみ編『日本の食文化6 菓子と果物』吉川弘文館、2019年
 関沢まゆみ編『日本の食文化2 米と餅』吉川弘文館、2019年
 佐藤一子・千葉悦子・宮城道子編著『〈食といのち〉をひらく女性たち—戦後史、現代、そして世界』農文協、2018年
 藤原辰史『食べるとはということか—世界の見方が変わる三つの質問』農文協、2019年
 湯澤規子『食べものがたりのすすめ—「食」から広がるワークショップ入門』農文協、2022年
 根ヶ山光一・外山紀子・河原紀子編『子どもと食—食育を超える』東京大学出版会、2013年
 岡根谷実里『世界の食卓から社会が見える』大和書房、2023年
 適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

授業への参加度（50%） 授業内に指示した提出物等（50%） 単位認定基準の点数（60点以上）

課題等に対する フィードバックの方法

コメントを述べる。

履修のポイント
各自の関心を大切にして追及する力を伸ばして欲しい。積極的に意見交換を行うようにする。
オフィス・アワー
授業終了後に、教室等にて質問をお受けするか、都合の良い日時を相談し対応いたします。
科目区分
専門科目

講義コード	30290006	
講義名	専門ゼミ（清野）	
(副題)		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	演習	
基準単位数	1	
代表曜日	火曜日	
代表時限	1 時限	
必修/選択	必修	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	公認スポーツ栄養士としてのプロチームやトップアスリートの栄養サポート経験、中央競技団体の医科学部長、健康食品関連企業等での実務経験を基に、スポーツウエルネス社会で活かす知見を得られる内容を展開する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	清野 隼	指定なし

授業の概要と教育目標

スポーツ栄養、コーチング、Well-being、地域社会への貢献などをキーワードに、実際のスポーツ現場におけるケースを体験しながら学びを深める、「課題解決型フィールドワーク」を基にしたゼミを行う。基礎ゼミで関係構築してきたフィールドワーク地とさらに連携を深め、中学生年代の成長期にあたるジュニアアスリートやその保護者に対する指導教育媒体を作成し、その媒体を活用して、実際に対象者にアプローチすることを教育目標とする。なお、本ゼミは、基礎を学ぶ教育と、専門性を深める現場でのフィールドワークを混合して行うため、基礎ゼミと専門ゼミを通期で捉えて実施する。したがって、基礎ゼミと専門ゼミの双方を履修することを条件とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーである「人間に対して、社会・環境・コミュニケーションなどの諸側面から理解している」に基づき、実際のスポーツ現場で活動する成長期年代のジュニアアスリートや支える指導者、保護者と直接触れ、対象者を取り巻く社会・環境を十分に現場で理解し、その状況を基に食を通してコミュニケーションを深める能力を高めることを目指す。実際に、対象者に対して求められる適切なアプローチ計画を策定し、それを基に、スポーツ栄養に関する指導教育媒体を作成し、再度アプローチを行い、フィードバックを得るプロセスを辿ることが卒業認定・学位授与方針との関連である。

到達目標

スポーツ現場で活動する成長期年代のジュニアアスリートや支える指導者、保護者と直接触れ、対象者を取り巻く社会・環境を十分に現場で理解し、その状況を基に食を通してアプローチすることを目的とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な 時間
				60

第1回	清野隼	基礎ゼミの最後に実施したアンケート結果のゼミ内共有	基礎ゼミで実施した、対象者のアンケート結果をゼミで共有し、よりよいアプローチを行うためにどのような改善点が必要か協議する。	予習（分）：アンケート結果の分析、まとめ 復習（60分）：アンケート結果の再確認
第2回	清野隼	アンケート結果のフィードバック資料と今後のアプローチ計画資料の作成	基礎ゼミで実施したアプローチに対するアンケート結果と、それを基にした今後のアプローチ計画の資料を作成し、現場の指導者にフィードバックする準備を進める。	予習（60分）：アンケート結果を基にした、今後のアプローチ計画を検討する 復習（60分）：今後のアプローチ計画のアップデートを行う
第3回	清野隼	アンケート結果のフィードバック資料と今後のアプローチ計画資料の作成	基礎ゼミで実施したアプローチに対するアンケート結果と、それを基にした今後のアプローチ計画の資料を作成し、現場の指導者にフィードバックする準備を進める。	予習（60分）：アンケート結果を基にした、今後のアプローチ計画を検討する 復習（60分）：今後のアプローチ計画のアップデートを行う
第4回	清野隼	アンケート結果のフィードバック資料と今後のアプローチ計画資料の作成	基礎ゼミで実施したアプローチに対するアンケート結果と、それを基にした今後のアプローチ計画の資料を作成し、現場の指導者にフィードバックする準備を進める。	予習（60分）：アンケート結果を基にした、今後のアプローチ計画を検討する 復習（60分）：今後のアプローチ計画のアップデートを行う
第5回	清野隼	フィールドワーク地の視察 指導者へのアンケート結果と今後のアプローチ計画の共有	2回から3回で作成したアンケート結果と今後のアプローチ計画をまとめた資料を、フィールドワーク地の視察の際に持参し、その内容を指導者にフィードバックしながら協議を行う。協議しながら、今後のアプローチ計画をアップデートする方向性を検討する。	予習（60分）：今後のアプローチ計画の検討、作成 復習（60分）：指導者からの意見を踏まえて、アプローチ計画をアップデートする
第6回	清野隼	アプローチ計画のアップデート	指導者からの意見を基に、アプローチ計画をアップデートする。どのような内容が現場に求められているか、学びを深める。	予習（60分）：アプローチ計画の検討 復習（60分）：アプローチ計画の検討
第7回	清野隼	アプローチ計画の共有、協議	策定したアプローチ計画をゼミで共有し、よりよい計画で行っていくための協議を行う。	予習（60分）：アプローチ計画の検討 復習（60分）：ゼミで出た意見を基に、アプローチ計画をアップデート

				する
第8回	清野隼	アプローチ計画を基にした、指導教育媒体の作成、学習	アプローチ計画に基づき、実際に行う指導教育媒体を作成する。そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。	予習（60分）：自身が行う指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第9回	清野隼	アプローチ計画を基にした、指導教育媒体の作成、学習 フィールドワーク地の視察	アプローチ計画に基づき、実際に行う指導教育媒体を作成する。そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。 作成した指導教育媒体を現場の指導者に実際に見てもらい、内容に関する意見をもらう。	予習（60分）：自身が行う指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第10回	清野隼	アプローチ計画を基にした、指導教育媒体の作成、学習	アプローチ計画に基づき、実際に行う指導教育媒体を作成する。そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。	予習（60分）：自身が行う指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第11回	清野隼	アプローチ計画を基にした、指導教育媒体の作成、学習 フィールドワーク地の視察	アプローチ計画に基づき、実際に行う指導教育媒体を作成する。そのポイントやコミュニケーションのヒントを学ぶ。 作成した指導教育媒体案を再度現場の指導者に見てもらい、内容に関する意見をもらう。	予習（60分）：自身が行う指導教育媒体を作成するための情報を集約する 復習（60分）：指導教育媒体の精度を高める
第12回	清野隼	指導教育媒体を活用したアプローチ、発信、実施	実際に作成した指導教育媒体を活用して、対象者に対してアプローチを行い、その反応や課題を得る。	予習（60分）：実際に行うアプローチ内容の準備 復習（60分）：実際に行ったアプローチ内容のフィードバック、課題分析
第13回	清野隼	指導教育媒体を活用したアプローチ、発信、実施、アンケート実施	実際に作成した指導教育媒体を活用して、対象者に対してアプローチを行い、その反応や課題を得る。 指導者や保護者、選手に対して再度アンケートを実施し、アプローチに対する意見を集約する。	予習（60分）：実際に行うアプローチ内容の準備 復習（60分）：実際に行ったアプローチ内容のフィードバック、課題分析、アンケートデータの分析
第14回	清野隼	アンケート結果の分析、データまとめ、プレゼンテーション	実施したアプローチに対する対象者のアンケート結果を分析し、まとめる。 最終回で実施するプレゼンテーションの内容を	予習（60分）：アンケート結果の分析、まとめ 復習（60分）：アンケート結果の分

		シヨンの準備	準備する。	析、まとめ、プレゼンテーションの準備
第15回	清野隼	アンケート結果も含めた1年間の実施内容のプレゼンテーション	1年間で実施した内容をまとめたプレゼンテーションを実施する。	予習（60分）：これまで実施した活動の整理、まとめ 復習（60分）：プレゼンテーションの内容の振り返り

教科書

必要に応じて紹介する。また、資料等も配布する。

参考書

「ケースで学ぶ スポーツ栄養学」
 編者：清野隼、虎石真弥、山口太一
 ISBN:978-4-86015-581-0 出版社：株式会社みらい
 価格：2500円＋税（10%）

「パフォーマンスを高めるためのアスリートの栄養学」
 著者：清野隼、塚本咲翔
 ISBN:978-4-8163-6484-6 出版社：株式会社ナツメ社
 価格：1500円＋税（10%）

成績評価の方法・基準

単位認定は60点以上とする。フィールドワークへの取り組み姿勢、作成した指導教育媒体、現場での対応等を総合的に判断して、これらを100%として評価する。

課題等に対する

フィードバックの方法

ゼミを進めていく中で、都度教員から実施する。また、学生同士が相互に成長しあえるよう、互いを尊重しつつ、相互評価できるようにする。

履修のポイント

2024年度は、一般社団法人桐生南スポーツアカデミーと連携して、桐生南高校施設を拠点として活動する桐生南ポニーリーグの小・中学生の野球選手や保護者、指導者等と活動を行う。実際の現場に行って、練習の見学を行ったり、小・中学生の選手や保護者、指導者の方と直接話したりする機会があるので、スポーツ現場に相応しいTPOを備えて活動することを望む。また、食を通してジュニアアスリートの健全な成長に貢献したい、と考えている学生や、ジュニアアスリートやその保護者の方と向き合って、多くの学びを吸収したいという熱意のある学生を望む。

オフィス・アワー

個別に対応するため、適宜相談に応じる。

科目区分

専門科目

講義コード	30300001	
講義名	オフィスワーク	
(副題)		
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	火曜日	
代表時限	4 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	松原 直樹	指定なし

授業の概要と教育目標

オフィスワークでは、職場での勤務の実際を学習する。この講座では、主に企業経営・実務に関する業務の知識について、また現実の日常業務に関する基礎知識および技術について、学習する。原則として、一般企業におけるオフィスワークを想定しているが、あらゆる職場に通用する知識・技術について、数多く学習する予定である。また、医療現場で働く人にとって、最低限のマナー・知識について習得できるような学習も行っていく。

本講座により、社会人として職場で働くために必要な共通の最低限度の知識を修得し、また医療現場の事務職として働くために必要不可欠な知識を修得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

家庭生活に対して大きな影響のある社会のさまざまな現象、及びそれを取り巻く社会的環境について科学的に学修することを目的とする。

到達目標

1. 職場において共通する基本的知識および職場における最低限のマナーを理解する。
2. 文書のまとめ方、言葉づかいの基礎について学習する。
3. 医療秘書資格取得に必要な知識を修得する。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	授業の方針・方法の説明をした後、ビジネスにおける心構え、また医療現場で働く人の心構えを学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：シラバスを読み、授業計画について把握する。 復習90分：ハンドアウトに記載してある内容を読んで、復習する。
			予習90分：ハンドアウト

第2回	ビジネスの現場での言葉づかいや医療現場での言葉づかいについて、具体的に学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		第2回を読む。 復習90分：ハンドアウト第2回に記載して内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第3回	ビジネスマナーとして、訪問時のマナー、会社内で執務する際のマナーについて学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：ハンドアウト第3回を読む。 復習90分：ハンドアウト第3回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第4回	ビジネスマナーとして、電話のかけ方や受け方、電話での話し方、会社の窓口での来客応対方法、話し方・聞き方を学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：ハンドアウト第4回を読む。 復習90分：ハンドアウト第4回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第5回	仕事において、必要とされるスケジュール管理、出張、ファイリング、情報管理、慶弔などについてのビジネス実務の知識を学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：ハンドアウト第5回を読む。 復習90分：ハンドアウト第5回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第6回	労働環境として、給与・報酬・手当などがどのような体系となっているのか、また給与から差し引かれる税金・社会保険について、学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。		予習90分：ハンドアウト第6回を読む。 復習90分：ハンドアウト第6回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第7回	労働者保護のしくみとして、法令で定められている具体的内容、会社による福利厚生 of 具体例について学習する。また、主な労使間の具体的なトラブルについて、学習する。講義終了時にチェックテストを実施する。	調べてきた労使間の具体的なトラブルを発表する。	予習120分：ハンドアウト第7回を読む。労使間の具体的なトラブルを調査しておく。 復習60分：ハンドアウト第7回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第8回	医療秘書実務に関するルールを学習する。		予習90分：事前に配布された課題をやってくる。 復習90分：返却されたまとめのテストについて、誤りを復習する。第8回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤りを復習する。
第9回	まとめのテストの解答の提示および解説を行う。 医療秘書実務問題演習(1)医療及び医療保険等に関わる法令に関する問題演習を行う。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第9回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習

			する。
第10回	医療秘書実務問題演習(2)医療保険等に関わる法令に関する問題演習を行う。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第10回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第11回	医療秘書実務問題演習(3)診療報酬請求に関する実務について問題演習を行う。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第11回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第12回	医療秘書実務問題演習(4)診療報酬請求に関する実務について問題演習を行う。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第12回の授業で行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第13回	医療秘書実務問題演習(5)診療報酬請求に関する実務について引き続き問題演習を行う。 医療秘書実務において、重要な部分を復習する。		予習120分：事前に配布された課題をやってくる。 復習60分：第13回の行った課題の解説を参考にして、誤っていた部分を復習する。
第14回	ビジネスの現場で使われる文書の様式について学習し、ビジネス文書はどのようにまとめたらいのかについて、学習する。ここで学習した知識・技術を使って、ビジネス文書を作ってみる演習を行う。		予習90分：ハンドアウト第14回を読む。 復習90分：ハンドアウト第14回に記載してある内容を読んで、復習する。返却されたチェックテストについて、誤りを復習する。
第15回	作成されたビジネス文書例を検討する。 まとめのテスト(40分)を実施する。	前回作成したビジネス文書例を発表する。	予習90分：ハンドアウト第15回を読む。 復習90分：ハンドアウト第15回に記載してある内容を読んで、復習する。まとめテストの解答・解説を読んで、誤りを復習する。

教科書

医療秘書関係科目の教科書(『メディカルシステム論』『診療報酬請求の実務』『医科診療報酬点数表』、等)

参考書

武田秀子・他『秘書・オフィス実務』(早稲田教育出版)

成績評価の方法・基準

平常点(授業への参加度・学習態度・等) [20%]、チェックテスト・課題等 [50%]、医療秘書実務理解度 [30%] を総合して評価。総合点60点以上で単位認定する。

課題等に対する

フィードバックの方法

授業時間でチェックテスト等を実施し、授業終了時に提出してもらったものについては、原則として次回授業で採点済答案を返却して、チェックテスト等の解説を行う。返却できない回のテストについては、解答と解説を配布する。最終授業回等の答案については、希望する者には

返却する。11号館3階研究室5に取りに来ること。
履修のポイント
医療管理秘書士、医事管理士等の医療事務関係資格取得希望者は、単位修得する必要がある。
オフィス・アワー
月・火・金曜日，11時～15時（授業時間以外），11号館3階研究室5
科目区分
専門科目

講義コード	30310001
講義名	家庭の医学
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	2
代表曜日	金曜日
代表時限	1 時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	山崎：内科医としての経験（42年）を活かし、実額実践の授業を展開する。長谷川：看護師としての実務経験を活かして、年齢や健康レベルに応じた健康維持・回復促進・管理について授業を行う。佐藤：看護師とし
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	長谷川 真美	指定なし
教員	山崎 純一	指定なし
教員	佐藤 光栄	指定なし
教員	吉田 幸子	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養士、あるいは医療事務従事者は、家庭生活だけでなく職場において種々の疾病にかかわりを持つことがある。わが国で増加している生活習慣病や日常生活において自分自身の身の回りの人々がかかりやすい病気や外傷について基本的な知識や対応法を理解することは重要である。講義では代表的な生活習慣病や日常生活で遭遇する病気や外傷について学習し、自ら健康を守るためのセルフケア力を高めるとともに援助を必要としている周りの人々に適切な支援ができるための知識と技術の習得することを目標とする

卒業認定・学位授与の方針との関連

生活科学科のディプロマポリシーとの関連として、「人体の構造と機能」「疾病の成り立ち」「健康維持に必要な知識と技術」を学ぶことで、「『人間のからだ』『食品』『栄養』に関する学習を総合的に理解し、『健康・栄養』に係る現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している」ことを目指す。

到達目標

1. 日常生活でかかりやすい病気とその症状、治療方法について理解できる
2. 身近に接する病気やけがの初期対応について基本的知識と技術を修得する
3. 人間の発達段階と健康との関連および健康生活を送るためのできる方法を理解できる
4. 自分自身の体と健康について理解できる
5. 自分自身の健康のために必要なことが考えられる

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間

第1回	山崎純一	薬局で購入できる医療品：（山崎純一） 医薬品は病気の「治療を目的とした薬で、厚生労働省より配合されている有効成分の効果が認められたものである。医薬品は医療用医薬品、要指導医薬品、一般用医薬品の3種類に分類されるが、薬局での購入の仕方が異なる。さらに一般医薬品は第1類から第3類までに分類される。	日常、市販薬として服用している一般医薬品名を挙げ、効果や服用時の注意などについて調べ、教室内で共有する	予習：90分 自分または身近な人が日常使用している市販薬の効果、服用時の注意などについて調べる 復習：90分 本日学んだことをノートに整理す
第2回	山崎純一	検査とは：（山崎純一） 検査は臨床検査と生理機能検査に大きく分けられる。これらの検査を行う意義を学習する。臨床検査では健康診断などでも用いられる一般検査、血液検査、生化学検査の診断的意義を学習する。生理機能検査では広く用いられている心電図、呼吸機能検査を中心に上げ、実施の意義や結果の意味を学習する	臨床検査：各種疾患において、認められる検査結果の異常値の意味を考える 生理機能検査：主要な疾患の検査結果と健常者の所見を比較し特徴を捉える	予習：90分 主要な検査と基準値について調べる。 復習：90分 本日学んだことをノートに整理する
第3回	山崎純一	高血圧：（山崎純一） 「高血圧」の発症には塩分摂取過多と動脈硬化、つまり体液量増多と末梢血管の抵抗性の2因子が関与する。「高血圧」の合併症に狭心症や腎機能障害などの心・血管病変があり、治療として生活習慣の改善や食事療法、薬物療法がある。 糖尿病： 「糖尿病」の発症には不規則な生活習慣（過食や運動不足）と遺伝的要因が関与する。瀬栄勝生看病の代表的な疾患でもあり、合併症には心・血管病変がある。	「高血圧」「糖尿病」を予防する生活習慣や食事療法について意見交換し、知識を深める	予習：90分 「高血圧」「糖尿病」について疾患の特徴および食事療法を調べる。 復習：90分 本日学んだことをノートに整理する
第4回	山崎純一	脂質異常症：（山崎純一） 脂質異常症とは血液中のコレステロールや中性脂肪などの資質が高値を呈する状態である。動脈硬化の原因となり、心筋梗塞や脳卒中などのリスクが高くなることから、予防として生活習慣（過食や運動不足）の改善が必要である。 脳卒中： 「脳卒中」とは脳の血管が突然つまったり破れて出血したりする脳血管疾患である。「脳卒中」には主に脳の血管がつまる「脳梗塞」、脳の血管が破れる「脳出血」、脳の血管にできた脳動脈瘤が破裂する「くも膜下出血」がある。	「脂質異常症」を予防する食事について意見交換し、知識を深める	予習：90分 「脂質異常症」「脳卒中」の疾患の特徴および脂質異常症の食事療法について調べる 復習：90分 本日学んだことをノートに整理する
第5回	長谷川真美	病院での感染と感染予防： ・感染と感染症 ・感染発症のプロセス ・医療関連感染（院内感染）とその対策 ・手指消毒の実際 ・病院での感染対策に対する取組	手指消毒を実施し、病院内の感染のリスクについてディスカッションする	予習：90分 院内感染についてどのようなものがあるか調べる 復習：本日の学びをノートに整理する
	長	発達段階と発達の特徴：		予習：90分 エリクソンの発達理論につ

第6回	谷川真美	- 人間の発達とは - 人の発達段階 ・ 発達に影響するもの - 各発達段階の発達特性と発達課題	青年期の発達課題についてディスカッションを行う	いて調べる 復習：90分 本日の学びをノートに整理する
第7回	佐藤光栄	加齢による変化（1）身体機能：（佐藤光栄） - 加齢と身体機能の特徴 - 高齢者の病気の特徴 - フレイル ・ サルコペニア - ロコモティブシンドローム - 予防のための運動 ・ 食事 ・ 社会活動	加齢による機能低下と機能低下に合わせた運動方法についてグループディスカッションを行う	予習：90分 フレイルについて調べる 復習：90分 本日の学びをノートに整理する
第8回	佐藤光栄	加齢による変化（2）認知機能：（佐藤光栄） - 認知症とその予防 - 介護の実際と課題 - 活用できる社会資源	認知症の人の対応をペアで話し合い、互いにロールプレイを実施する	予習：90分 認知症について調べる 復習：90分 本日の学びをノートに整理する
第9回	佐藤光栄	加齢による変化（3）車いす体験：（佐藤光栄） - 車いすの種類と機能 - 車いすの扱い方（乗せ方、降ろし方、走行上の注意点、段差・坂道・エレベータなどの移動方法など） - 車いす介助体験と乗車体験からの学び	車いす介助体験と乗車体験からの学びについてグループディスカッションを行う	予習：90分 車いすの各部の名前と扱い方について調べる 復習：90分 本日の学びをノートに整理する
第10回	吉田幸子	こどもの病気（1）子供の発達と病気： - 子供の発達 ・ 発達と遊び - 子供の病気の特徴 - 子供に多い病気と看護	子どもの遊びについてディスカッションを行う	予習：90分 子どもの予防接種について調べる 復習：90分 本日の学びをノートに整理する
第11回	吉田幸子	子どもの病気（2）子供の病気・事故とその対応： - 子どもに多い事故 - 家庭にあるものを使っての応急手当 - 救急車を呼ぶタイミングと呼び方 - 医療機関へのかかり方	子どもの事故の起こりやすい場所や応急手当についてディスカッションを行う	予習：90分 子供に多い事故について調べる 復習：90分 本日の学びをノートに整理する
第12回	長谷川真美	救急対応＜心肺蘇生法BLS＞の実際： - 心臓マッサージの方法 - AEDの使い方 - 傷病者の動かし方と救急要請の仕方	BLSの体験を行い、自分たちの手技について振り返り、多約日な救命のためにできることについてディスカッションを行う	予習：90分 心マッサージの方法について調べる 復習：90分 本日の学びをノートに整理する
	長谷川	セルフケア（1）身体の兆候に気づく：	自分の生活を振り返り、より健康に	予習：90分 成人に多い病気について調

第13回	川 真 美	・自分の生活の振り返り ・より健康になるためにできること ・実際に行動する計画を立案する	なるためにできる ことについてペア で話し合う	べる 復習：90分 自分の計画の 実施と評価
第14回	長 谷 川 真 美	セルフケア（2）心の兆候に気づく： ・実際に行った計画の振り返り ・ストレスチェック ・ストレスを回避対策 ・レポート課題の提示	第13回の課題の結 果についてペアで 意見交換を行う より健康になるた めに、今できるこ とについてグルー プで話し合う	予習：90分 自分の計画の 評価 復習：90分 学んだことを ノートにまと める
第15回	山 崎 純 一	医療事務とは：（山崎純一） 医療事務に携わる場合に備え、我が国の医療制度 について基本的な知識を理解する。具体的には国 民皆保険制度、診療所（クリニック、医院）と病 院の違い、地域医療支援病院の承認条件など。	国民皆保険制度、 診療所と病院の違 い、地域医療支援 病院について調べ たことを共有する	予習：90分 本日の共有テ ーマについて 調べる 復習：90分 本日学んだこ とをノートに 整理する

教科書

使用しない。授業プリントを毎回配布する。

参考書

適宜紹介する。

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上

山崎：課題で評価する（50%）。

長谷川：論述課題で評価する（50%。テーマは別途提示する。

課題等に対する フィードバックの方法

授業で講義内容を配布するので、授業内容の理解に役立てること。質問にはいつでも応じる。
課題等は総合的なコメントを授業内で行う。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待する。

予習：当日の講義で取り上げる内容についてネットや参考書で調べておく。復習：配布資料を
中心に講義での学びをノートに整理する。

実技があるので、ふさわしい身支度で参加する。

都合で授業内容が前後することがある。

オフィス・アワー

授業終了後に適宜受け付ける。

その他、山崎は火・木・金

長谷川は月・火・金に適宜受け付けるので、教務課に依頼し予約すること

科目区分

専門科目

講義コード	30320001
講義名	医療保険実務
(副題)	
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	医療機関の医事課で9年の実務経験があり、実際の医療機関の話を織り交ぜながら必要な知識を伝える。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	尾崎 好子	指定なし

授業の概要と教育目標

医師が診療中に記録した診療録（カルテ）を読むための基本的な医学の知識を身に付ける。
医師が行った診療行為を料金化するための算定方法を習得する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解することを目指し、社会で実践的に活用できる人材を育成するための科目である。

到達目標

診療録（カルテ）より治療内容を読み取り、診療報酬明細書を作成する知識と技術を身に付けることができる。

授業計画

	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	医療事務とは？ 医療費のしくみ 診療報酬明細書	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第2回	初診料	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第3回	再診料	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第4回	入院料	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布し

		た練習問題は自主学習にも使用する。
第5回	医学管理等料 在宅医療料	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第6回	投薬料	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第7回	注射料	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第8回	処置料 手術料 麻酔料	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第9回	検査料 病理診断料 放射線治療料	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第10回	画像診断料 精神科専門療 法料 リハビリテー ション料	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第11回	カルテの読み 方 レセプトの書 き方 カルテ問題 (1)	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第12回	カルテの読み 方 レセプトの書 き方 カルテ問題 (2) カルテ問題 (3)	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第13回	カルテの読み 方 レセプトの書 き方 カルテ問題 (4) カルテ問題 (5)	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第14回	カルテの読み 方 レセプトの書 き方 カルテ問題 (6) カルテ問題 (7)	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。
第15回	まとめ	予習90分：テキストに目を通し授業に備える。 復習90分：受講した内容を復習し、ノートや資料を整理、講義中配布した練習問題は自主学習にも使用する。

教科書
『診療報酬請求の実務診療報酬請求演習』（一般社団法人 医療教育協会発行） 『医科診療報酬点数表』（一般社団法人 医療教育協会発行）
参考書
特に指定しない。
成績評価の方法・基準
単位認定60点以上 授業への取り組み姿勢（20%） 課題・レポート・提出物（20%） 定期試験（60%）
課題等に対する フィードバックの方法
提出された課題および質問に対しては個別に対応し、授業時に全体に向け回答・説明する。
履修のポイント
遅刻をせず、忘れに気を付け、真剣に課題に取り組むこと。 医療管理秘書士資格取得に必要な科目です。
オフィス・アワー
集中講義期間内の授業開始前もしくは終了後に教室等で質問に応じます。
科目区分
医療事務科目

講義コード	31000001	
講義名	教育方法・特別活動の指導法（家庭）	
(副題)	【教職必修（家庭）】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	1	
代表曜日	水曜日	
代表時限	5 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校での教員経験を活かし、理論と実践について幅広く知識を深めていく授業を展開する	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	石井 広二	指定なし

授業の概要と教育目標

限られた時間内に教育が行われる学校では、指導上の効果を高めるため、教育方法について理解し研究することがとりわけ肝要である。被教育者の知識・技術の習得をより効果的なものにし、さらに生徒の自主的・創造的な学習を発展させるうえで、教員を目指す者にとって教育方法の学習は、以前にも増して重要性が高まっている。この授業では、教授ないし学習指導と呼ばれている事柄を中心に扱う。また、教育に対するICTの利用法や教育評価についても、教育方法にとって不可欠な分野として、一部、取り上げる。

一方で、特別活動は、構成の異なる集団での活動を通して学校生活を捉え、課題の発見や解決を行い、よりよい集団や学校生活を目指して様々に行われる活動である。

そこで、この授業では、学校教育の中で行われる、指導の効果を高めるための方法について理解し研究することを目標とし、学習指導要領に則しながら、特別活動の各活動の内容や指導方法など事例を通して検討していく。

また、授業ではMoodleを活用する予定である。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学科のDP「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している。」と、教員免許状取得のために必要な学校教育法施行規則に定める科目「教育方法及び技術」と「特別活動の指導法」に該当している。

到達目標

- ・教育方法の基礎理論、方法、技術について理解する
- ・各種メディアの教育における利用方法を理解し、活用できる
- ・教育評価の理論と応用について理解する
- ・学習指導要領における特別活動の意義を理解する
- ・特別活動の指導の在り方を理解する

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
			予習90分：教科書

第1回	求められる学力とは何かを検討し、学校教育と学習指導要領の基本理念について考える 課題：指導案（細案）の作成とその意図の発表		第1章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題の作成
第2回	教育方法の基礎理論について		予習90分：教科書第2～4章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題の相互評価
第3回	具体的な指導技術の問題点を確認し、代表的な方法と留意点をみる 学習者が意欲的に学ぶにはどのような工夫が必要か考える		予習90分：教科書第5～9章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第4回	学習における評価の意味について考える		予習90分：教科書第12章を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第5回	各自で作成した指導案を発表し、検討をおこなう （受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性あります）	指導案の発表・検討	予習90分：指導案の発表資料作成 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題レポートの作成
第6回	学習指導要領における特別活動の意義と内容について検討する		予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載、課題レポートの作成
第7回	学級活動・生徒会活動・学校行事の目標とその内容について事例を通して考える（小学校・高等学校との違いを踏まえながら）	グループワーク：特別活動の指導案	予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載
第8回	特別活動における指導方法および評価について検討する	グループ発表：特別活動の指導案の発表	予習90分：学習指導要領解説を熟読すること 復習90分：振り返りをMoodleに記載

教科書

『新しい教職教育講座 教職教育編 教育の方法と技術』（篠原正典・荒木寿友 編著）ミネルヴァ書房
 中学校学習指導要領（平成29年告示）文部科学省
 中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 特別活動編（平成29年7月）文部科学省

参考書

「教育の方法と技術 Ver.2 IDとICTでつくる主体的・対話的で深い学び」稲垣忠（北大路書房）
 「インストラクショナルデザインの道具箱101」鈴木克明監修（北大路書房）
 「特別活動」中村豊・原清治編著（ミネルヴァ書房）など適宜紹介する

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。授業中に課す課題とその取組（40%）、指導案と発表（30%）、課題レポート（30%）を総合的に評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

授業では課題を課します。それらは相互に評価することがあり、その結果をMoodleを通して、個別もしくは全体にコメントしますので、参考にしてください。

履修のポイント

授業日程についてはしっかり確認し、遅刻・欠席がないように注意してください。
また、受講者数、教育実習の日程などにより変更の可能性があります。
授業の回数が少ないため、各自で教科書を熟読し理解を深めてください。
欠席（公欠含む）した場合は、後日内容の確認をしてください。
課題は必ず提出すること。

オフィス・アワー

金曜日の昼休みを予定。それ以外の曜日・時間については、授業の際に伝える。11号館3階研究室6。

科目区分

教職科目

講義コード	31010001	
講義名	総合的な学習の時間の指導法（共通）	
(副題)	【教職必修（共通）】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	1	
代表曜日		
代表時限		
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	櫻井 歓	指定なし

授業の概要と教育目標

授業の概要と目標：「総合的な学習の時間」の概要や指導方法について扱う。探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う「総合的な学習の時間」の意義、目標および内容を理解するとともに、その指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けることを到達目標とする。「学習指導要領」や具体的な教育実践例の研究などを通じて、今日的な教育課題を踏まえた創造的な教育実践を可能とする指導法の基礎を養う。

授業の方法：担当教員による講義と、アクティブ・ラーニングとしての小グループによる意見交換、指導計画のグループ発表などを有機的に組み合わせ、効果的に授業を行う。授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介しコメントする。

準備学習の内容：本科目では、授業への参加は言うまでもなく、授業外での準備学習が重要となる。各回の授業の復習のほか、配布プリントの予習、さらにレポート作成の課題などについては、受講者各自による授業外での主体的な取り組みが求められる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

以下に掲げる本学生活科学科のディプロマ・ポリシーのもと培われる生活科学分野の専門性と、教職課程で培われる教職の専門性をあわせ持って、学生の個性・適性に応じて社会で活躍することのできる専門家・市民の育成を目指す。

【生活科学科】

1. 私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している。
2. 生活科学の基礎となる衣食住に関する基本的なことがらについて、さらに生活を取り巻く社会的環境について、科学的に理解している。
3. 「人間のからだ」「食品」「栄養」に関して基本的なことがらを理解し、さらにそれら相互作用について、理解している。
4. 「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」に係る現場での実践的に活用し、また問題を解決できる能力を修得している。

到達目標

上記「授業の概要と教育目標」欄に記載した内容のうち、次のことが到達目標となる。「探究的な見方・考え方を働かせ、横断的・総合的な学習を行う「総合的な学習の時間」の意義、目

標および内容を理解するとともに、その指導計画の作成および具体的な指導の仕方、並びに学習活動の評価に関する知識・技能を身に付けること」。このことを学生視点の到達目標として簡潔に表現すれば以下の通りである。

(1)「総合的な学習の時間」の意義・目標・内容について説明することができる。

(2)「総合的な学習の時間」の指導・評価に関するレポートを作成し、効果的なグループ発表とそのふり返りができる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	櫻井 歓	授業内容：開講にあたって（ガイダンス、受講者の「総合的な学習の時間」体験のふり返り） 方法：講義とアクティブラーニング 課題：本科目の授業について見通しをもつとともに、学生自身の「総合的な学習の時間」についてふり返る	小グループによる「総合的な学習の時間」体験のふり返り、小レポートの作成	復習：授業プリント・ノートの読み直し、時事的な教育問題の情報収集（新聞、テレビ、インターネットなどのメディアを活用）（予習・復習を含めて180分程度）
第2回	櫻井 歓	授業内容：教育課程における総合的な学習の時間の意義と役割 方法：講義とアクティブラーニング 課題：総合的な学習の時間の意義と役割について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集（新聞、テレビ、インターネットなどのメディアを活用） 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第3回	櫻井 歓	授業内容：「学習指導要領」にみる総合的な学習の時間 方法：講義とアクティブラーニング 課題：「学習指導要領」にみる総合的な学習の時間に関する記述について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、中間レポートの作成準備 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第4回	櫻井 歓	授業内容：総合的な学習の時間の指導（1）主体的・対話的で深い学び 方法：講義とアクティブラーニング 課題：近年の教育改革のキーワードとされている「主体的・対話的で深い学び」について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、中間レポートの作成・提出準備 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書（予習・復習を含めて180分程度）
第5回	櫻井 歓	授業内容：総合的な学習の時間の指導（2）各教科などとの発展的な関連性 方法：講義とアクティブラーニング 課題：(a)総合的な学習の	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書

		時間と各教科などとの関連性について知識を得る、(b)中間レポートを提出する		(予習・復習を含めて180分程度)
第6回	櫻井 敏	授業内容：総合的な学習の時間の指導（3）年間指導計画と単元計画 方法：講義とアクティブラーニング 課題：総合的な学習の時間の年間指導計画と単元計画について知識を得る	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書 (予習・復習を含めて180分程度)
第7回	櫻井 敏	授業内容：総合的な学習の時間の指導（4）教育実践例の研究 方法：講義とアクティブラーニング 課題：(a)総合的な学習の時間の教育実践例について知る、(b)中間レポートに基づく指導計画をグループで発表する	小グループによる意見交換、小レポートの作成とフィードバック、グループワークによる指導計画の発表	予習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、指導計画の発表準備 復習：授業プリント・ノートの読み直し、授業に関連する読書 (予習・復習を含めて180分程度)
第8回	櫻井 敏	授業内容：総合的な学習の時間の評価、授業のまとめと筆記試験 方法：講義とアクティブラーニング 課題：(a)総合的な学習の時間の評価について知識を得る、(b)最終回の授業時間の一部で筆記試験を受験する	小レポートのフィードバック、小グループでの感想交流	予習・復習：配布プリントの予習、予告されたテーマに関する情報収集、これまでの授業内容を復習して筆記試験への準備を行う（予習・復習を含めて180分程度）

教科書

池田考司・杉浦真理・教育科学研究会[編著]『みんなでつくろう！SDGs授業プラン』（旬報社、2022年）

参考書

「中学校学習指導要領」（文部科学省、平成29年3月）
「高等学校学習指導要領」（文部科学省、平成30年3月）
「中学校学習指導要領解説」総合的な学習の時間編（平成29年7月 文部科学省）
「高等学校学習指導要領解説」総合的な探究の時間編（平成30年7月 文部科学省）
関川悦雄・今泉朝雄[編]『特別活動・総合的学習の理論と指導法』（弘文堂、2019年）
高橋陽一[編]『総合学習とアート』（武蔵野美術大学出版局、2019年）

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。授業への出席を前提条件として、中間レポート（40%）と筆記試験（60%）により評価する。なお、授業への積極的な取り組み（指導計画の発表など）を加味する場合がある。

課題等に対する フィードバックの方法

(a) 授業を対話的に展開するため、各回授業時に小レポートを書いてもらい、次の回で何人分かを紹介しコメントする。
(b) 各自で作成した中間レポートをもとにグループで総合的な学習の時間の指導計画を作成し、発表会を行う。担当教員より指導計画のグループ発表について講評を行う。

履修のポイント

専門職としての教職の資格取得のための科目であるため、単位認定は厳格に行う。学生諸君には教員免許状取得に向けての意欲と覚悟を持って受講していただきたい。

オフィス・アワー

授業終了後に教室にて質問・相談などを受け付ける。

科目区分

教職科目

講義コード	31020001	
講義名	道徳理論・特別活動論（栄養）	
(副題)	【教職必修（栄養）】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	1	
代表曜日	火曜日	
代表時限	5 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校の教員として数年間にわたり勤務し、クラス担任を担当した経験がある。その経験を活かし生徒同士あるいは家族の絆を強めたり、問題解決の方法を自ら見つけたりする能力を開発する。	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

道徳教育の歴史、その意義と役割を理解しつつ、学習指導案作りを実践する。他の教科との連携を踏まえ、教育実習の場でしっかりと道徳の授業ができる教育力を養うものである。また、特別活動の意義やその内容、今日における諸問題を理解する。

卒業認定・学位授与の方針との関連

道徳、総合的な学習の時間等の指導及び生徒指導、教育相談等に関する科目で、生活科学科のディプロマポリシーにある「私たちの生活を身近な問題からグローバルなテーマまで多角的に理解している」ことを踏まえつつ、自分から進んで多面的な授業テーマを探り、それを実際に、小・中学校の道徳の授業のなかで、生かせるようにする。

到達目標

小・中学校において実施される道徳教育の位置づけや意義、教育目標、内容について理解し、説明することができる。指導方法や評価方法について理解し、説明できる。これら2点を教育目標として掲げる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	道徳教育の定義と、人格の完成に欠かせない道徳教育や特別活動の意義を理解する。		復習90分。最近の道徳についての記事を調べる。
第2回	橋爪博幸	道徳教育の歴史を知る。	今日の日本や国際社会での道徳教育の課題について考える。	予習90分。復習90分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
		成長の各段階における人間		

第3回	橋爪博幸	の道德性の発達と開花（学年に適した教材に関する考察を含む）のプロセスをたどる。		予習90分。復習90分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導要領を事前に読んでおく。
第4回	橋爪博幸	学習指導要領に記された道德教育の内容と教育目標（多様な指導方法の理解を含む）を知る。		予習120分。復習120分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、資料探索を行う。
第5回	橋爪博幸	学習指導計画と、教育活動全体のなかでの道德教育の位置づけを理解する。		予習120分。復習120分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表の大筋を決める。
第6回	橋爪博幸	道德の授業の指導案を作成する。	道德の授業目標の設定し、授業プログラム案（学習指導案）の作成と発表を行う。	予習120分。復習120分。事前に配布された資料を読み込む。学習指導案の作成にあたり、発表資料づくりを行う。
第7回	橋爪博幸	個々の児童・生徒における道德教科の評価方法を知る。		予習90分。復習90分。事前に配布された資料を読み込む。最近の道德についての記事を調べ記事と概要と感想を書いてレポートにまとめ提出する。
第8回	橋爪博幸	学生による模擬授業の実施と、その振り返り（学生による自己評価を含む）を行う。		復習90分。事前に配布された資料を読み込む。作成した各自の指導案、発表資料等を提出する。

教科書

授業時にプリントを配布する。

参考書

小寺正一・藤永芳純『三訂道德教育を学ぶ人のために』世界思想社、2009年
「小学校学習指導要領」「中学校学習指導要領」（平成29年3月告示 文部科学省）
「小学校学習指導要領解説」「中学校学習指導要領解説」にある「特別の教科道德」（平成29年6・7月告示 文部科学省）

成績評価の方法・基準

単位認定は60点以上（100点満点中で）。道德教育に関するレポート（60%）、各時間の振り返りシート（20%）、模擬授業の発表（20%）で評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

課題のレポートに、コメントを入れて後日、返却する。補足説明があるときは、授業内で提示し、または印刷して配布してフィードバックとする。

履修のポイント

授業回数が8回のみであるから、休まず出席すること。なお授業時間以外に、模擬授業のアクティブラーニングを実施する場合がある。

オフィス・アワー

水曜日の昼休みの時間をオフィス・アワーの時間とする。質問等を受け付けます。

科目区分

教職科目

講義コード	31030001
講義名	生徒指導論（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	月曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

- ①教科・道徳・総合的な学習の時間・特別活動における生徒指導の意義や重要性を理解すると同時に、教育課程全般のなかでの生徒指導の位置づけを理解する。
- ②集団指導・個別指導また「個人と集団」という概念のもとで、生徒指導について考える。
- ③子どもの成長発達の段階を踏まえながら、基礎的生活習慣や規範意識の重要性について考える（栄養教諭の立場から）。
- ④学校教育における体罰、いじめ、不登校、インターネットや性、また児童虐待に関する問題などを具体的に取り上げながら、これらへの対応について考える。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、身近な生活からグローバルなテーマ、そして社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

生徒指導は、一人ひとりの児童及び生徒の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めることを目指して教育活動全体を通じて行われる、学習指導と並ぶ重要な教育活動である。他の教職員や関係機関と連携しながら組織的に生徒指導を進めていくために必要な知識・技能や素養を身に付ける。

授業計画

	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	教育課程における生徒指導の位置付けについて理解する。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
			予習90分：教育

第2回	生徒指導について集団指導と個別指導の実態を踏まえ、その方法原理を理解する。		に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第3回	・校則の実態を学びながら、なぜ校則が存在し、なぜ必要であるかについて考える。 ・体罰の実態を学びながら、体罰禁止の根拠と懲戒の実施について学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第4回	いじめ（いじめ自殺）についての視聴覚教材を用いて、いじめについて考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第5回	・いじめの構造を理解し、その対応方法（生徒指導）について考える。 ・不登校や暴力行為の生徒指導上の課題や対応の視点について学び、考える。		予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第6回	栄養教諭を前提として、基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた生徒指導について考える。― 朝食欠食問題・不規則な生活習慣などを事例に ―	栄養教諭を前提として、基礎的な生活習慣の確立や規範意識の醸成に向けた生徒指導について考える。― 朝食欠食問題・不規則な生活習慣などを事例に ―	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第7回	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション	クラスでの生徒指導に関するケース・スタディとグループディスカッション	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。
第8回	第7回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。まとめ。	第7回でのディスカッションをもとに、プレゼンテーションと相互検討。まとめ。	予習90分：教育に関する事象について調べる。 復習90分：配付資料を見直す。

教科書

なし

参考書

『生徒指導提要』（令和4年）『小学校学習指導要領』（平成29年）
『中学校学習指導要領』（平成29年）
岩城孝次・森嶋昭伸『生徒指導の新展開』ミネルヴァ書房
適宜、資料を配付する。

成績評価の方法・基準

定期試験（80％）、授業時のレポート（20％）
単位認定基準60％以上

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートを課すことがある。返却するので学習の参考にすること。また、授業内での自分自身の発言の参考にすること。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー
火曜日・木曜日の12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室 ※授業終了後も、適宜受け付けます。
科目区分
教職科目

講義コード	31040001	
講義名	教育相談（共通）	
（副題）	【教職必修（共通）】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	前期	
講義区分	講義	
基準単位数	2	
代表曜日	金曜日	
代表時限	5 時限	
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	教育センター教育相談部やスクールカウンセラーの経験を活かし、教育相談に臨むにあたって必要な姿勢や在り方を解説する	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	大澤 靖彦	指定なし

授業の概要と教育目標

児童・生徒の発達の状況等一般的理解の意義と手法を学びながら、個々の心理的特質や教育的課題を捉える個別的理解について学習する。その際、教育相談の技術として、カウンセリングに関する基礎的事柄についても、体験的な学びを交えながら理解を深めていく。また、教育相談の組織的な取組や連携についても、職種や分掌を意識した校内体制の在り方を理解するとともに、保護者に対する教育相談や、必要に応じた地域の医療・福祉・心理等の専門機関との連携の意義を理解していく。

卒業認定・学位授与の方針との関連

学校教育やそれを囲む社会との関係で、教育相談の必要性を理解し、基礎的知識を得るとともに、ディプロマポリシーで重視する実践する際の基礎力を身に付けます。

到達目標

- 1) 学校における教育相談の意義と理論を理解する。
- 2) 教育相談を進める際に必要な基礎的知識（カウンセリングに関する基礎的事柄を含む）を理解する。
- 3) 教育相談の具体的な進め方やそのポイント、組織的な取組みや連携の必要性を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	大澤 靖彦	オリエンテーション 日本における教育相談の歴史を踏まえ、教育相談とは何か（目的、開発的・予防的・治療的側面）について理解する。	教育相談がどのように行われているのかについて、グループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：教科書を準備し、授業に備える。 復習90分：小テストに解答する。教科書p2～7と配布資料を熟読し、教育相談の意義と役割についてノートに整理する。
		教育相談の実際（教育相談		予習90分：教科書pp.176～185を読み、重要

第2回	大澤靖彦	と近接概念、教師の強みと限界) 教師の行う相談活動について、学校現場の様子を理解しながら、教師だからこそできる相談について考究する。	教師の強みとは何かについてグループで話し合い自分の考えを深める。	箇所アンダーラインを引く。 復習 ^{90分} ：小テストに解答する。カウンセラーではなく、教師だからこそできる相談の長所・短所をノートに整理するとともにレポートに着手する。
第3回	大澤靖彦	アセスメント（情報収集の方法、援助シート、心理検査） 子どもの援助のためにはアセスメントは重要である。アセスメントの一部である心理テストについても理解する。	児童生徒の支援にはどのような情報が必要なのかについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習 ^{90分} ：教科書p ⁹⁰ ～100を熟読し、重要箇所アンダーラインを引く。 復習 ^{90分} ：小テストに解答する。さまざまなテストの特徴について覚え、過去問を解く。
第4回	大澤靖彦	カウンセリングに学ぶ相談の基本姿勢1（来談者中心療法） 教育相談における受容と共感がなぜ大切なのか、叱ることの意味について考究し、カウンセリングマインドとは何かについて理解する。	児童生徒が相談しやすくするために教師はどのような配慮が必要かについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習 ^{90分} ：教科書pp.13～21を熟読し、重要箇所アンダーラインを引く。 復習 ^{90分} ：小テストに解答する。学校カウンセリングのベースとなるロジャーズの考え方をおさえたうえで、カウンセリングマインドについて理解する。
第5回	大澤靖彦	カウンセリングに学ぶ相談の基本姿勢2（精神分析、行動療法） 学習理論に基づく人間の行動の理解と行動変容の考え方を理解する。	児童生徒理解のために心理療法や理論の知恵をどう活かすかについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習 ^{90分} ：1年時の「心理学」で学んだ「学習」についてポイントを整理しておく。 復習 ^{90分} ：小テストに解答する。日常生活の中にある学習した困ったことについてどのようなものがあるか考え、ノートに書き出す。
第6回	大澤靖彦	カウンセリングに学ぶ相談の基本姿勢3（認知行動療法、家族へのアプローチ、日本で生まれた心理療法）	児童生徒理解のために心理療法や理論の知恵をどう活かすかについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習 ^{90分} ：教科書p ³⁸ ～40（認知療法）を熟読し、重要箇所をノートにまとめる。 復習 ^{90分} ：小テストに解答する。教科書pp.38～40（認知療法）を熟読し、重要箇所をノートにまとめる。
第7回	大澤靖彦	面接技法（受容、繰り返し、明確化、支持、沈黙、質問） 面接における基本的な技法を習得することを目指す。日常の会話や授業でも使えるようにする。	児童生徒が安心して話ができるように教師が配慮すべきことについて、グループで話し合い自分の考えを深める。	予習 ^{90分} ：自分にとって、安心して話ができる場面とはどのような場面か考え、ノートにまとめる。 復習 ^{90分} ：小テストに解答する。面接の基本的技法を日常生活で使用して、改善点や感想を書き出す。
8	大	ロールプレイ 基本的な応答を使ったロー	ロールプレイを通し	予習 ^{90分} ：前回の授業のプリントを参考に面接のロールプレイができるように準備してくる。 90

第 回	澤 靖彦	ルプレイを行い、面接の基本を習得する。	て、面接の基本的技法を習得する。	復習 分：小テストに解答する。日常生活で学んだことを試してみて、自分の応答のクセや改善点について考える。
第9回	大澤 靖彦	発達段階の理解（発達段階、発達課題、愛着との関連） 発達段階とその段階に特徴的にみられる問題について理解する。	発達加速現象により、子ども時代が短くなることによって、子ども発達にどのような影響があるのかについて意見交換する。	予習90分：教科書p57～68を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。1年時の「心理学」で学んだ「発達」についてポイントを押さえておく。 復習90分：小テストに解答する。発達にかかわるさまざまな問題についてノートにまとめる。
第10回	大澤 靖彦	障害の理解（発達障害、不安障害等） 勉強についていけない子、友だちとうまくやれない子の背景について考えるとともに、その顕著な例としての発達障害について理解を深める。	学習障害の疑似体験を通して、児童生徒理解を深める。	予習90分：教科書p69～78を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：小テストに解答する。発達障害の特徴について整理してノートにまとめる。
第11回	大澤 靖彦	不登校の理解と対応 学校へ行けない子の背景について考えるとともに、不登校への対応について考える。	不登校という現象を通して児童生徒理解を深める。	予習90分：教科書p112～124を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：小テストに解答する。不登校を予防するために教師はどのような配慮をすればよいのかについてノートにまとめる。
第12回	大澤 靖彦	非行の理解と対応 非行にはしる子の背景について理解を深め、学校としてどのようなことができるかについて考える。さらに学級崩壊の背景を知ること子ども理解を深める	なぜ非行に走るのかについてグループで話し合い児童生徒理解を深める。	予習90分：教科書p126～148を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：小テストに解答する。新聞等で少年犯罪についてのトピックスを拾い出し、考究し、ノートにまとめる。
第13回	大澤 靖彦	いじめの理解と対応 ／ 教育相談における保護者への支援 いじめのメカニズムを理解することで現代の子どもの理解を深めるとともにその対応について考究する。	いじめがおこる背景についてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：教科書pp.149～162を熟読し、重要箇所にアンダーラインを引く。 復習90分：小テストに解答する。いじめを予防するためには教師はどのような配慮すればよいのかについてノートにまとめる。
第14回	大澤 靖彦	被虐待児の理解と対応 ／ チーム支援 被虐待児の特徴を理解し、点（一人の教師）ではなく面（チーム）で支えること	なぜ虐待が起こるのかについてグループで話し合い自分の考えを深める。	予習90分：なぜ虐待が起こるのか自分なりに仮説を立ててみる。 復習90分：攻撃性のコントロールができない被虐待児

		について考究する。		への対応について整理する。
第15回	大澤靖彦	まとめ／教師のメンタルヘルス		予習 ^{90分} ：14回までの小テストに目を通して確認テストの準備をする。 復習 ^{90分} ：小テストに解答する。教師のメンタルヘルスを維持し向上させるためには何が必要なのかについてノートに整理する。

教科書

石川正一郎・藤井泰 編 『エッセンス学校教育相談心理学』 北大路書房 2010年

参考書

文部科学省『生徒指導提要』2010年

成績評価の方法・基準

単位認定60点以上。

- ・授業への積極的参加30%、
- ・レポート課題30%、
- ・確認テスト40%の割合で、総合評価する。

課題等に対する

フィードバックの方法

レポートは返却するので学習の参考にすること。

小テストの答えは授業の始めに提示するので、必ず解答しておくこと。

履修のポイント

授業への積極的な取り組みを期待します。予習として各回の主題に該当する教科書の章に目を通すこと、復習として配布資料・ノートのまとめを復習として勧めます。

オフィス・アワー

水曜日・木曜日、12：30～13：20（昼休み）、11号館第8研究室。

※講義終了前後にも、適宜受け付けます。

科目区分

教職科目

講義コード	31050001
講義名	教職実践演習（中）（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で数年間にわたり、教員として働いた経験がある。その経験を生かして、生徒を巻き込む実践授業ができるよう、学生自身が主体的に企画した創作活動等を取り入れる。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	橋爪 博幸	指定なし
教員	田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の実施を踏まえて、学校教育のさまざまな場面で、教育者として対応できる実践力を養う。具体的には、栄養学、生活科学、芸術学の各教科の壁を取り払ったうえで、①食とパッケージデザイン作品づくり、②自己表現の表現方法の学び、③特別支援教育やキャリア教育など教科以外の指導の資質向上に関し議論する。履修カルテにより、教員としての実践的な能力を個別に把握し、個々の学生の教育指導力を高めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この演習では教育職という専門性の高い仕事について理解を深める。また栄養教諭になるための、実践的な指導能力を養う。教職科目のひとつであるが、生活科学科の教育目的・目標にある「実践を重視し、『健康』『栄養』の分野で活躍できる人材を育成する」点にもかかわる。みずから進んで、課題解決に努力し、他の学生と協調してレシピや作品づくりに取り組み、グループ内でアイデアを出し合い、それを発表できるまでのプロセスをたどる。

到達目標

実際の教育現場で、児童や生徒と向きあい、教科指導や生活指導、進路指導など多岐にわたる教員の仕事を理解し、一人の教員として自信をもって教壇に立つ心構えを持つことを目標とする。教職課程のいくつかの教科の中で総まとめの科目に相当するので、2年間にわたる教職課程の講義や実習を総合的に振り返り、小中学校における教育の理念や、各教科の教育方法について学んだことをまとめる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
	橋爪 博	教職実践演習のガイダンスを実施する。演習内容を理解し、小・中学校における教育の理念		復習に90分。授業時に配

第1回	幸田口和人	について理解する。『かがみの法則』を朗読する。野外体験学習を実施する際の交通手段調査を含む。		布されたプリントを熟読する。
第2回	橋爪博幸 田口和人	授業づくりに関する実践演習 ①教職課程の授業の振り返り、「履修カルテ」の記入	これまでの教職科目の授業を振り返り、1年次から手掛けている履修カルテの作成を進める。	履修カルテの見直しに90分、履修カルテの完成に向けての記入に90分を充てる。
第3回	橋爪博幸 田口和人	授業づくりに関する実践演習 ②生徒の関心をひきつける教材づくり	子どもたちの関心をひきつけ、飽きさせない授業はいかにすれば可能かを議論する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第4回	橋爪博幸 田口和人	野外体験学習（東毛自然少年の家） ①オリエンテーション	東毛少年自然の家に集合し、活動や諸注意について説明を聞く。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第5回	橋爪博幸 田口和人	野外体験学習（東毛自然少年の家） ②手打ちうどん作り体験	手打ちうどんづくりを実践する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第6回	橋爪博幸 田口和人	野外体験学習（東毛自然少年の家） ③火起こし体験	手を使う道具で、火おこしにチャレンジする。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第7回	橋爪博幸 田口和人	野外体験学習（東毛自然少年の家） ④オリエンテーリング	笠懸町を歩き、歴史や人々の生活状況に触れる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
	橋爪			

第8回	博幸 田口和人	オリジナルビジョンボード作成	個々の学生に模造紙を配布し、カラフルに未来像を描く。	予習に90分、復習に90分。次回の授業までに自身のビジョンボードを完成させて持参する。
第9回	橋爪 博幸 田口和人	学校における経済活動と金銭についての教育	小・中学校における金銭教育の現状を知り、貧困を回避し、経済面で自立した人材をいかにすれば育成できるかを議論する。	事前準備に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第10回	橋爪 博幸 田口和人	オリジナルビジョンボード発表	各自で作成したオリジナルビジョンボードを掲げて発表し、意見交換を行う。	オリジナルビジョンボードの発表準備（180分）。振り返りに90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第11回	橋爪 博幸 田口和人	小・中学校における「生き方」教育	LGBT（性の多様性）、進路やキャリアに関する資料を皆で熟読し、ひとりひとりが納得のいく人生設計はいかにすれば可能であるかを議論する。	LGBTや教員のキャリアについての補足資料を熟読する（180分）。
第12回	橋爪 博幸 田口和人	「学校の危機管理―学校事故・自然災害への適正な対応―」学校づくりのに関する実践演習	災害時における学校現場での対応について議論する。	現代の教育問題について事前に調査する（180分）。
第13回	橋爪 博幸 田口和人	映画「学校」の視聴①		映画『みんなの学校』について事前学習をしておく（120分）。特別支援教育の予習に60分、授業の復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第14回	橋爪 博幸 田口和人	映画「学校」視聴② 映画を通じて、さまざまな教育の場、あるいは学びの場があることを知る		予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
	橋			

第15回	爪 博 幸 田 口 和 人	求められる教師像と学校づくりの視点の整理、教職課程授業の振り返り	実践演習で学んだことや、2年間の教職課程を振り返り、反省点や改善点等についてまとめ発表する。	復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
------	---------------------------------	----------------------------------	--	----------------------------

教科書

必要な時に提示する。

参考書

授業内で、必要な時に提示する。

成績評価の方法・基準

100点満点で、60点以上で単位認定する。授業への取り組み状況（30%）、レポートの提出（70%）で評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

提出されたレポートは確認後、補足説明やコメントを付して返却する。口頭発表やグループ討議の結果発表を行い、演習の中で随時、教員からコメント等を伝える。この返答をもってフィードバックとみなす。

履修のポイント

演習科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べること、他の学生たちと協力する姿勢で授業に臨むことが大切である。

オフィス・アワー

月曜日の昼休みをオフィスアワーとします。9号館3階 第6研究室に来てください。

科目区分

教職科目

講義コード	31060001
講義名	教職実践演習（栄養教諭）（栄養）
(副題)	【教職必修（栄養）】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	後期
講義区分	演習
基準単位数	2
代表曜日	火曜日
代表時限	5時限
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校で数年間にわたり、教員として働いた経験がある。その経験を生かして、生徒を巻き込む実践授業ができるよう、学生自身が主体的に企画した創作活動等を取り入れる。
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	橋爪 博幸	指定なし
教員	田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の実施を踏まえて、学校教育のさまざまな場面で、教育者として対応できる実践力を養う。具体的には、栄養学、生活科学、芸術学の各教科の壁を取り払ったうえで、①食とパッケージデザイン作品づくり、②自己表現の表現方法の学び、③特別支援教育やキャリア教育など教科以外の指導の資質向上に関し議論する。履修カルテにより、教員としての実践的な能力を個別に把握し、個々の学生の教育指導力を高めることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

この演習では教育職という専門性の高い仕事について理解を深める。また栄養教諭になるための、実践的な指導能力を養う。教職科目のひとつであるが、生活科学科の教育目的・目標にある「実践を重視し、『健康』『栄養』の分野で活躍できる人材を育成する」点にもかかわる。みずから進んで、課題解決に努力し、他の学生と協調してレシピや作品づくりに取り組み、グループ内でアイデアを出し合い、それを発表できるまでのプロセスをたどる。

到達目標

実際の教育現場で、児童や生徒と向きあい、教科指導や生活指導、進路指導など多岐にわたる教員の仕事を理解し、一人の教員として自信をもって教壇に立つ心構えを持つことを目標とする。教職課程のいくつかの教科の中で総まとめの科目に相当するので、2年間にわたる教職課程の講義や実習を総合的に振り返り、小中学校における教育の理念や、各教科の教育方法について学んだことをまとめる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
	橋爪 博	教職実践演習のガイダンスを実施する。演習内容を理解し、小・中学校における教育の理念		復習に90分。授業時に配

第1回	幸田口和人	について理解する。『かがみの法則』を朗読する。野外体験学習を実施する際の交通手段調査を含む。		布されたプリントを熟読する。
第2回	橋爪博幸田口和人	授業づくりに関する実践演習 ①教職課程の授業の振り返り、「履修カルテ」の記入	これまでの教職科目の授業を振り返り、1年次から手掛けている履修カルテの作成を進める。	履修カルテの見直しに90分、履修カルテの完成に向けての記入に90分を充てる。
第3回	橋爪博幸田口和人	授業づくりに関する実践演習 ②生徒の関心をひきつける教材づくり	子どもたちの関心をひきつけ、飽きさせない授業はいかにすれば可能かを議論する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第4回	橋爪博幸田口和人	野外体験学習（東毛自然少年の家） ①オリエンテーション	東毛少年自然の家に集合し、活動や諸注意について説明を聞く。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第5回	橋爪博幸田口和人	野外体験学習（東毛自然少年の家） ②手打ちうどん作り体験	手打ちうどんづくりを実践する。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第6回	橋爪博幸田口和人	野外体験学習（東毛自然少年の家） ③火起こし体験	手を使う道具で、火おこしにチャレンジする。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第7回	橋爪博幸田口和人	野外体験学習（東毛自然少年の家） ④オリエンテーリング	笠懸町を歩き、歴史や人々の生活状況に触れる。	予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
	橋爪			

第8回	博幸 田口和人	オリジナルビジョンボード作成	個々の学生に模造紙を配布し、カラフルに未来像を描く。	予習に90分、復習に90分。次回の授業までに自身のビジョンボードを完成させて持参する。
第9回	橋爪 博幸 田口和人	学校における経済活動と金銭についての教育	小・中学校における金銭教育の現状を知り、貧困を回避し、経済面で自立した人材をいかにすれば育成できるかを議論する。	事前準備に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第10回	橋爪 博幸 田口和人	オリジナルビジョンボード発表	各自で作成したオリジナルビジョンボードを掲げて発表し、意見交換を行う。	オリジナルビジョンボードの発表準備（180分）。振り返りに90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第11回	橋爪 博幸 田口和人	小・中学校における「生き方」教育	LGBT（性の多様性）、進路やキャリアに関する資料を皆で熟読し、ひとりひとりが納得のいく人生設計はいかにすれば可能であるかを議論する。	LGBTや教員のキャリアについての補足資料を熟読する（180分）。
第12回	橋爪 博幸 田口和人	「学校の危機管理―学校事故・自然災害への適正な対応―」学校づくりのに関する実践演習	災害時における学校現場での対応について議論する。	現代の教育問題について事前に調査する（180分）。
第13回	橋爪 博幸 田口和人	映画「学校」の視聴①		映画『みんなの学校』について事前学習をしておく（120分）。特別支援教育の予習に60分、授業の復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
第14回	橋爪 博幸 田口和人	映画「学校」視聴② 映画を通じて、さまざまな教育の場、あるいは学びの場があることを知る		予習に90分、復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
	橋			

第15回	爪 博 幸 田 口 和 人	求められる教師像と学校づくりの視点の整理、教職課程授業の振り返り	実践演習で学んだことや、2年間の教職課程を振り返り、反省点や改善点等についてまとめ発表する。	復習に90分。授業時に配布されたプリントを熟読する。
------	---------------------------------	----------------------------------	--	----------------------------

教科書

必要な時に提示する。

参考書

授業内で、必要な時に提示する。

成績評価の方法・基準

100点満点で、60点以上で単位認定する。授業への取り組み状況（30%）、レポートの提出（70%）で評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

提出されたレポートは確認後、補足説明やコメントを付して返却する。口頭発表やグループ討議の結果発表を行い、演習の中で随時、教員からコメント等を伝える。この返答をもってフィードバックとみなす。

履修のポイント

演習科目であるため、グループ学習、口頭発表等で自分から進んで意見を述べること、他の学生たちと協力する姿勢で授業に臨むことが大切である。

オフィス・アワー

月曜日の昼休みをオフィスアワーとします。9号館3階 第6研究室に来てください。

科目区分

教職科目

講義コード	31070001
講義名	事前・事後指導（家庭）（R5入学生）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	講義
基準単位数	1
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	有
実務経験のある教員の経歴と授業内容	高等学校等で授業を担当した経験をもとに、実践的な授業を展開する。
学年	1学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

家庭科教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を習得し、教育実習における学習指導案、指導用教材の作成技術、授業展開の技術を身につけることを目標とする。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。将来的には取得した資格を生かせることをめざす。

到達目標

家庭科教育実習に対応できる資質・知識を身に着ける。実習校で教諭として対応できる態度等を身に着ける。学校の先生方や児童・生徒とのかかわり方を理解する。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪博幸	授業計画、成績評価 教育実習（目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守） 実習校、日程等個別指導		予習（教育実習に向けて準備）に90分
第2回	橋爪博幸	実習前の不安と期待の共有 教育実習ノートの記入方法 評価と指導の一体化		復習に120分、予習に60分以上
第3回	橋爪博幸	教材研究の方法 基本技術（板書、話し方、発問、机間巡視の方法、ノート指導等）		予習（授業内容について理解しておく、ノートにまとめ）に180分以上

第4回	橋爪博幸	模擬授業の練習 教材作り アクティブラーニング：学習指導案に関する個別指導等を実施する。		予習（学習指導案、教材準備等）に180分以上
第5回	橋爪博幸	模擬授業の練習 教材作り 学習指導案に関する個別指導、礼状の書き方	お世話になった学校にあててお礼状を書く。	予習（学習指導案、教材準備等）に180分以上
第6回	橋爪博幸	教育実習体験の発表準備 教育実習体験の発表準備 次回の合同報告会の準備	各自の教育実習報告を実施し、報告会にむけて準備する。	予習（教育実習体験の発表準備のため）に180分以上
第7回	橋爪博幸	教育実習体験の発表	各自の教育実習報告を実施する。	予習（教育実習体験の発表準備のため）に180分以上
第8回	橋爪博幸	教育実習報告会		復習まとめ（教育実習ノート等の整理）に180分

教科書

必要に応じて資料を配布する

参考書

小学校 学習指導要領の展開 明治図書
家庭科教育法 高陵社書店

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。レポート、課題等で評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

授業内でレポートや課題を課すことがある。返却するので学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習の積み重ねが知識を身につける力になり、課題等の対策につながるものとなります。授業への積極的な取り組む態度が後の教育実習の成果になるものと期待します。

オフィス・アワー

月曜日12：30～13：20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。9号館3階 第6研究室にきてください。

科目区分

教職科目

講義コード	31080001
講義名	教育実習（家庭）
(副題)	【教職必修（家庭）】
開講責任部署	生活科学科
代表ナンバリングコード	
講義開講時期	前期
講義区分	実習
基準単位数	4
代表曜日	
代表時限	
必修/選択	選択
実務経験のある教員の有無	無
実務経験のある教員の経歴と授業内容	
学年	2学年

担当教員

職種	氏名	所属
教員	橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の事前指導を踏まえ、3週間にわたる教育実習に取り組む。中学校という教育現場での活動全般を観察し、先生方の指導や生徒の反応の実際について学ぶ。栄養教諭の役割について、子どもたちとの関わりや研究授業を通じて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

家庭科教員であることを自覚したうえで、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性（家庭科）を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員という三つの観点で合格点を得ることを到達目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪 博幸	実習校で校長先生ほか、多くの先生の指導のもと、「主体的、対話的で深い学び」を得る。	授業参観、HRの活動観察、模擬授業などをみずから進んで行う。	教育実習に向けて準備に180分
第2回	橋爪 博幸	実習校で校長先生ほか、多くの先生の指導のもと、「主体的、対話的で深い学び」を得る。	授業参観、HRの活動観察、模擬授業などをみずから進んで行う。	教育実習に向けて準備に180分
3	橋爪	実習校で校長先生ほか、多くの先生の指	授業参観、HRの活動観察、	教育実習に

第 回	博幸	導のもとに、「主体的、対話的で深い学び」を得る。	模擬授業などをみずから進んで行う。	向けて準備に180分
第4回	橋爪博幸	実習校で校長先生ほか、多くの先生の指導のもとに、「主体的、対話的で深い学び」を得る。	授業参観、HRの活動観察、模擬授業などをみずから進んで行う。	教育実習に向けて準備に180分
第5回	橋爪博幸	実習校で校長先生ほか、多くの先生の指導のもとに、「主体的、対話的で深い学び」を得る。	授業参観、HRの活動観察、模擬授業などをみずから進んで行う。	教育実習に向けて準備に180分

教科書

必要時に資料等を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。レポート、課題等で評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

実習ノートを返却するので、それをもとに教育実習を振り返る。

履修のポイント

実習には無遅刻、無欠勤を目標にして臨む。

オフィス・アワー

毎週水曜日、昼休み12:30から13:20までをオフィス・アワーとする。

科目区分

教職科目

講義コード	31090001	
講義名	栄養教育実習事前・事後指導（栄養）R5入	
(副題)	【教職必修（栄養）】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	講義	
基準単位数	1	
代表曜日		
代表時限		
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	栄養教諭の実務経験あり	
学年	2学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	野沢 弘子	指定なし
教員	橋爪 博幸	指定なし

授業の概要と教育目標

栄養教諭として必要な資質・能力として基礎的な知識を身につけ、人間の生活に必要な諸事項のうち、学校において計画的に指導する必要があるものを系統的に実施する。そこで、教育実習では、児童・生徒を取り巻く課題を踏まえ、栄養教諭としての使命や職務内容の重要性を理解させ、学校において「人間生活に関する指導」が学校教育活動の中で実施できるように試みる。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連として、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる事柄について、現場で実践的に活用し、問題を解決できる能力を修得する。将来的には食の専門家として社会で生かせることをめざす。

到達目標

栄養教育実習に対応できる資質・知識を身につける。児童・生徒の体験・経験を踏まえた授業内容を実践できるような知識、技術を習得する。
児童生徒との関わりを方を理解し、教育実習を成功させることを目標とする。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	野沢 弘子	○授業計画、評価方法 ○教育実習の目的、準備、心構え、教員服務基準の遵守 ○実習に臨むにあたっての不安と期待 ○各自の実習予定と個別	指導案を活用して模擬授業を行い、お互いに意見交換をする。	復習120分以上：教育実習準備

		指導時間の調整		
第2回	野沢弘子	○教育実習日誌の記録方法	より良い教育実習日誌の書き方について情報交換をする。	予習60分(資料を読んでおく)、復習120分以上
第3回	野沢弘子	○教材研究の方法 ○基本技術(板書、話し方、発問、指名、机間巡視、ノート指導)		予習60分、復習120分以上
第4回	野沢弘子	○模擬授業 ○学習指導案に関する個別指導	指導案を活用して模擬授業を行い、お互いに意見交換をする。	予習60分、復習120分以上
第5回	野沢弘子	○教育実習への準備・模擬授業 ○礼状の書き方		予習60分、復習120分以上
第6回	野沢弘子	○教育実習前準備(指導案・教材作成)		復習、教育実習ノートの記入のために、1日120分以上
第7回	野沢弘子	○教育実習体験の発表準備	各自の教育実習報告をする。またより良い報告会のための準備としての意見交換を実施する。	予習60分、復習120分
第8回	野沢弘子	○教育実習体験の発表 ○他者評価と自己反省		予習180分以上
第9回				
第10回				

教科書

随時資料の配布

参考書

栄養教諭は何をすべきか ぎょうせい
 栄養教諭養成における 実習の手引き 東山書房
 新時代の栄養教育実践 同文書院

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上 課題・レポート等で100%

課題等に対する フィードバックの方法

授業内で課題やレポートを課すことがあるので、返却後、学習の参考にする。

履修のポイント

予習・復習をしっかりと行い課題を完成させることで、知識が身につく、教員としての意識を持ち、積極的に取り組むことで、教育実習の実践に結び付けることができる。

オフィス・アワー

集中講義 授業終了後

科目区分

教職科目

講義コード	31100001	
講義名	栄養教育実習（栄養）	
(副題)	【教職必修（栄養）】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	通年	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
代表曜日		
代表時限		
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	無	
実務経験のある教員の経歴と授業内容		
学年	1学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	橋爪 博幸	指定なし
教員	野沢 弘子	指定なし

授業の概要と教育目標

教育実習の事前指導を踏まえ、5日間の教育実習に取り組む。小学校という教育現場での活動全般を観察し、先生方の指導や生徒の反応の実際について学ぶ。栄養教諭の役割について、子どもたちとの関わりや研究授業を通じて学ぶ。

卒業認定・学位授与の方針との関連

短期大学部生活科学科のディプロマ・ポリシーとの関連について、「人間のからだ」「食品」「栄養」に関する学修を総合的に理解し、「健康・栄養」にかかわる学校現場で実践的に活用し、また問題を解決できる能力を習得する。近い将来に、取得した免許を生かせることを念頭におく。

到達目標

実習校で教諭として、子どもたちに対応できる態度等を身に着ける。児童とのかかわり方を理解し、教育実習を無遅刻、無欠勤で勤めあげる。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	アクティブラーニングの内容	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	橋爪 博幸 野沢 弘子	実習校で校長先生ほか、多くの先生の指導のもとに、「主体的、対話的で深い学び」を得る。	授業参観、HRの活動観察、模擬授業などをみずから行う。	教育実習に向けて準備に180分
	橋爪			

第2回	博幸 野沢弘子	実習校でのクラス担任の先生などの指導のもとに、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	授業参観、HRの活動観察、模擬授業などをみずから行う。	教育実習に向けて準備に180分
第3回	橋爪博幸 野沢弘子	実習校でのクラス担任の先生などの指導のもとに、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	授業参観、HRの活動観察、模擬授業などをみずから行う。	教育実習に向けて準備に180分
第4回	橋爪博幸 野沢弘子	実習校でのクラス担任の先生などの指導のもとに、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	授業参観、HRの活動観察、模擬授業などをみずから行う。	教育実習に向けて準備に180分
第5回	橋爪博幸 野沢弘子	実習校でのクラス担任の先生などの指導のもとに、「主体的、対話的で深い学び」を目指す。	授業参観、HRの活動観察、模擬授業などをみずから行う。	教育実習に向けて準備に180分

教科書

必要に応じて資料等を配布する。

成績評価の方法・基準

単位認定 60点以上。レポート、課題等で評価する。

課題等に対する フィードバックの方法

実習ノートを仕上げて提出する。実習後、実習校の校長先生などのチェックを受け、教職担当教員に提出する。

履修のポイント

学校現場での先生方からの指導を素直に受け入れ、一日の振り返りを欠かさず行うこと。

オフィス・アワー

月曜日12:30～13:20（お昼休み）または、講義終了後 適宜受け付けます。9号館3階 第6研究室にきてください。

科目区分

教職科目

講義コード	31110001	
講義名	介護等体験実習（家庭）（R5入）	
(副題)	【教職必修（家庭）】	
開講責任部署	生活科学科	
代表ナンバリングコード		
講義開講時期	後期	
講義区分	実習	
基準単位数	1	
代表曜日		
代表時限		
必修/選択	選択	
実務経験のある教員の有無	有	
実務経験のある教員の経歴と授業内容	学校現場での特別支援学級担任などの教員経験を活かし、障がい者、高齢者、支援を必要とする児童生徒との交流等から学ぶ姿勢を身に付け、深められる授業を展開する。	
学年	1学年	
担当教員		
職種	氏名	所属
教員	橋爪 博幸	指定なし
教員	田口 和人	指定なし

授業の概要と教育目標

教職免許を取得するにあたり、「社会福祉施設等において障害者、高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験」が義務づけられています。この主旨は、教員を志望する者が介護等の体験を通じて、「個人の尊厳や社会連帯の理念に関する認識を深めること」により、教員としての資質の向上を図ろうとするところにあります。この主旨を十分に理解して、「体験実習」に望むこと。

卒業認定・学位授与の方針との関連

人間を対象とする教育職員の役割を念頭に置いて、社会・環境・コミュニケーションについての認識を深める。また、多様な社会のニーズ、変化に対応できるように、自らの「資質・能力」を高めることに努める。

到達目標

社会的弱者の存在や生活を認識・了解した教員像をめざすにあたり、①豊かな人間性とコミュニケーション能力を有する教員、②幅広い視野と高い専門性を有する教員、③社会人としての優れた識見を有する教員、の三つの観点を到達目標とします。

授業計画

	担当者	授業内容と方法、課題	予習・復習と そのために必要な時間
第1回	田口 和人 橋爪 博幸	社会福祉施設等での障害者・高齢者の実情を踏まえ、介護や介助、交流等について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第2回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第3回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。

第4回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第5回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第6回		社会福祉施設での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第7回	田口和人 橋爪博幸	5日間の体験実習について報告する。	報告の準備をする。他の報告者の話を聞く。
第8回	田口和人 橋爪博幸	特別支援学校での児童・生徒の学習や生活について学ぶ。	社会保障制度、社会的弱者の実情について調べる。
第9回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第10回		特別支援学校での指導の下、「介護や介助、交流等」に積極的に取り組む。	体験実習に向けて、予習・復習をしっかりと行なう。
第11回	田口和人 橋爪博幸	2日間の体験実習についてレポートを提出する。	体験実習をよく振り返ること。

教科書

事前指導においては、資料を配付します。

参考書

『新版・よくわかる社会福祉施設』全国社会福祉協議会
『特別支援学校における介護等体験ガイドブック フィリア』全国特別支援学校長会編

成績評価の方法・基準

体験実習先の評価による。

課題等に対する フィードバックの方法

実習ノートを返却するので、それをもとに体験実習を振り返る。

履修のポイント

主体的、対話的で深い学びを期待します。

オフィス・アワー

火曜日・木曜日12：30～13：20（昼休み） 11号館第7研究室

科目区分

教職科目